YAMAHA

J

AVENTAGE

AV レシーバー

RX-A850

取扱説明書

ご使用前に「安全上のご注意」（140ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「かんたん設置ガイド」が付属しています。はじめに「かんたん設置ガイド」をご覧ください。
本書および「かんたん設置ガイド」は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

目次

商標 5
付属品を確認する 6

本機の特長 7

本機でできること 7
便利なアプリケーション 9
各部の名称 10
前面 10
前面ディスプレイ（インジケーター） 11
背面 12
リモコン 14

準備する 15

使用までの基本的な流れ 15
1 スピーカーを配置する 16
2 スピーカーを接続する 21
バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する 23
入出力端子とケーブル 24
3 テレビを接続する 25
4 再生機器を接続する 27
ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど） 27
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど） 30
本体前面の端子に接続する 30
5 FM/AM アンテナを接続する 31
6 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする 32
ネットワークケーブルを接続する 32
無線アンテナを準備する 32
7 その他の機器を接続する 33
外部パワーアンプを接続する 33
トリガー機能対応の機器を接続する 33
8 電源コードを接続する 34
9 スピーカー設定を行う 35
10 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO） 36
測定前の準備 36
1 か所で測定する（シングル測定） 38
複数の視聴位置で測定する（マルチ測定） 39
測定結果を確認する 41
最後に保存した YPAO 補正値に戻す 41
エラーメッセージ 42
警告メッセージ 43
11 無線ネットワーク機器に接続する 44
接続方法を選ぶ 44
無線ネットワークに接続する 45
モバイル機器を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト） 50

再生する 52

再生の基本操作 52
HDMI 出力端子を切り替える 52
入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能） 53
シーン機能の登録内容を変更する 53
好みのサウンドを選ぶ 54
立体的な音場を楽しむ（シネマ DSP 3D） 55
音場効果をかけずに再生する 57
原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクト） 58
圧縮音源をダイナミック再生する（ミュージックエンハンサー） 58
FM/AM ラジオを聴く 59
周波数を指定して選局する 59
お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット） 59
テレビ画面でラジオを操作する 60
Bluetooth で音楽を聴く 62
Bluetooth 機器の曲を本機で再生する 62

iPod の曲を再生する.....63
iPod を接続する 63
iPod の曲を選ぶ 63
USB 機器の曲を再生する 66
USB 機器を接続する 66
USB 機器の曲を選ぶ 66
パソコン（サーバー）の曲を再生する 69
メディアの共有設定を行う 69
パソコン（サーバー）の曲を選ぶ..... 70
インターネットラジオを聴く 72
インターネットラジオ局を選ぶ..... 72
お気に入りのインターネットラジオ局を登録する（ブックマーク）..... 74
AirPlay で音楽を聴く 75
iTunes/iPod で曲を再生する..... 75
複数の部屋で音楽を楽しむ（マルチゾーン）.....77
ゾーン 2 を準備する 77
ゾーン 2 を操作する 79
すべての部屋で同じ音楽を聴く（パーティーモード）..... 80
お気に入りのコンテンツを登録する（ショートカット）.....81
コンテンツを登録する 81
登録したコンテンツを呼び出す 81
ウェブブラウザーで本機を操作する（ウェブコントロール）.....82
現在の状態を確認する 85
前面ディスプレイの表示を切り替える..... 85
テレビ画面でステータス情報を確認する..... 85
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）.....86
オプションメニューでできること..... 86

設定する 90

入力の設定を変更する（入力選択メニュー）.....90
入力選択メニューでできること 90
シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）.....92
シーン選択メニューでできること 93
音場プログラム / サラウンドデコーダーの設定を変更する（DSP プログラムメニュー）.....94
DSP プログラムメニューでできること..... 95
詳細機能を設定する（設定メニュー）.....97
設定メニューでできること 98
スピーカー設定（手動設定）..... 100
音声設定 103
映像設定 105
HDMI 設定 106
ネットワーク設定..... 107
Bluetooth 設定 109
マルチゾーン設定..... 110
ファンクション設定..... 111
エコ設定 112
表示言語 113
情報を確認する（情報メニュー）.....113
情報の種類..... 114
システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）.....115
アドバンスドセットアップメニューでできること 115
スピーカーインピーダンス設定の変更（SP IMP.）..... 116
リモコン ID の変更（REMOTE ID）..... 116
ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）..... 116
HDMI 映像出力の制限解除（MON.CHK）..... 116
HDMI 4K 信号のフォーマット設定（4K MODE）..... 117
設定の初期化（INIT）..... 117
ファームウェアの更新（UPDATE）..... 117
ファームウェアバージョンの確認（VERSION）..... 117
ネットワーク経由で本機のファームウェアを更新する.....118

付録 119

こんな場合の解決方法 119

故障かな？と思ったら 120

電源 / システム / リモコン 120

音声 121

映像 123

FM/AM ラジオ 124

Bluetooth 125

USB/ ネットワーク 126

前面ディスプレイのエラー表示 128

理想的なスピーカー配置 129

用語 / 技術解説 130

音声に関する用語 130

HDMI/ 映像に関する用語 132

ネットワークに関する用語 132

ヤマハテクノロジー 132

本機が対応している機器 / ファイル形式 133

映像信号の流れ 134

HDMI について 135

HDMI コントロール 135

オーディオリターンチャンネル（ARC） 136

本機が対応している HDMI 信号 136

主な仕様 137

安全上のご注意 140

索引 144

商標

DOLBY ATMOS®

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Surround、Pro Logic、Surround EX およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD Master Audio

DTS の特許に関しては http://patents.dts.com をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。DTS、DTS-HD、それらのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合せは、DTS 社の登録商標です。DTS-HD Master Audio は DTS, Inc. の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

Made for iPod iPhone

AirPlay

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod または iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod または iPhone と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iTunes、AirPlay、iPhone、iPod、iPod nano、iPod touch、Safari は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

Bluetooth®

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

***Bluetooth* プロトコルスタック（Blue SDK）**

© 1999-2014 OpenSynergy GmbH
All rights reserved. All unpublished rights reserved.

Network

本機はネットワーク接続に対応しています。

HDMI
HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

dlna CERTIFIED

DLNA™ および DLNA CERTIFIED™ はデジタルリビングネットワークアライアンスの登録商標です。無断使用は固く禁じられています。

Windows™

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Android™　　Google Play™

Android および Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。

ブルーレイは Blu-ray Disc Association の商標です。

Wi Fi CERTIFIED

Wi-Fi PROTECTED SETUP

Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
Wi-Fi Protected Setup マークは Wi-Fi Alliance のマークです。

SILENT™ CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

Google Noto Fonts

この製品には Apache 2.0 ライセンスで配布されている製作物が含まれています。
Copyright © 2012 Google Inc. All rights reserved.
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

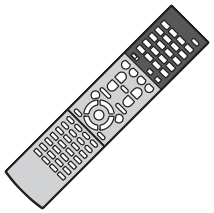
GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。
お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。
GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、以下の弊社ウェブサイトをご覧ください。
http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/

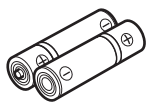
付属品を確認する

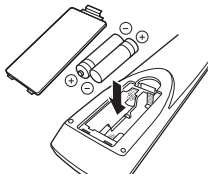
すべて揃っていることをお確かめください。

□リモコン



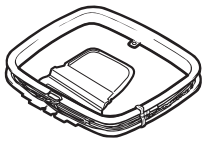
□単 4 乾電池（2 本）





正しい向き（＋と－）でリモコンに入れてください。

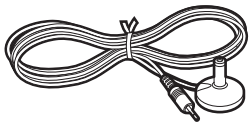
□AM アンテナ



□FM アンテナ



□YPAO 用マイク



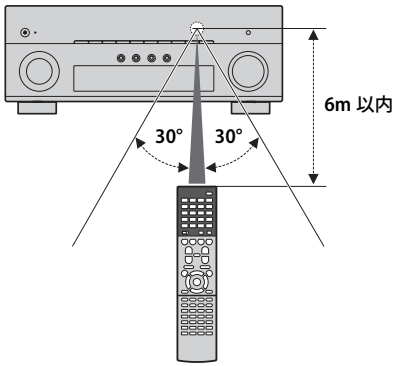
□電源コード



□取扱説明書（本書）
□かんたん設置ガイド

リモコンの操作範囲

- 本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



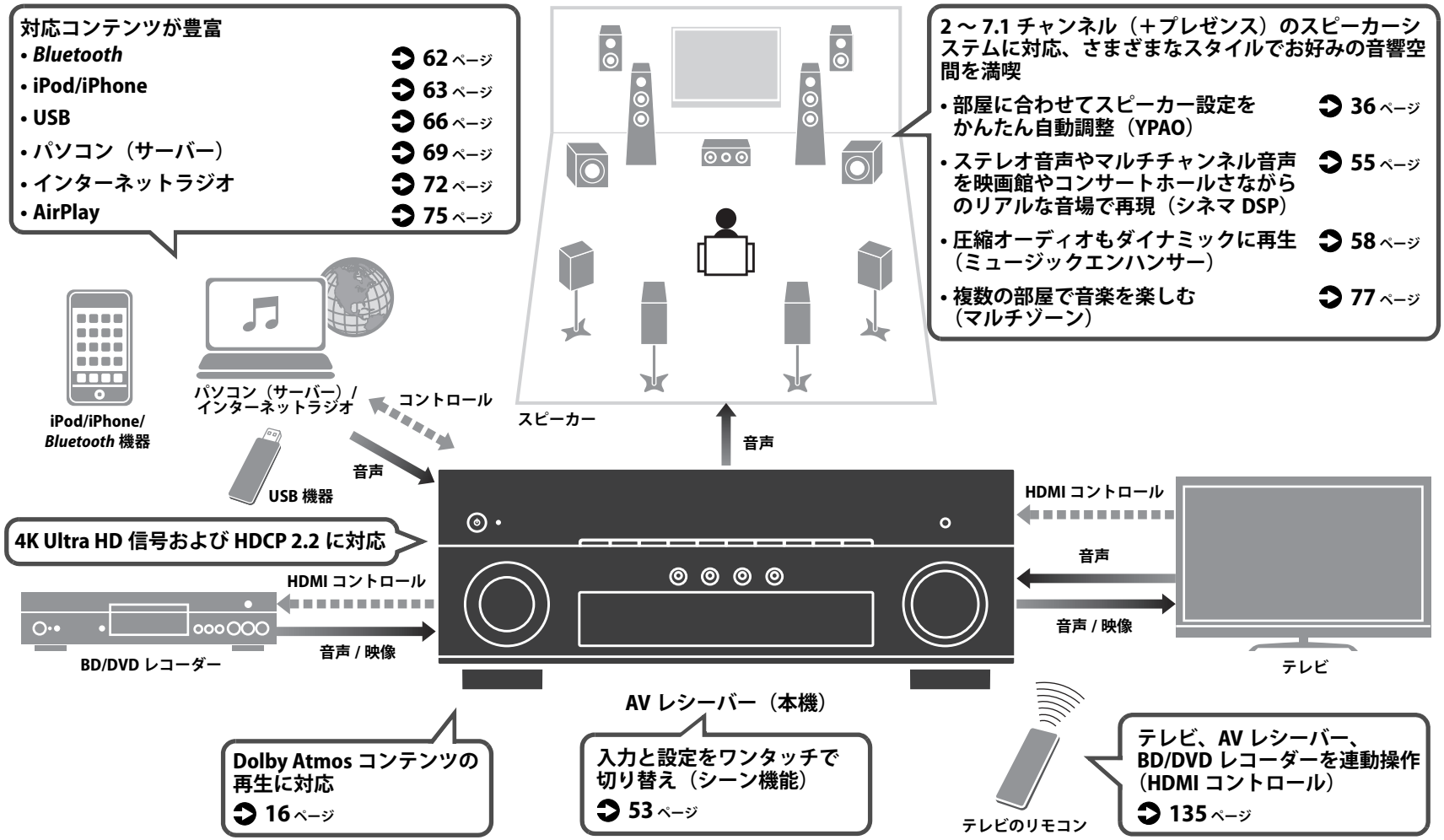
- 製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書は付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本書は iPod および iPhone を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod および iPhone を意味します。
- 本書で使用されている記号

使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本機の特長

本機でできること



便利な機能が満載！

❑ さまざまな外部機器を接続（27 ページ）

本機には、複数の HDMI 端子に加えて各種の入力 / 出力端子が装備されているので、BD/DVD レコーダーなどのビデオ機器、CD プレーヤーやレコードプレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機やビデオカメラなどさまざまな外部機器を接続できます。

❑ HDMI ケーブル 1 本でテレビ音声もサラウンド再生（オーディオリターンチャンネル：ARC）（25 ページ）

ARC 対応のテレビをお使いの場合は、HDMI ケーブル 1 本でテレビへの映像出力、テレビからの音声入力、HDMI コントロール信号の伝送がすべて可能です。



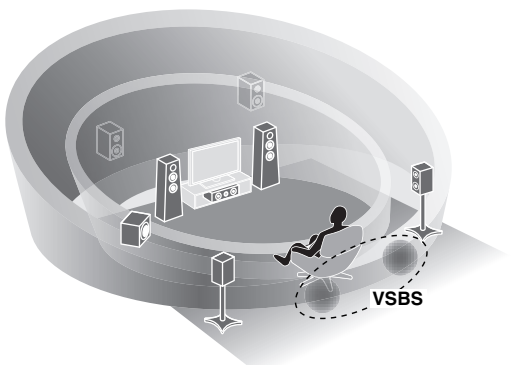
❑ 無線ネットワーク接続に対応（44 ページ）

本機は Wi-Fi 機能に対応しているので、ケーブルなしで無線ルーター（アクセスポイント）に接続できます。さらにワイヤレスダイレクト機能により、ルーターを経由せずに、本機とモバイル機器を無線で接続することも可能です。



❑ 臨場感豊かな音の空間を再現（55 ページ）

シネマ DSP により、自然で臨場感豊かな視聴空間を創り出します。プレゼンススピーカーなしでも、バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）により、3D サラウンドを実現します。またサラウンドバックスピーカーなしでも、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を創り出し、後方奥行き感ある視聴空間を実現します。



❑ 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生（56 ページ）

部屋の後方に設置スペースがない場合など、サラウンドスピーカーを前方に設置して、マルチチャンネル再生を楽しめます（バーチャルシネマフロント）。

❑ エコ機能で消費電力を低減（112 ページ）

エコモードを設定することで消費電力を低減できます。

こんな場合はどうするの！？

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせが外部機器と合わない ...
「入力選択メニュー」の「音声出力」で、本機の入力端子の組み合わせを、外部機器の出力端子にあわせて変更できます（28 ページ）。

テレビの映像とスピーカーの音声がずれている ...
「設定メニュー」の「リップシンク」で、映像と音声の出力タイミングを調整できます（103 ページ）。

テレビのスピーカーから音声を出力したい ...
「設定メニュー」の「音声出力」で、本機に入力された音声の出力先を設定できます（106 ページ）。

低音にもっと迫力がほしい ...
「オプション」メニューの「エクストラベース」を「オン」にすることで、より豊かな低音を楽しめます（88ページ）。

オンスクリーンメニューの表示言語を変更したい ...
「設定メニュー」の「表示言語」で、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、イタリア語、中国語のいずれかを選べます（113ページ）。

ファームウェアを更新したい ...
「アドバンスドセットアップメニュー」の「UPDATE」で、本機のファームウェアを更新できます（117 ページ）。
本機がインターネットに接続されている場合は、ファームウェアの更新が可能になるとテレビ画面にメッセージが表示されます（118 ページ）。

ほかにも本機をカスタマイズする設定がたくさんあります。詳しくは以下のページをご覧ください。

- 入力の設定（90 ページ）
- シーン機能の設定（92 ページ）
- 音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定（94 ページ）
- 各種機能の設定（97 ページ）
- 各種情報（音声信号、映像信号など）の確認（113ページ）
- システム設定（115 ページ）

便利なアプリケーション

■ AV CONTROLLER

「AV CONTROLLER」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、Wi-Fi 経由でヤマハ製ネットワーク機器を操作するためのアプリケーションです。電源操作（入 / 切）や音量調節などの基本操作をはじめ、入力ソースの切替えや曲の再生操作など、さまざまな操作に対応しています。

主な機能

- 電源操作（入 / 切）、音量調節
- 入力、シーン、音場プログラムの選択
- サウンド設定
- 再生操作（一部の入力では曲の選択も可能）

- **詳しくは、App Store または Google Play で「AV CONTROLLER」を検索してください。**

■ AV SETUP GUIDE（タブレット用）

「AV SETUP GUIDE」は AV レシーバーと再生機器のケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に行うためのアプリケーションです。スピーカー、テレビ、再生機器の接続やスピーカーシステムの設定などをガイドにしたがって進めることができます。

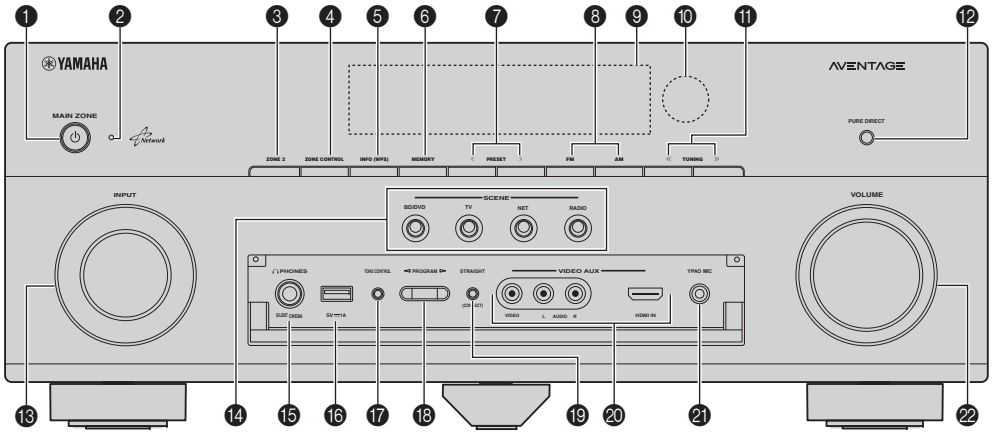
主な機能

- 接続ガイド（スピーカー、テレビ、再生機器の接続）
- 設定ガイド（YPAO 測定、イラストによる各種設定サポート）
- 取扱説明書の閲覧

- **詳しくは、App Store または Google Play で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。**

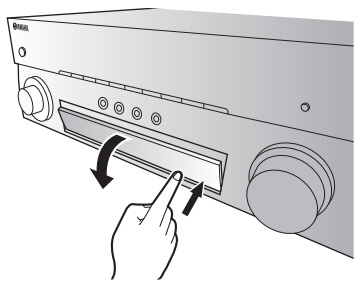
各部の名称

前面



前面カバーを開閉する

- カバー内部のキーや端子を使うときは、カバーの下側をそっと押してカバーを開いてください。使わないときは閉じてください。（指をはさまないようご注意ください。）



❶ **MAIN ZONE ⏻（メインゾーン電源）キー**
電源を入 / 切（スタンバイ）します。

❷ **スタンバイ表示**
本機がスタンバイ時、以下のいずれかの状態で点灯します。
- HDMI コントロールが有効（106 ページ）
- スタンバイスルーが有効（107 ページ）
- ネットワークスタンバイが有効（108 ページ）
- Bluetooth スタンバイが有効（109 ページ）
- iPod の充電中（63 ページ）

❸ **ZONE2（ゾーン 2）キー**
ゾーン 2 出力を有効 / 無効にします（79 ページ）。

❹ **ZONE CONTROL（ゾーンコントロール）キー**
ゾーン 2 出力が有効なときに、前面のキーやつまみで操作するゾーン（メインゾーン、ゾーン 2）を切り替えます（79 ページ）。

❺ **INFO（WPS）（インフォ［WPS］）キー**
前面ディスプレイの表示を切り替えます（85 ページ）。
3 秒間押し続けると、無線ルーターの WPS ボタンを使って無線ネットワーク接続の設定ができます（47 ページ）。

❻ **MEMORY（メモリー）キー**
FM/AM ラジオ局を登録します（59 ページ）。
USB 機器の曲やネットワークコンテンツをショートカットに登録します（81 ページ）。

❼ **PRESET（プリセット）キー**
プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（60 ページ）。
ショートカットに登録した USB 機器の曲やネットワークコンテンツを選びます（81 ページ）。

❽ **FM/AM キー**
FM/AM を切り替えます（59 ページ）。

❾ **前面ディスプレイ**
各種情報が表示されます（11 ページ）。

❿ **リモコン信号受光部**
リモコンの信号を受信します（6 ページ）。

⓫ **TUNING（チューニング）キー**
ラジオ周波数を切り替えます（59 ページ）。

⓬ **PURE DIRECT（ピュアダイレクト）キー**
ピュアダイレクトを有効 / 無効にします（58 ページ）。

⓭ **INPUT（インプット）つまみ**
入力を切り替えます。

⓮ **SCENE（シーン）キー**
入力、音場プログラム、HDMI 出力端子など、登録された内容をワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります（53 ページ）。

⓯ **PHONES（フォーンズ）端子**
ヘッドホンを接続します。

⓰ **USB 端子**
USB 機器（66 ページ）や、iPod に付属の USB ケーブル（63 ページ）を接続します。

⓱ **TONE CONTROL（トーンコントロール）キー**
出力される音声の高音域と低音域のバランスを調節します（87 ページ）。

⓲ **PROGRAM（プログラム）キー**
音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます（54 ページ）。

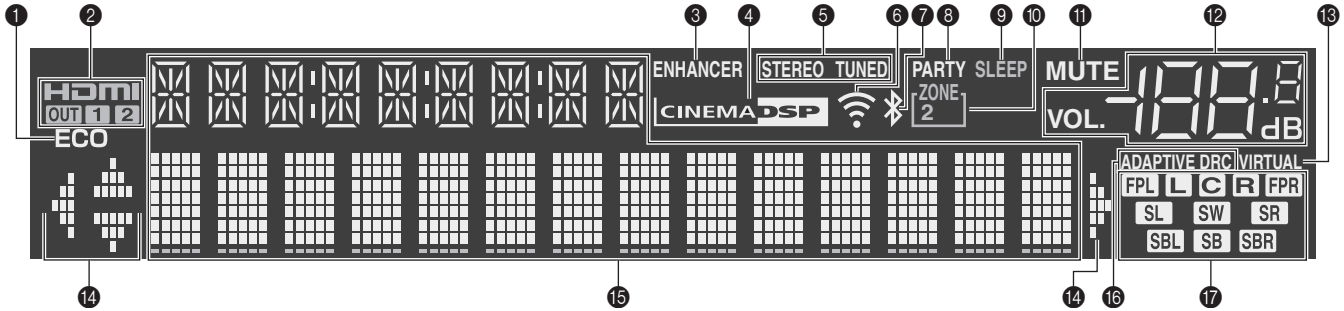
⓳ **STRAIGHT（ストレート）キー**
ストレートデコードを有効 / 無効にします（57 ページ）。

⓴ **VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子**
ビデオカメラやゲーム機などの機器を接続します（30 ページ）。

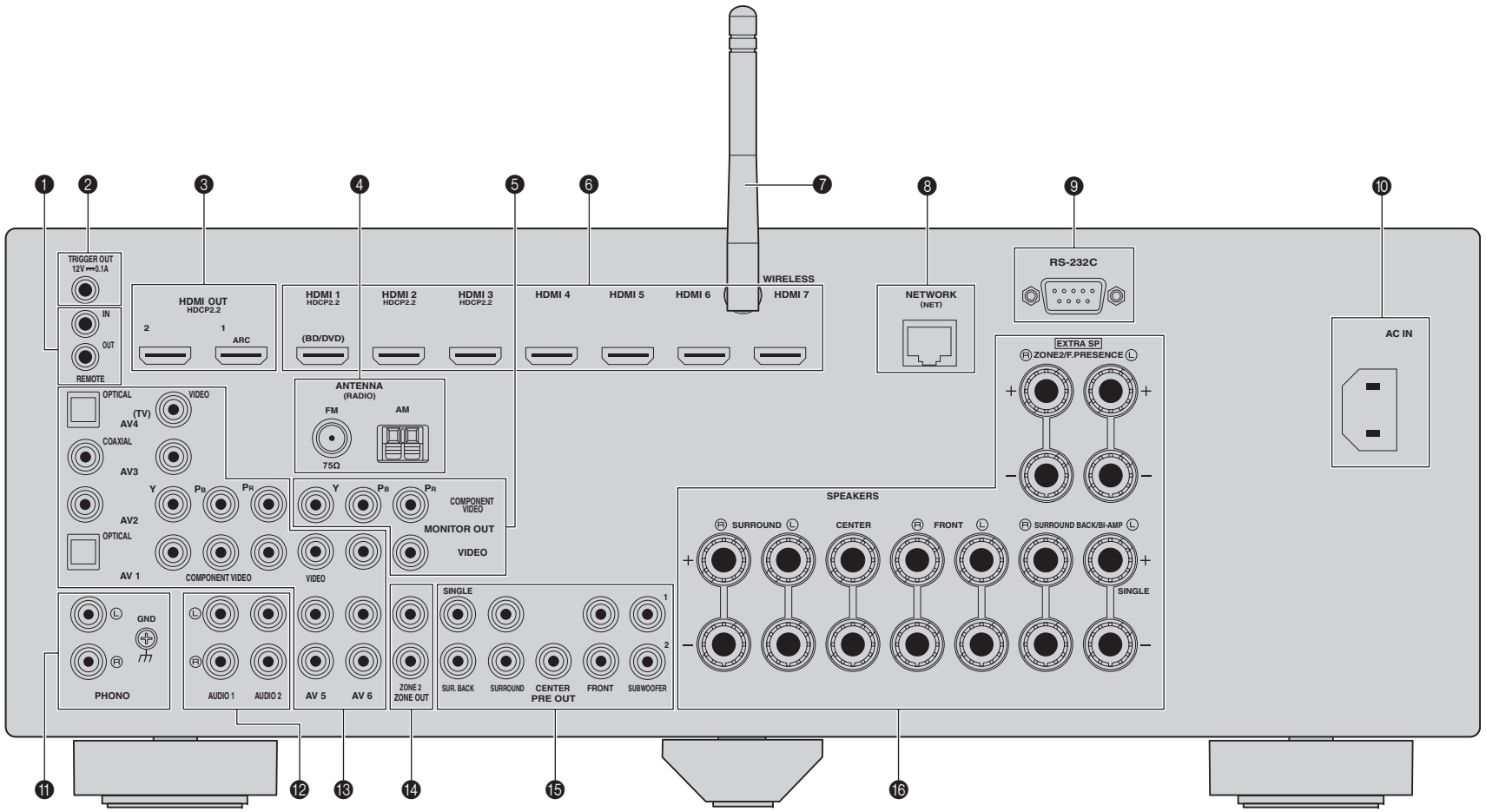
㉑ **YPAO MIC（YPAO マイク）端子**
付属の YPAO 用マイクを接続します（36 ページ）。

㉒ **VOLUME（ボリューム）つまみ**
音量を調節します。

前面ディスプレイ（インジケーター）


❶
❷
❸
❹
❺
❻
❼
❽
❾
❿
⓫
⓬
⓭
HDMI
OUT 1 2
ECO
ENHANCER
CINEMA DSP
STEREO TUNED
PARTY
ZONE 2
SLEEP
MUTE
VOL.
dB
ADAPTIVE DRC
VIRTUAL
FPL L C R FPR
SL SW SR
SBL SB SBR
❹
❺
❻
❼
❽
❾
❿
⓫
⓬
⓭
❶
❷
❸

背面



• 実際の製品では、誤接続を防ぐため映像 / 音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

❶ **REMOTE IN/OUT（リモートイン / アウト）端子**
赤外線受信機 / 送信機を接続して、別の部屋から本機や外部機器を操作することができます（79 ページ）。

❷ **TRIGGER OUT（トリガーアウト）端子**
トリガー機能対応の機器を接続します（33 ページ）。

❸ **HDMI OUT1 ～ 2（HDMI アウト 1 ～ 2）端子**
HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します（25 ページ）。ARC 使用時は、HDMI OUT1 端子でテレビ音声の入力も可能です。

❹ **ANTENNA（アンテナ）端子**
FM アンテナと AM アンテナを接続します（31 ページ）。

❺ **MONITOR OUT（モニターアウト）端子**
COMPONENT VIDEO 端子
コンポーネントビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（26 ページ）。

VIDEO 端子
コンポジットビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（26 ページ）。

❻ **HDMI1 ～ 7 端子**
HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（27 ページ）。

❼ **無線アンテナ**
無線を使って本機を無線ネットワーク機器に接続します（44 ページ）。

❽ **NETWORK（ネットワーク）端子**
ネットワークケーブルを使って本機をネットワークに接続します（32 ページ）。

❾ **RS-232C 端子**
サービス用の端子です。通常は使用しません。

❿ **AC IN（AC イン）端子**
電源コードを接続します（34 ページ）。

⓫ **PHONO（フォノ）端子**
レコードプレーヤーを接続します（30 ページ）。

⓬ **AUDIO1 ～ 2（オーディオ 1 ～ 2）端子**
アナログ音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（30 ページ）。

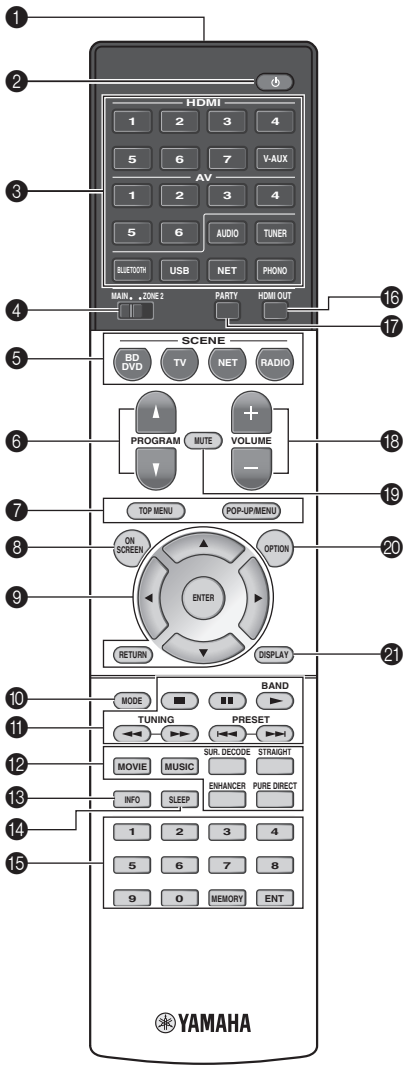
⓭ **AV1 ～ 6 端子**
映像 / 音声出力を持つ再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（27 ページ）。

⓮ **ZONE2 OUT（ゾーン 2 アウト）端子**
別の部屋に設置した外部アンプに音声を出力します（78 ページ）。

⓯ **PRE OUT（プリアウト）端子**
アンプ内蔵のサブウーファー（23 ページ）や、外部パワーアンプを接続します（33 ページ）。

⓰ **SPEAKERS（スピーカー）端子**
スピーカーを接続します（21 ページ）。

リモコン



❶ リモコン信号送信部
赤外線を送信します。

❷ ⏻（レシーバー電源）キー
本機の電源を入 / 切（スタンバイ）します。

❸ 入力選択キー
再生する入力を選びます。

HDMI1 ～ 7 キー	HDMI1 ～ 7 端子
V-AUX キー	前面の VIDEO AUX 端子
AV1 ～ 6 キー	AV1 ～ 6 端子
AUDIO キー	AUDIO1 ～ 2 端子（繰り返し押して「AUDIO1」「AUDIO2」を切り替えます）
TUNER キー	FM/AM ラジオ
BLUETOOTH キー	*Bluetooth* 接続
USB キー	前面の USB 端子
NET キー	NETWORK 入力（繰り返し押して「SERVER」「NET RADIO」「AirPlay」を切り替えます）
PHONO キー	PHONO 端子

❹ MAIN/ZONE2（メイン / ゾーン 2）スイッチ
リモコンで操作するゾーン（メインゾーン、ゾーン 2）を切り替えます（79 ページ）。

❺ SCENE（シーン）キー
入力、音場プログラム、HDMI 出力端子など、登録した内容をワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります（53 ページ）。

❻ PROGRAM（プログラム）キー
音場プログラムを選びます（54 ページ）。

❼ 外部機器操作キー
HDMI コントロールに対応している再生機器のメニューを表示します（135 ページ）。

❽ ON SCREEN（オンスクリーン）キー
テレビ画面にオンスクリーンメニューを表示します。

❾ メニュー操作キー

カーソルキー	メニューや設定値を選びます。
ENTER キー	選択項目を決定します。
RETURN キー	メニュー操作中に、1つ前の表示に戻します。

❿ MODE（モード）キー
iPod の操作モードを切り替えます（65 ページ）。

⓫ ラジオキー
入力が「TUNER」のときに　FM/AM　ラジオを操作します（59 ページ）。

BAND キー	FM/AM を切り替えます。
PRESET キー	プリセットしたFM/AMラジオ局を選びます。
TUNING キー	ラジオ周波数を切り替えます。

外部機器操作キー
iPod（64 ページ）、USB 機器（67 ページ）、パソコン（サーバー）（71 ページ）の再生操作を行います。
HDMI コントロールに対応している再生機器の再生操作を行います（135 ページ）。

⓬ サウンド選択キー
音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます（54 ページ）。

⓭ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイの表示を切り替えます（85 ページ）。

⓮ SLEEP（スリープ）キー
繰り返し押してスリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると本機がスタンバイになります。

⓯ 数字キー
ラジオ局の周波数を指定する場合など、数値を入力します。
MEMORY（メモリー）キー
FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（59 ページ）。

⓰ HDMI OUT（HDMI アウト）キー
信号を出力するHDMI出力端子を切り替えます（52 ページ）。

⓱ PARTY（パーティー）キー
パーティーモードを入 / 切します（80 ページ）。

⓲ VOLUME（ボリューム）キー
音量を調節します。

⓳ MUTE（ミュート）キー
消音します。

⓴ OPTION（オプション）キー
オプションメニューを表示します（86 ページ）。

㉑ DISPLAY（ディスプレイ）キー
テレビ画面にステータス情報を表示します（85 ページ）。

準備する

使用までの基本的な流れ

1	スピーカーを配置する（16 ページ）	使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーを部屋に配置します。
2	スピーカーを接続する（21 ページ）	各スピーカーを本機に接続します。
3	テレビを接続する（25 ページ）	テレビを本機に接続します。
4	再生機器を接続する（27 ページ）	ビデオ機器（BD/DVD レコーダーなど）やオーディオ機器（CD プレーヤーなど）を本機に接続します。
5	FM/AM アンテナを接続する（31 ページ）	付属の FM アンテナと AM アンテナを本機に接続します。
6	ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする（32 ページ）	ネットワークケーブルを使って、本機をルーター（アクセスポイント）に接続します。無線接続を使用する場合は、無線アンテナを使用します。
7	その他の機器を接続する（33 ページ）	外部パワーアンプ、トリガー機能対応の機器を本機に接続します。
8	電源コードを接続する（34 ページ）	すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに接続します。
9	スピーカー設定を行う（35 ページ）	使用するスピーカーシステムに応じて、YPAO を実行する前に必要なスピーカー設定を行います。
10	スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）（36 ページ）	音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO）。
11	無線ネットワーク機器に接続する（44 ページ）	無線接続を使って、本機を無線ルーター（アクセスポイント）やモバイル機器に接続します。

これで使用前に必要な接続および設定は完了です。映画、音楽、ラジオなど、本機での再生を存分にお楽しみください！

1 スピーカーを配置する

使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファーを部屋に配置します。本書では例として、代表的な配置方法を説明します。

注意

- **初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは 8Ω に設定されています。いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスを「6ΩMIN」に設定してください。この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。詳しくは「スピーカーインピーダンスを設定する」（20 ページ）をご覧ください。**

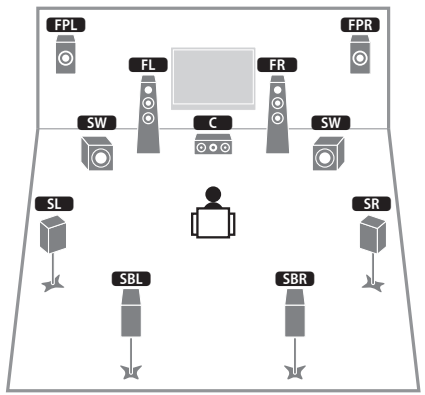
スピーカーの種類	略称	機能	スピーカーシステム（チャンネル数）								
			7.1+2	7.1	7.1	6.1	5.1	フロント 5.1	4.1	3.1	2.1
フロント（左）	FL	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フロント（右）	FR		○	○	○	○	○	○	○	○	○
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。	○	○	○	○	○	○		○	
サラウンド（左）	SL	サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。サラウンドバック左 / 右を使用していない場合は、サラウンドバックチャンネルの音声も出力します。	○	○	○	○	○	○ *1	○		
サラウンド（右）	SR		○	○	○	○	○	○ *1	○		
サラウンドバック（左）	SBL	サラウンドバック左 / 右チャンネルの音声を出力します。	○	○							
サラウンドバック（右）	SBR		○	○							
サラウンドバック	SB	サラウンドバック左 / 右チャンネルをミックスした音声を出力します。				○					
プレゼンス（左）	PL	CINEMA DSP の効果音を出力します。シネマ DSP 3D（55 ページ）と組み合わせることで、自然で立体的な視聴空間を創り出します。	○		○			○ *2			
プレゼンス（右）	PR		○		○			○ *2			
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。サブウーファーのチャンネル数は「0.1」と表します。本機には 2 台のサブウーファー（アンプ内蔵）を接続できます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○

前方に 5 本のスピーカーを配置する場合は、そのうち 2 本をサラウンドスピーカー（*1）またはプレゼンススピーカー（*2）として使用します。音場効果をかけずに再生したい場合はサラウンドスピーカー、立体的な音場を楽しみたい場合はプレゼンススピーカーとして使用することをおすすめします。

- **理想的なスピーカーの配置図については、「理想的なスピーカー配置」（129 ページ）をご覧ください。**
- **7 本のスピーカーを使う場合は、そのうち 2 本をサラウンドバックスピーカーまたはプレゼンススピーカーとして使用します。**
  左右後方の音場を拡充したい場合はサラウンドバックスピーカーとして、より自然で立体的な視聴空間を楽しみたい場合はプレゼンススピーカーとして使用することをおすすめします。
- **本機に接続した 2 台のサブウーファーからは同じ音声が出力されます。**

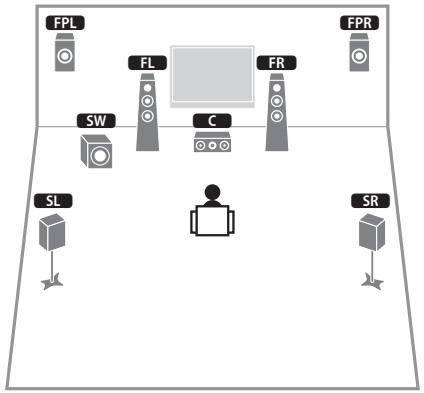
- Dolby Atmos コンテンツを再生する場合は、★マークが付いているスピーカーシステムをご利用ください。
- （チャンネル数の表記について）例えば、「5.1.2」は従来の 5.1 チャンネルに加え、上方のスピーカー用チャンネルが 2 チャンネル分存在することを表します。プレゼンススピーカーの配置方法について詳しくは、「プレゼンススピーカーの配置」（19 ページ）をご覧ください。

7.1+2 チャンネルシステム [★5.1.2]



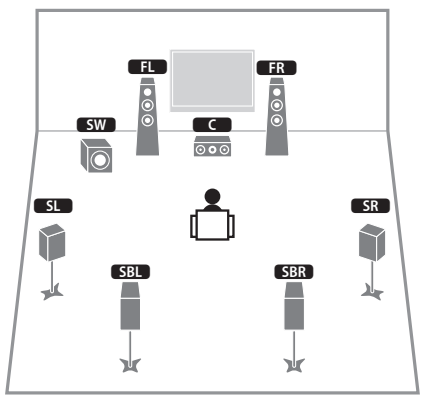
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーから同時に音声を出力することはできません。選択したシネマ DSP（55 ページ）により、音声を出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

7.1 チャンネルシステム [★5.1.2]（プレゼンス使用時）



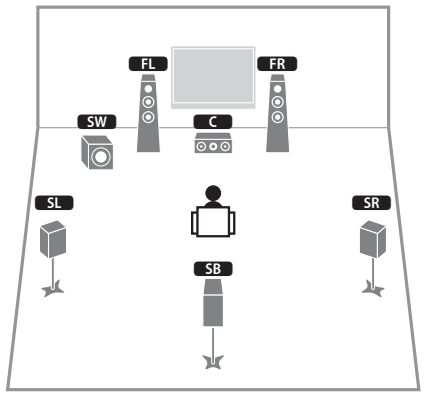
フロントプレゼンススピーカーを使って、自然で立体的な視聴空間を実現します。またサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し（VSBS）、後方奥行き感ある視聴空間を実現します。5.1 チャンネルのコンテンツだけでなく、7.1 チャンネルのコンテンツをも楽しむのに適したシステムです。

7.1 チャンネルシステム [★7.1.0]（サラウンドバック使用時）



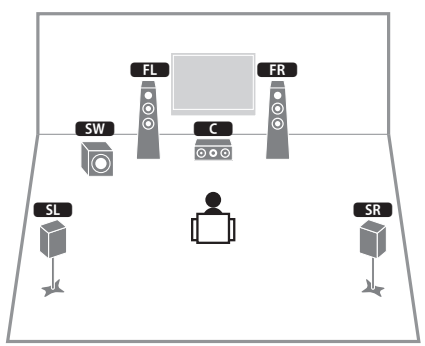
フロント、センター、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、立体的な視聴空間を実現します。また、サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。

6.1 チャンネルシステム



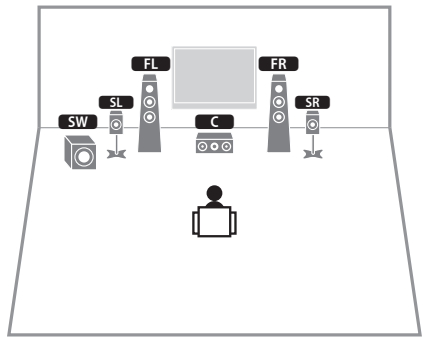
フロント、センター、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、立体的な視聴空間を実現します。また、サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。

5.1 チャンネルシステム



フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って前方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、立体的な視聴空間を実現します。またサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し（VSBS）、後方奥行き感ある視聴空間を実現します。5.1 チャンネルのコンテンツだけでなく、7.1 チャンネルのコンテンツをも楽しむことに適したシステムです。

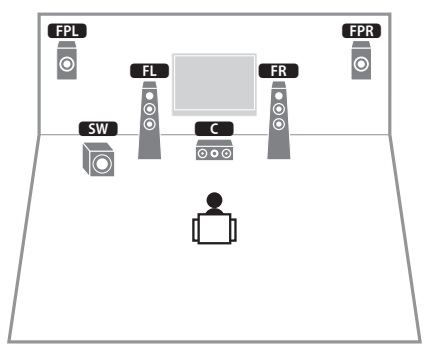
フロント 5.1 チャンネルシステム（サラウンド使用時）



サラウンドスピーカーを前方に配置した場合でも、後方にバーチャルサラウンドスピーカーを創り出すことでマルチチャンネルサラウンドをお楽しみいただけます（バーチャルシネマフロント）。このシステムを有効にするには、設定メニューの「配置（サラウンド）」（102 ページ）を「前方」に設定してください。

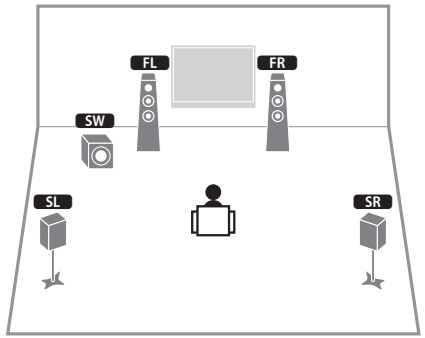
- センタースピーカーがない 4.1 チャンネルシステムでも、サラウンド再生を楽しめます。

フロント 5.1 チャンネルシステム（プレゼンス使用時）

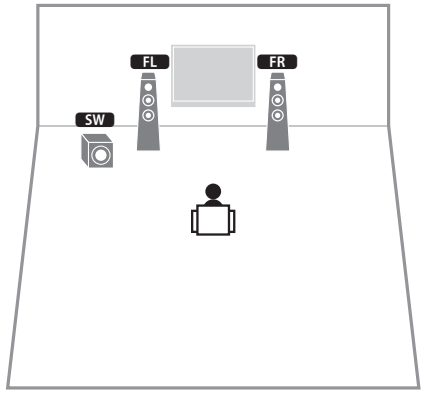


フロントプレゼンススピーカーを使って、ごく自然で立体的な視聴空間を実現します。また、フロントスピーカーを使ってバーチャルサラウンドスピーカーを創り出すことでマルチチャンネルサラウンドもお楽しみいただけます（バーチャルシネマ DSP）。

4.1 チャンネルシステム



2.1 チャンネルシステム



サラウンドスピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロントスピーカーを使ってバーチャルサラウンドスピーカーを創り出します（バーチャルシネマ DSP）。

- センタースピーカーを使用した 3.1 チャンネルシステムも可能です。

プレゼンススピーカーの配置

プレゼンススピーカーの配置方法は 3 種類あります（フロントハイト、オーバーヘッド、ドルビーイネーブルド SP）。視聴環境に合わせていずれかをお選びください。

- どの配置方法でも Dolby Atmos およびシネマ DSP 3D をお楽しみいただけます。

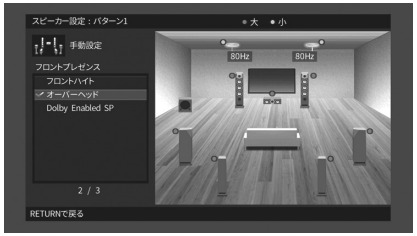
フロントハイト

部屋の前方の壁にプレゼンススピーカーを設置します。上下左右の空間のつながり感と広がり感を効果的に再現します。



オーバーヘッド

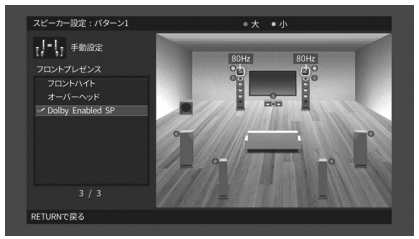
視聴位置上部の天井にプレゼンススピーカーを設置します。上部からのリアルな効果音や前後のつながりを効果的に再現します。



- 天井の取り付け位置については「スピーカーを天井に設置する際のご注意」（20 ページ）をご覧ください。

ドルビーイネーブルド SP

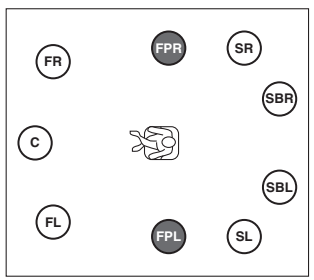
ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をプレゼンススピーカーとして使用します。天井の反射を利用し、床置きのスピーカーのみで上方スピーカーを再現できます。

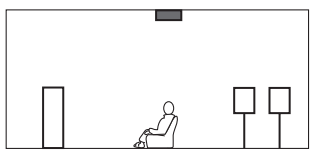


- ドルビーイネーブルドスピーカーはフロント、サラウンド、サラウンドバックスピーカーいずれかの上部またはすぐそばに配置してください。1 本のスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーが組み込まれている場合もあります。詳しくは、ドルビーイネーブルドスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカーを天井に設置する際のご注意

プレゼンススピーカーを天井に取り付ける場合は、視聴位置の上部、または視聴位置とフロントスピーカーの間の天井に設置します。





注意

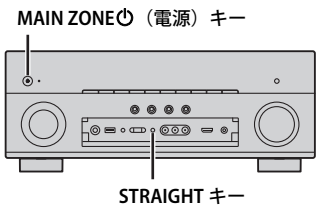
- 必ず天井への取り付けに対応したスピーカーを使用し落下防止措置を講じてください。取り付けはご購入店または専門業者に依頼してください。

■ スピーカーインピーダンスを設定する

初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは 8Ω に設定されています。いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスを「6ΩMIN」に設定してください。この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。

1 スピーカーを接続する前に、本機の電源コードをコンセントに接続する（34 ページ）。

2 前面の STRAIGHT キーを押しながら MAIN ZONE⏻（電源）キーを押す。



3 前面ディスプレイに「SPEAKER IMP.」と表示されていることを確認する。



4 STRAIGHT キーで「6ΩMIN」を選ぶ。

5 MAIN ZONE⏻（電源）キーで電源をスタンバイにしてから、電源コードをコンセントから外す。

これでスピーカーを接続する準備は完了です。

2 スピーカーを接続する

部屋に配置したスピーカーを本機に接続します。

ここでは例として、7.1+2/7.1/6.1 チャンネルシステムの接続図を記載しています。これ以外は 6.1 チャンネルシステムの接続図を参考に、配置したスピーカーを接続してください。

注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。

必要なケーブル（市販品）

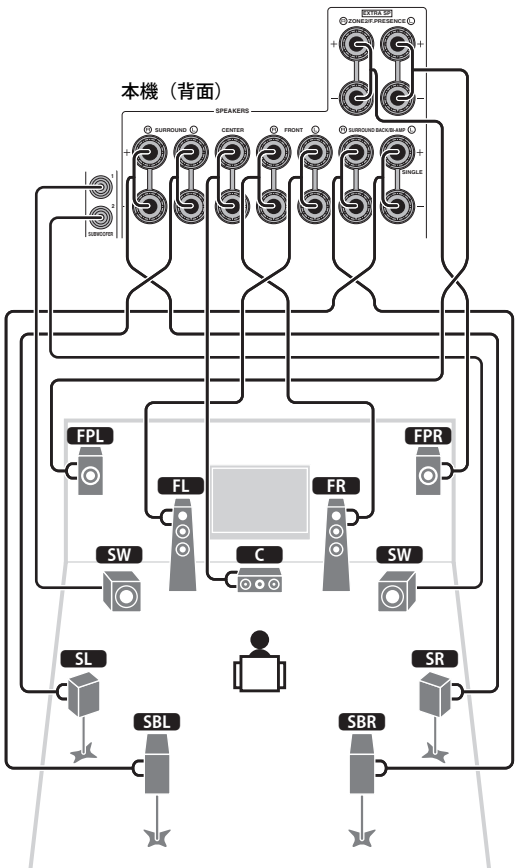
- スピーカーケーブル（スピーカーの本数分）



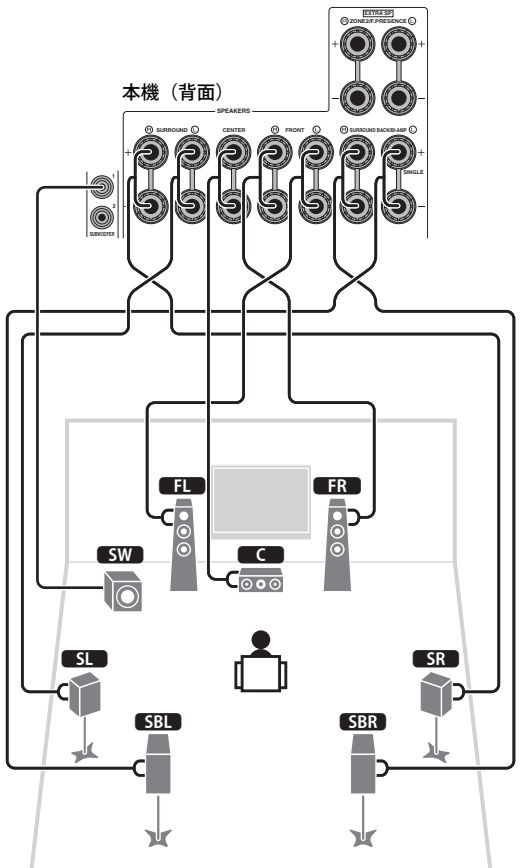
- モノラルピンケーブル（1 本：サブウーファー接続用）



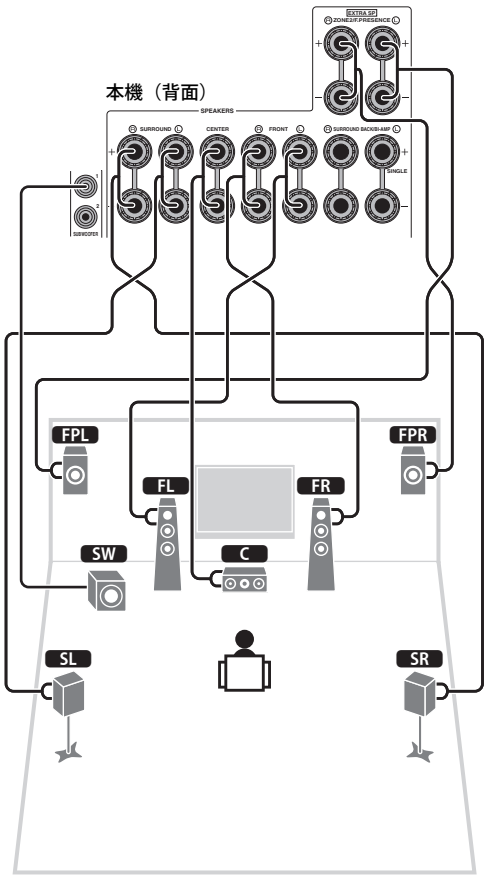
7.1+2 チャンネルシステム



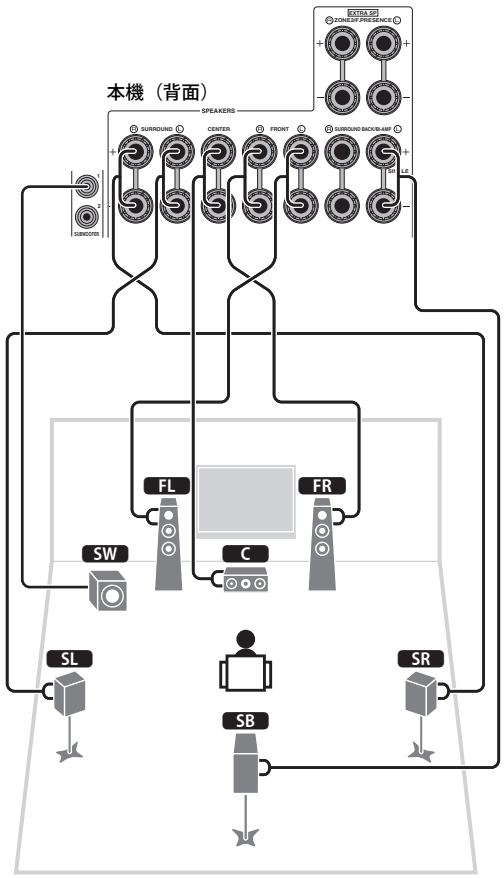
7.1 チャンネルシステム（サラウンドバック使用時）



7.1 チャンネルシステム（プレゼンス使用時）



6.1 チャンネルシステム

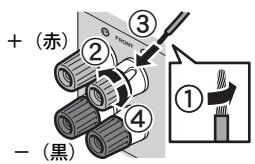


サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続する場合は、SINGLE 端子（L 側）に接続します。

■ スピーカーケーブルを接続する

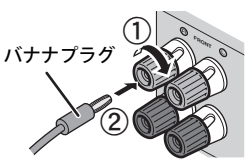
通常スピーカーケーブルは 2 芯（＋と－）で 1 本になっています。片方で本機とスピーカーの－（マイナス）端子どうし、もう一方で＋（プラス）端子どうしを接続してください。色で区別されている場合、黒を－（マイナス）側、もう一方を＋（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。
② スピーカー端子をゆるめる。
③ 端子側面（右上または左下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
④ 端子を締め付ける。



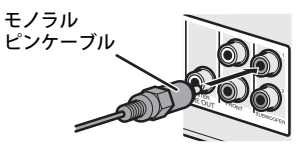
バナナプラグを使用する場合

① スピーカー端子を締め付ける。
② 端子にバナナプラグを差し込む。



■ サブウーファー（アンプ内蔵）を接続する

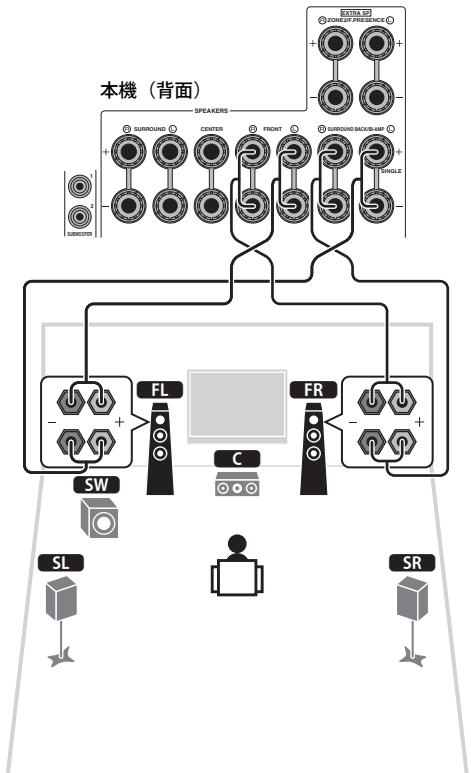
サブウーファーの接続には、モノラルピンケーブルを使います。



バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを使う場合は、スピーカーを FRONT 端子および SURROUND BACK/BI-AMP 端子に接続します。

バイアンプ機能を有効にするには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」を「5ch BI-AMP」に設定してください（35 ページ）。



• FRONT 端子と SURROUND BACK/BI-AMP 端子からは同じ信号が出力されます。

注意

• バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具（またはケーブル）を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。
• バイアンプ接続をする場合、サラウンドバックスピーカーやプレゼンススピーカーを使ったシステムは使用できません。

入出力端子とケーブル

本機は以下の入出力端子を装備しています。接続する外部機器側の端子に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

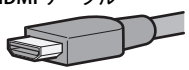
■ 映像 / 音声を入出力する端子

❑ HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



HDMI ケーブル



- **HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。**

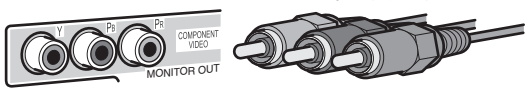
- **HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D、4K Ultra HD 映像の伝送に対応しています。**
- **3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルで接続してください。**

■ 映像を入出力する端子

❑ COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離して伝送します。接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントケーブルを使います。

コンポーネントケーブル



❑ VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。

映像用ピンケーブル



■ 音声を入出力する端子

❑ OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。

光デジタルケーブル



❑ COAXIAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。

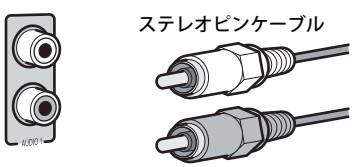
同軸デジタルケーブル



❑ AUDIO 端子

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブルを使います。

ステレオピンケーブル



3 テレビを接続する

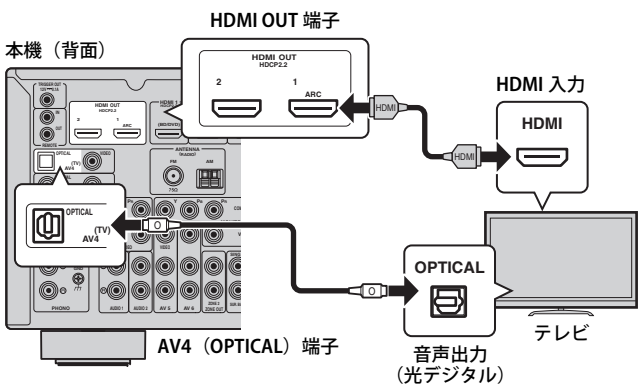
テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビ番組の音声を本機で楽しむことができます。

本機の性能を最大限に活かすために、HDMI ケーブルを使って接続することをおすすめします。

■ HDMI 接続

HDMI ケーブルと光デジタルケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- **HDMI OUT2 端子を使って、テレビやプロジェクターなどをもう 1 台接続できます（26 ページ）。**



- **光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下の場合は、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。**
  - **– お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合**
  - **– テレビを衛星チューナーなどで視聴する場合（テレビ内蔵のチューナーを使用しない）**
- **テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。**

HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは「HDMI について」（135 ページ）をご覧ください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）とは

- **1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。**
- **ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルで本機とテレビを接続してください。**

■ コンポーネントビデオ / コンポジットビデオ接続

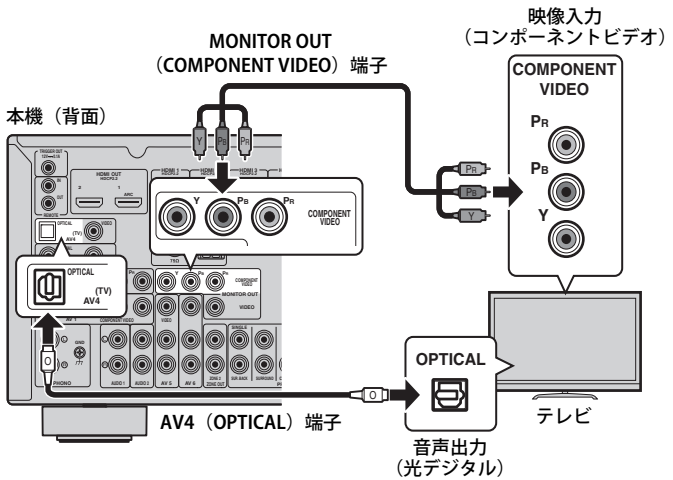
本機とビデオ機器をコンポーネントケーブルで接続する場合は、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続します。

本機とビデオ機器を映像用ピンケーブルで接続する場合は、テレビを本機の MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続します。

- **コンポーネントビデオ / コンポジットビデオでテレビを接続した場合、HDMI で接続したビデオ機器の映像や、本機の各種メニューをテレビ画面に表示することはできません。**

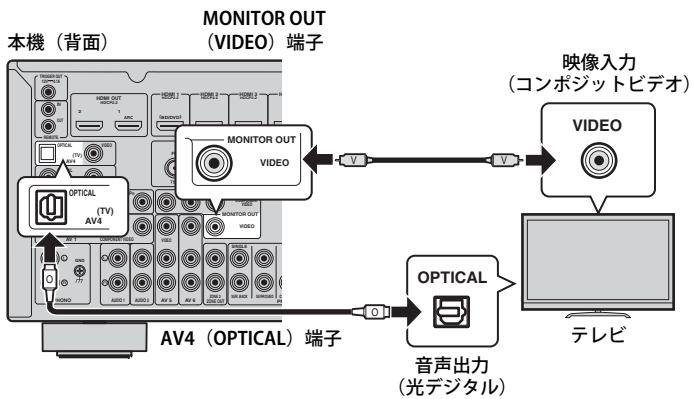
- **光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。テレビを衛星チューナーなどで視聴する（テレビ内蔵のチューナーを使用しない）場合は、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。**

❑ コンポーネントビデオ接続（コンポーネントケーブルを使用）



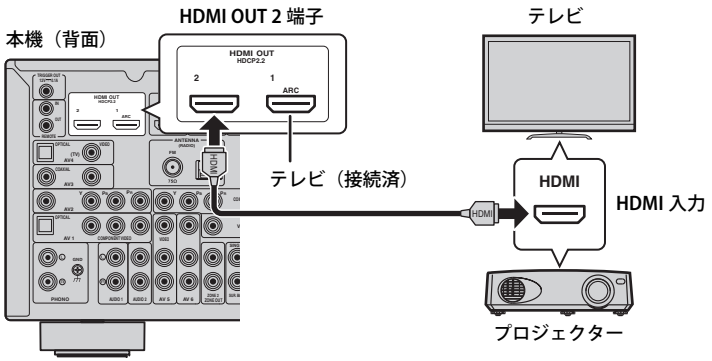
- テレビの映像入力が D 端子の場合は、D 端子 / コンポーネントビデオ変換ケーブルを使って接続してください。

❑ ビデオ（コンポジット）接続（映像用ピンケーブルを使用）



■ 複数のテレビやプロジェクターを接続する

本機には 2 つの HDMI 出力端子があります。HDMI ケーブルを使って、2 台目のテレビやプロジェクターを本機に接続しておけば、使用するテレビ / プロジェクターをリモコンで選べます（52 ペ ー ジ）。



- HDMI OUT2 端子は HDMI コントロールには対応していません。

4 再生機器を接続する

本機は HDMI 端子をはじめとする各種の入力端子を装備しています。接続する再生機器の出力端子により、接続方法を選んでください。

iPod、USB 機器の接続については、以下のページをご覧ください。

- iPod を接続する（63 ページ）
- USB 機器を接続する（66 ページ）

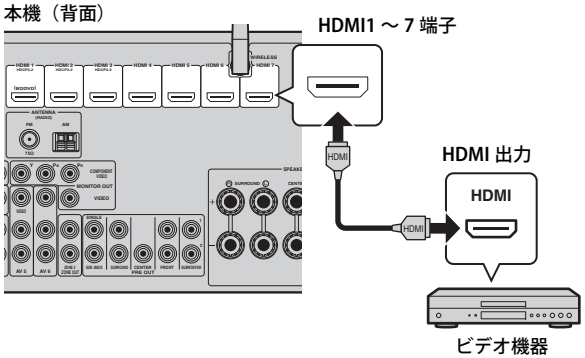
ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）

BD/DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

- **本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子にあわせて変更してください（28 ページ）。**

■ HDMI 接続

HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。



HDMI1 ～ 7 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

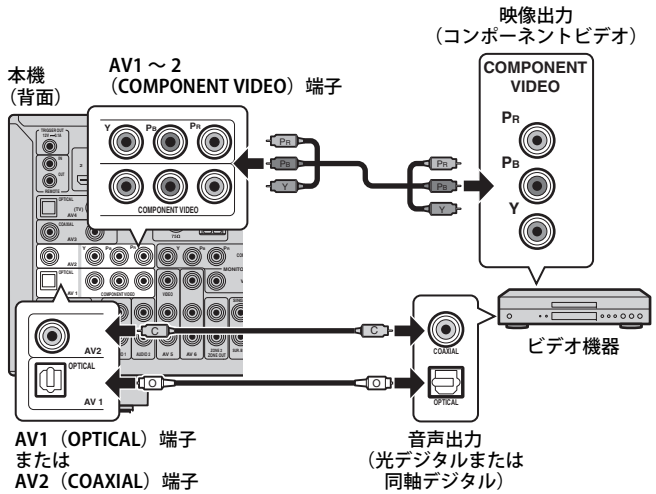
- **HDMI1 ～ 7 端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続する必要があります（25 ページ）。**
- **HDCP 2.2 対応のビデオ機器は HDMI1 ～ 3 端子に接続してください。**

■ コンポーネントビデオ接続

コンポーネントケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたは同軸デジタル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 ～ 2）が異なります。

- **ビデオ機器の映像出力が D 端子の場合は、D 端子 / コンポーネントビデオ変換ケーブルを使って接続してください。**

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポーネントビデオ	光デジタル	AV1（COMPONENT VIDEO ＋ OPTICAL）
	同軸デジタル	AV2（COMPONENT VIDEO ＋ COAXIAL）



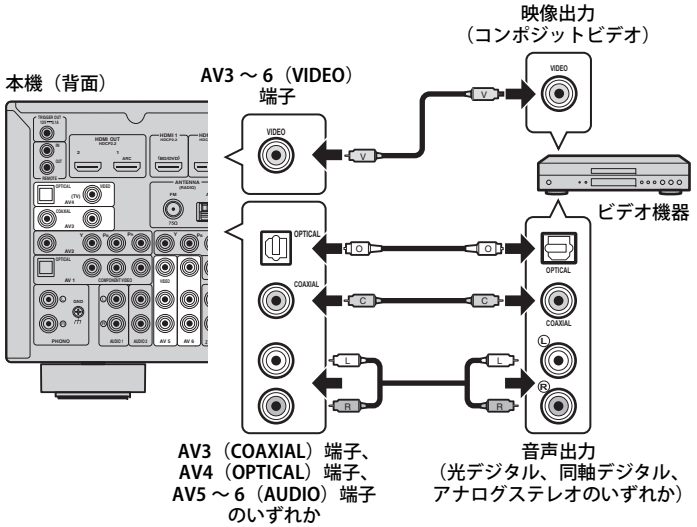
AV1 ～ 2 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- **ビデオ機器の映像出力が 480i 以外の場合、本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子からのみ映像が出力されます。映像を視聴するには、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続する必要があります（26 ページ）。詳しくは「映像信号の流れ」（134 ページ）をご覧ください。**

■ ビデオ（コンポジット）接続

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV3 ～ 6）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	同軸デジタル	AV3（VIDEO ＋ COAXIAL）
	光デジタル	AV4（VIDEO ＋ OPTICAL）
	アナログステレオ	AV5 ～ 6（VIDEO ＋ AUDIO）



AV3 ～ 6 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

!

- **AV3 ～ 6（VIDEO）端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビと本機を HDMI 接続するか、MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続する必要があります（26 ページ）。詳しくは「映像信号の流れ」（134 ページ）をご覧ください。**

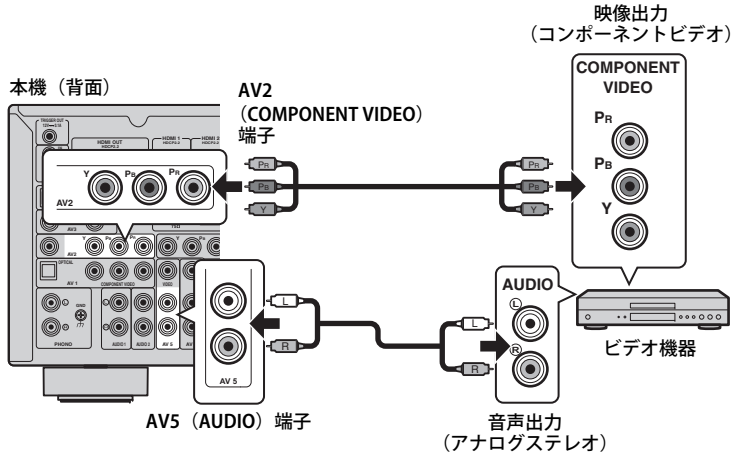
■ 入力端子（映像 / 音声）の組み合わせを変更する

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子にあわせて変更できます。これにより、次のような出力端子（映像 / 音声）を持つビデオ機器との接続が可能になります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1 ～ 7	AV1（OPTICAL） AV4（OPTICAL）
	同軸デジタル	HDMI1 ～ 7	AV2 ～ 3（COAXIAL）
	アナログステレオ	HDMI1 ～ 7	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO1 ～ 2
コンポーネントビデオ	アナログステレオ	AV1 ～ 2 （COMPONENT VIDEO）	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO1 ～ 2

❑ 必要な設定

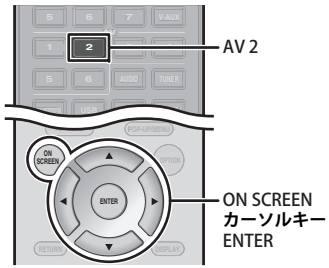
例として、映像は AV2（COMPONENT VIDEO）端子、音声は AV5（AUDIO）端子に接続した場合の設定手順を説明します。



• 次の操作は、本機とテレビを HDMI で接続した場合にのみ行えます。

1 外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機とテレビの電源を入れる。

2 AV2 キーを押して、入力を「AV2」（映像を入力する端子）に切り替える。



3 ON SCREEN を押す。

4 カーソルキーで「入力選択」を選び、ENTER キーを押す。

5 カーソルキー（◁/▷）で「AV2」（映像を入力する端子）を選び、カーソルキー（△）を押す。



6 カーソルキーで「音声入力」を選び、ENTER キーを押す。

7 カーソルキー（△/▽）で「AV5」（音声を入力する端子）を選ぶ。



8 ON SCREEN キーを押す。

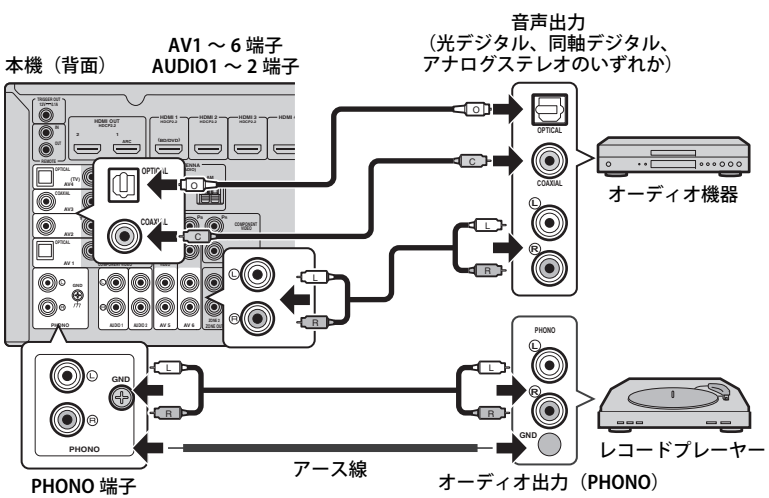
これで設定は完了です。

AV2 キーで入力を「AV2」に切り替えると、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど）

CD プレーヤー、MD プレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続します。
接続するオーディオ機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AV1（OPTICAL） AV4（OPTICAL）
同軸デジタル	AV2 ～ 3（COAXIAL）
アナログステレオ	AV5 ～ 6（AUDIO） AUDIO1 ～ 2
レコードプレーヤー（PHONO）	PHONO



AV1 ～ 6 キー、AUDIO キー、または PHONO キーで入力を選ぶと、オーディオ機器の音声が本機から出力されます。

レコードプレーヤー接続時の注意

- 本機の PHONO 端子は MM 型のカートリッジに対応しています。MC 型（低出力型）のカートリッジを搭載したレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスなどを使用してください。
- お使いのレコードプレーヤーによっては、本機の GND 端子と接続することでノイズを低減できます（GND 端子は安全アースではありません）。

本体前面の端子に接続する

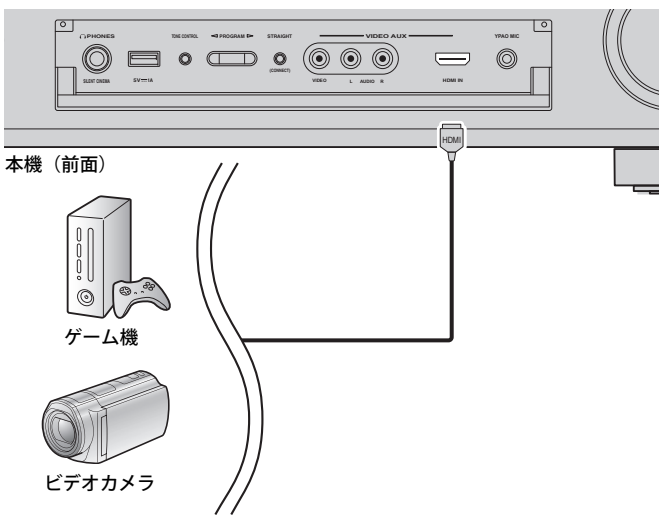
ビデオカメラやゲーム機などの機器を一時的に接続する場合は、前面の VIDEO AUX 端子を利用すると便利です。

USB 端子に iPod や USB 機器を接続したい場合は、「iPod を接続する」（63 ページ）および「USB 機器を接続する」（66 ページ）をご覧ください。

接続する前に、再生機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。

❑ HDMI 接続

HDMI ケーブルを使って、HDMI 対応機器（ゲーム機、ビデオカメラなど）を本機に接続します。

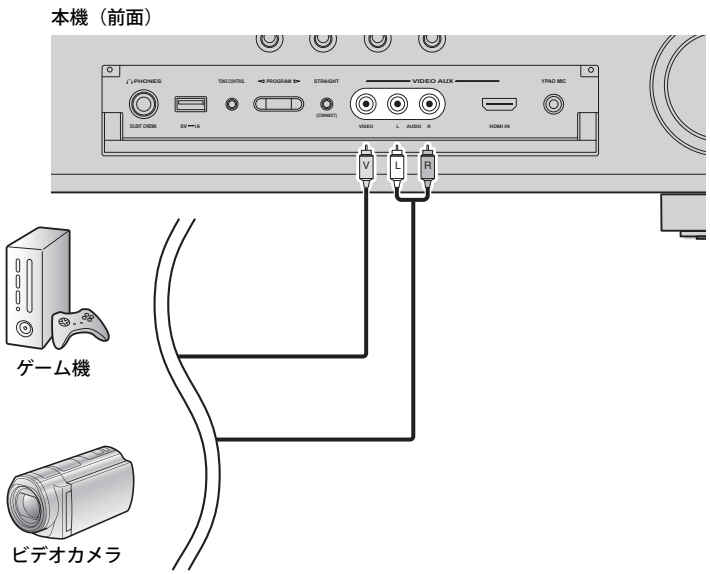


V-AUX キーで入力を「V-AUX」に切り替えると、接続した機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- **VIDEO AUX（HDMI IN）端子の映像を視聴するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります（25 ページ）。**

❑ ビデオ（コンポジット）/ アナログステレオ接続

映像用ピンケーブルとステレオピンケーブルを使って、再生機器（ゲーム機、ビデオカメラなど）を本機に接続します。



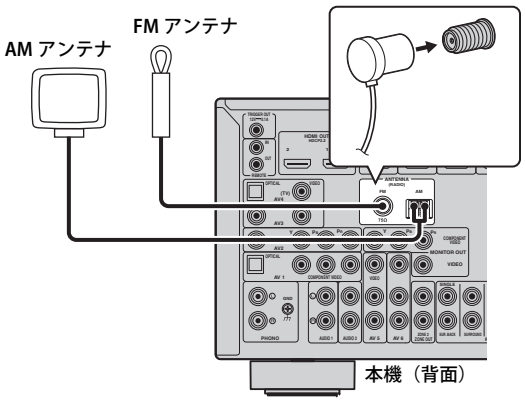
V-AUX キーで入力を「V-AUX」に切り替えると、接続した機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- **VIDEO AUX（HDMI IN）端子と VIDEO AUX（VIDEO/AUDIO）端子の両方に機器を接続した場合、VIDEO AUX（HDMI IN）端子の映像 / 音声が出力されます。**

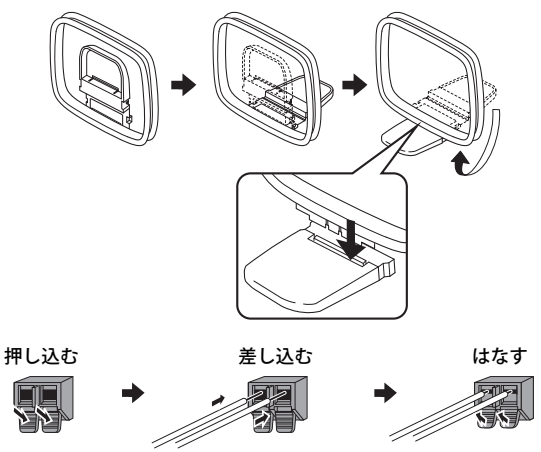
5 FM/AM アンテナを接続する

付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、AM アンテナは水平な場所に置き、FM アンテナは壁に固定してください。



AM アンテナの組立と接続



- **AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。**
- **AM アンテナのコードに極性はありません。**

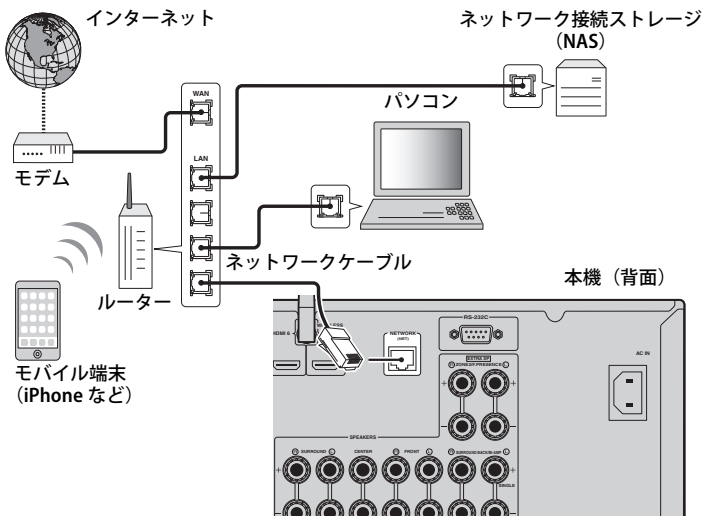
6 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする

ネットワークケーブルを使って、本機をルーター（アクセスポイント）に接続します。無線接続を使用する場合は、無線アンテナを使用します。

これによりインターネットラジオやパソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などの DLNA サーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。

ネットワークケーブルを接続する

市販の STP ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。



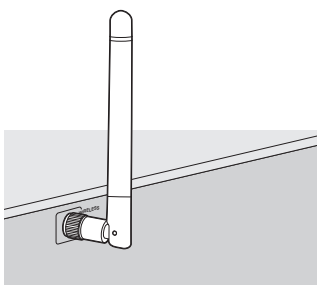
- 無線接続を使用したあと、ネットワークケーブルを使った有線接続に変更する場合は、設定メニューの「ネットワーク接続」（107 ページ）を「有線」に設定してください。
- DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、ネットワーク情報（IP アドレスなど）が自動で割り当てられるため、設定を行う必要はありません。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定（107 ページ）が必要になります。
- 情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。

- セキュリティソフトや、ネットワーク機器の設定（ファイアウォールなど）により、本機がパソコンやインターネットラジオにアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトやネットワーク機器の設定を変更してください。
- サブネットを手動で設定する際は、すべて本機と同じサブネットに設定してください。
- インターネットサービスは、ブロードバンド回線の使用をおすすめします。

無線アンテナを準備する

無線接続を使用する場合は、本機の無線アンテナをまっすぐ上に立てます。

無線ネットワーク機器への接続方法については、「無線ネットワーク機器に接続する」（44 ページ）をご覧ください。



- 無線アンテナに極端な力を加えたりしないでください。破損するおそれがあります。

7 その他の機器を接続する

外部パワーアンプを接続する

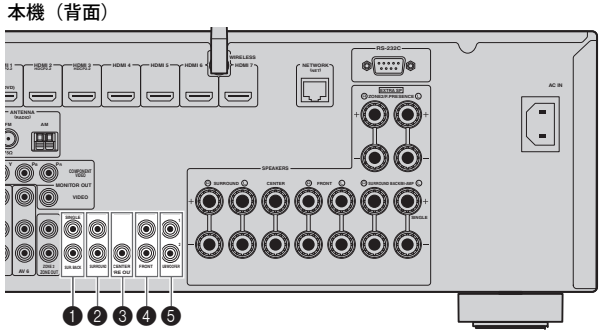
スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を使う場合は、外部パワーアンプの入力端子を本機の PRE OUT 端子に接続します。

PRE OUT 端子からは、SPEAKERS 端子と同様に各チャンネルの音声が出力されます。

注意

- **大音量や異音の発生を防ぐため、以下の点を必ず守ってください。**
  - **外部パワーアンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、外部パワーアンプの電源を切ってください。**
  - **PRE OUT 端子を使う場合は、該当するチャンネルのスピーカーを SPEAKERS 端子に接続しないでください。**
  - **音量調整バイパス機能に対応していないプリメインアンプを接続する場合は、ボリュームは適切な位置に固定してください。その場合、本機以外の機器をプリメインアンプに接続しないでください。**

本機（背面）



❶ SUR.BACK 端子
サラウンドバック左 / 右チャンネルの音声を出力します。外部パワーアンプを 1 つだけ接続する場合は、SINGLE 端子（L 側）を使ってください。

❷ SURROUND 端子
サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。

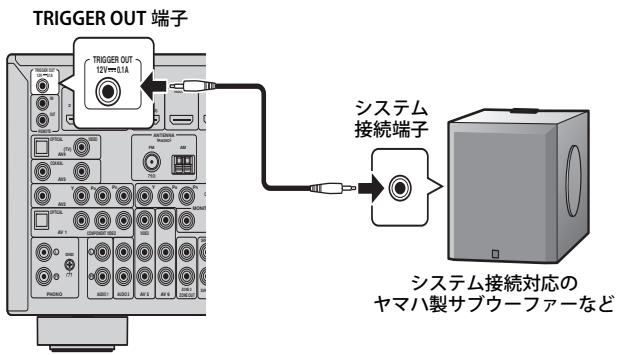
❸ CENTER 端子
センターチャンネルの音声を出力します。

❹ FRONT 端子
フロント左 / 右チャンネルの音声を出力します。

❺ SUBWOOFER1 ～ 2 端子
アンプ内蔵サブウーファーを接続します。2 つの端子からは同じ音声が出力されます。

トリガー機能対応の機器を接続する

トリガー機能とは、本機の操作（電源入 / 切、入力選択など）に連動して外部機器を制御できる機能です。システム接続に対応しているヤマハ製サブウーファーや、トリガー入力端子がある機器をお使いの場合は、モノラルミニプラグケーブルを使って本機の TRIGGER OUT 端子に接続すれば、トリガー機能を利用できます。

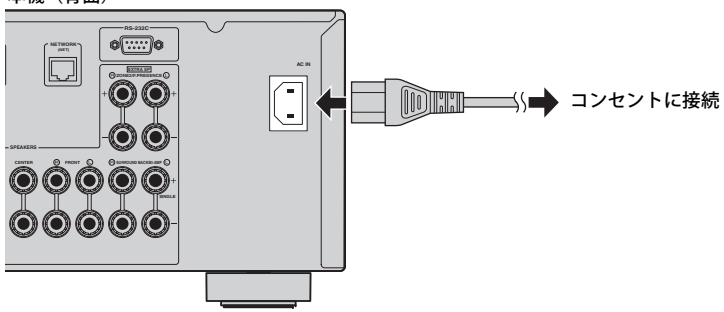


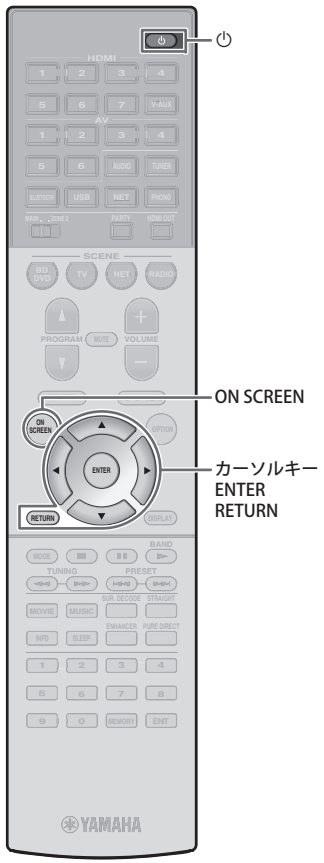
- **設定メニューの「トリガー出力」（111 ページ）で、トリガー機能使用時の外部機器の制御について設定できます。**

8 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）





9 スピーカー設定を行う

以下のスピーカーシステムを使用する場合は、YPAO を実行する前に手動でスピーカー設定を変更する必要があります。

- バイアンプ接続（23 ページ）、マルチゾーン接続（77 ページ）
- サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）（18 ページ）
- プレゼンススピーカーを使ったシステム（Dolby Atmos コンテンツの再生）（19 ページ）

1 ⏻（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

- 本機の電源を初めて入れた際、ネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。ここでは RETURN キーを押し、手順 3 に進んでください。

3 ON SCREEN キーを押す。

4 カーソルキーで「設定」を選び、ENTER キーを押す。

5 カーソルキーと ENTER キーで「スピーカー設定」→「手動設定」を選ぶ。

6 必要なスピーカー設定を変更する。

バイアンプ接続、マルチゾーン接続の設定

① カーソルキーで「パワーアンプ割り当て」（100 ページ）を選び、ENTER キーを押す。

② カーソルキー（△/▽）で該当するスピーカーシステムを選び、ENTER キーを押す。

サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）の設定

① カーソルキーと ENTER キーで「構成」→「配置」→「サラウンド」（101 ページ）を選ぶ。

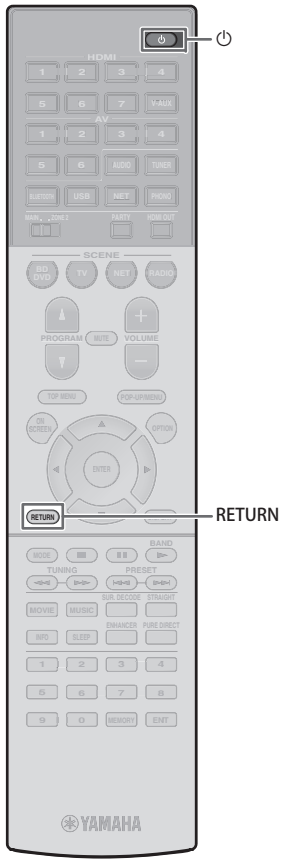
② カーソルキー（△/▽）で「前方」を選び、ENTER キーを押す。

プレゼンススピーカーを使ったシステム（Dolby Atmos コンテンツの再生）の設定

① カーソルキーと ENTER キーで「構成」→「配置」→「フロントプレゼンス」（101 ページ）を選ぶ。

② カーソルキー（△/▽）でフロントプレゼンススピーカーの配置を選び ENTER キーを押す。

7 終了するには、ON SCREEN キーを押す。



10 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO：Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）。

- 本機の YPAO は、YPAO-R.S.C.（Reflected Sound Control）技術を採用しています。これにより、音響専用に施工された部屋のような自然な音場を創り出すことができます。

- YPAO 使用時は次のことにご注意ください。
  - 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。
  - 測定中は音量を調節できません。
  - 測定中は部屋を静かに保ってください。
  - 測定中は視聴位置の後方（部屋の隅）にとどまり、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。
  - ヘッドホンは接続しないでください。

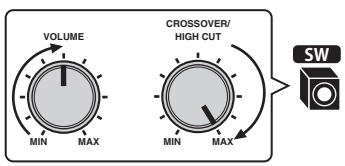
測定前の準備

1 ⏻（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

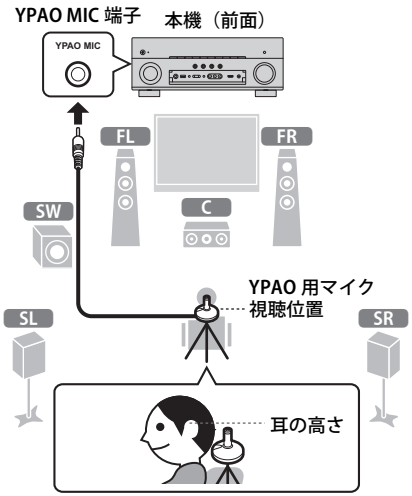
- 本機の電源を初めて入れた際、ネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。ここでは RETURN キーを押し、手順 3 に進んでください。

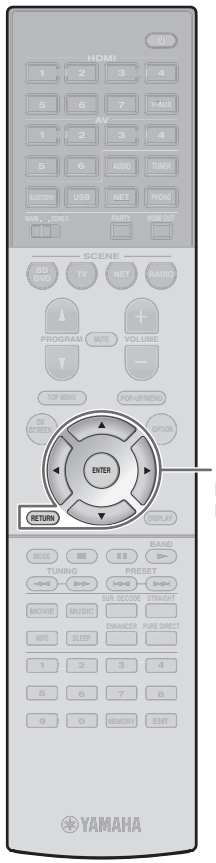
3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



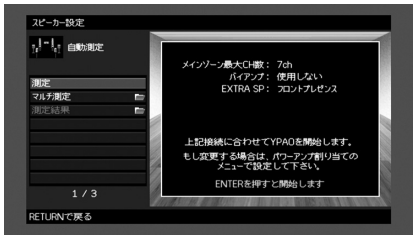
4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

- YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置きます。三脚などをマイクスタンドとしてお使いください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。





テレビに次の画面が表示されます。

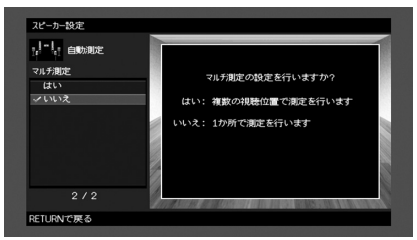


- 操作を中止するには、測定前に YPAO 用マイクを取り外します。
- パワーアンプの割り当てを変更する場合は、RETURN キーで戻り、「手動設定」を選択してください（100 ページ）。

5 必要に応じて、測定方法（マルチ/シングル測定）を変更する。

① カーソルキーで「マルチ測定」を選び、ENTER キーを押す。

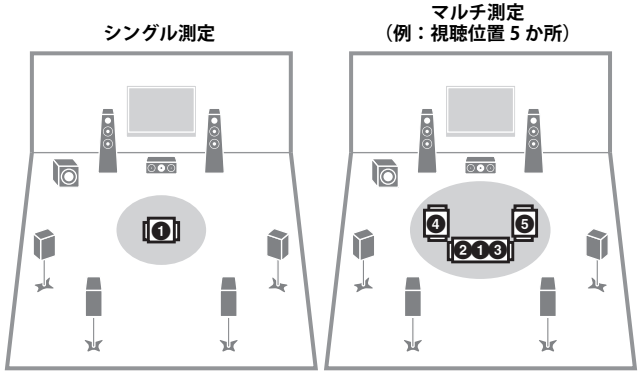
② カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

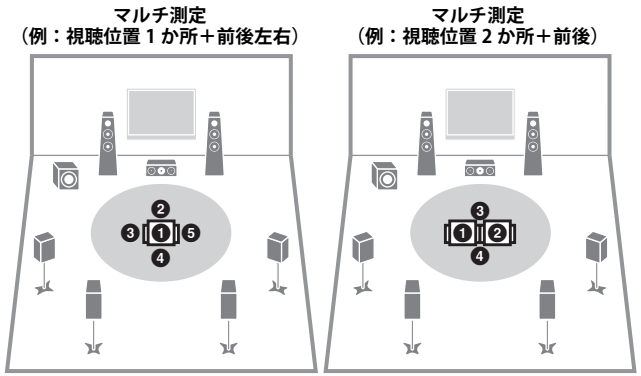


設定値

はい	視聴位置が複数ある場合に選択する。 最大 8 か所で測定を行い、そのエリアに対して最適なスピーカー設定を適用します（マルチ測定）。
いいえ（初期値）	常に同じ位置で視聴する場合に選択する。 1 か所だけで測定を行い、その位置に対して最適なスピーカー設定を適用します（シングル測定）。

- 視聴位置が複数ある場合、マルチ測定を実行すれば最適に補正されたサラウンド音を広いエリアでお楽しみいただけます。
- マルチ測定を実行する場合、最初にもっとも使用する視聴位置で測定してください。





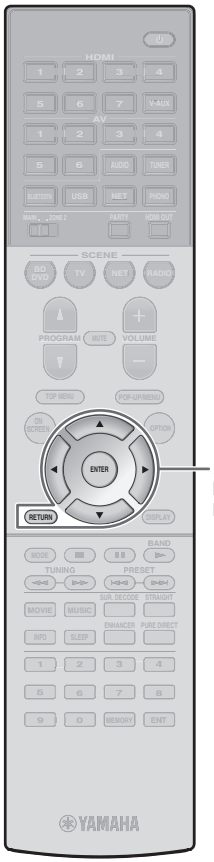
これで準備は完了です。以下の手順で測定を始めてください。

「はい」を選択時：

「複数の視聴位置で測定する（マルチ測定）」（39 ページ）

「いいえ」を選択時：

「1 か所で測定する（シングル測定）」（38 ページ）



1 か所で測定する（シングル測定）

「マルチ測定」を「いいえ」に設定時は、以下の手順で測定を行います。測定に必要な時間は約 3 分です。

1 **測定を始めるには、カーソルキーで「測定」を選び、ENTER キーを押す。**

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、再度 ENTER キーを押します。

- **測定を中止するには、RETURN キーを押します。**

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- **エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（42 ページ）または「警告メッセージ」（43 ページ）をご覧ください。**

- **測定結果を確認するには、「測定結果」を選びます。詳しくは「測定結果を確認する」（41 ページ）をご覧ください。**

2 **カーソルキーで「保存 / キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。**

3 **測定結果を保存するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。**



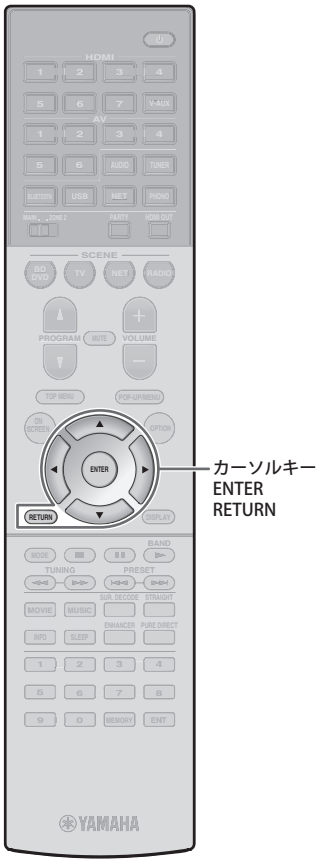
補正されたスピーカー設定が反映されます。

- **測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。**

4 **カーソルキーで「はい」（YPAO ボリューム有効）または「いいえ」（YPAO ボリューム無効）を選び、ENTER キーを押す。**



- **YPAO ボリュームを有効にすると、音量に連動して低音域 / 高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。**
- **オプションメニューの「YPAO ボリューム」（87 ページ）でも YPAO ボリュームを有効 / 無効にできます。**



5 **YPAO 用マイクを本機から取り外す。**

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- **YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。**

複数の視聴位置で測定する（マルチ測定）

「マルチ測定」を「はい」に設定時は、以下の手順で測定を行います。測定に必要な時間は約 10 分です（8 か所で測定する場合）。

- **エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（42 ページ）または「警告メッセージ」（43 ページ）をご覧ください。**

1 **測定を始めるには、カーソルキーで「測定」を選び、ENTER キーを押す。**

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、再度 ENTER キーを押します。

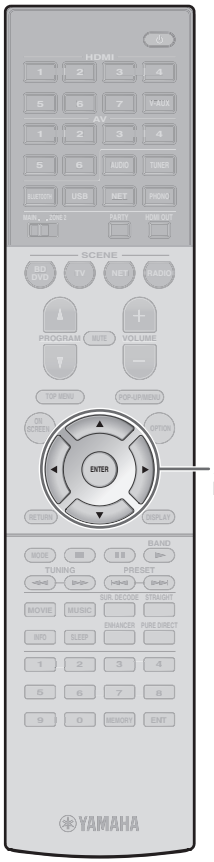
- **測定を中止するには、RETURN キーを押します。**

最初の位置での測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



2 **YPAO 用マイクを次の視聴位置に移動し、ENTER キーを押す。**

すべての視聴位置（最大 8 か所）で測定するまで手順 2 を繰り返します。



3 すべての視聴位置で測定したら、カーソルキーで「キャンセル」選び、**ENTER** キーを押す。

8 か所で測定した場合は、自動的に次の画面が表示されます。



- 測定結果を確認するには、「測定結果」を選びます。詳しくは「測定結果を確認する」（41 ページ）をご覧ください。

4 カーソルキーで「保存 / キャンセル」を選び、**ENTER** キーを押す。

5 測定結果を保存するには、カーソルキーで「保存」を選び、**ENTER** キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。

- 測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

6 カーソルキーで「はい」（**YPAO** ボリューム有効）または「いいえ」（**YPAO** ボリューム無効）を選び、**ENTER** キーを押す。



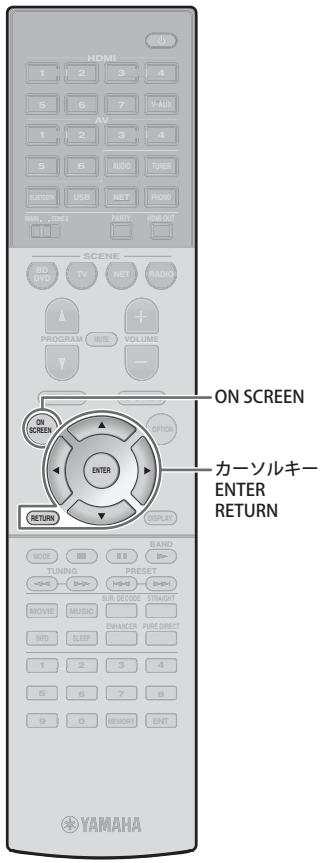
- **YPAO** ボリュームを有効にすると、音量に連動して低音域 / 高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。
- オプションメニューの「**YPAO** ボリューム」（**87** ページ）でも **YPAO** ボリュームを有効 / 無効にできます。

7 **YPAO** 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- **YPAO** 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（**AV** 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。



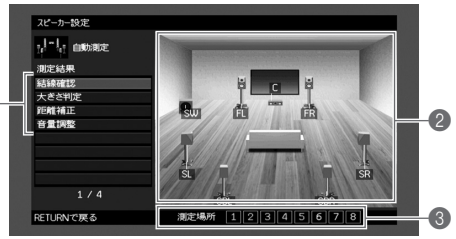
測定結果を確認する

YPAO による測定結果を確認します。

1 **測定終了後に、カーソルキーで「測定結果」を選び、ENTER キーを押す。**

- 設定メニューの「自動測定」（98 ページ）からも、「測定結果」を選べます。この場合は、前回 YPAO を実行した際の測定結果が表示されます。

次の画面が表示されます。



❶ 測定結果項目

❷ 測定結果の詳細

❸ 測定場所の数

2 **カーソルキーで項目を選ぶ。**

結線確認	スピーカーの有無と極性 **逆相：**極性（＋と－）が逆に接続されている可能性がある。
大きさ判定	スピーカーのサイズ（サブウーファーのクロスオーバー周波数） **大：**低音域を効果的に出力できるスピーカーが接続されている。 **小：**低音域を効果的に出力できないスピーカーが接続されている。
距離補正	視聴位置とスピーカーの距離
音量調整	スピーカーの音量補正値

3 **確認後に前の画面に戻るには、RETURN キーを押す。**

最後に保存した YPAO 補正値に戻す

スピーカー設定を手動で調整して音のバランスが悪くなった場合など、手動設定を破棄して、最後に保存した YPAO 補正値に戻すことができます。

1 **設定メニューで「スピーカー設定」、「自動測定」、「測定結果」の順に選ぶ（97 ページ）。**

2 **カーソルキーで「設定の呼び出し」を選び、ENTER キーを押す。**



3 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

エラーメッセージ

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから YPAO を再度実行してください。



エラーメッセージ	原因	対策
E-1：フロント SP	フロントスピーカーを検出できない。	画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
E-2：サラウンド SP	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	
E-3：F プレゼンス SP	プレゼンススピーカーの片側を検出できない。	
E-4：SBR → SBL	サラウンドバックスピーカーが R 端子だけに接続されている。	サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続する場合は、SINGLE 端子（L 側）に接続します。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
E-5：雑音大	雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから、画面表示にしたがって再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
E-6：サラウンド確認	サラウンドスピーカーが未接続なのに、 サラウンドバックスピーカーが接続されている。	サラウンドバックスピーカーを使うには、サラウンドスピーカーが接続されている必要があります。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
E-7：マイク未接続	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、画面にしたがって再測定してください。
E-8：信号入力無し	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、画面にしたがって再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9：測定キャンセル	測定が中断された。	画面にしたがって再測定してください。測定を中止する場合は「終了」を選んでください。
E-10：内部エラー	内部エラーが発生した。	画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

警告メッセージ

測定後に警告メッセージが表示されていても、画面表示にしたがって測定結果を保存できます。

ただし、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから YPAO を再度実行することをおすすめします。



警告メッセージ	原因	対策
W-1：SP 接続逆相	スピーカーの極性（＋と－）が逆に接続されている可能性がある。	「測定結果」（41 ページ）の「結線確認」で、「逆相」と表示されているスピーカーのケーブル接続（＋と－）を確認してください。 **間違って接続されている場合：** 本機の電源を切ってから、スピーカーケーブルを接続し直してください。 **正しく接続されている場合：** スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。
W-2：距離補正限界	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	「測定結果」（41 ページ）の「距離補正」で、「>24.00m（>80.0ft）」と表示されているスピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
W-3：音量補正限界	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	「測定結果」（41 ページ）の「音量調整」で、「>10.0dB」または「<-10.0dB」と表示されているスピーカーを確認してから、各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（＋と－）、サブウーファーの音量が適切かどうか確認してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。

11 無線ネットワーク機器に接続する

無線接続を使って、本機を無線ルーター（アクセスポイント）やモバイル機器に接続します。

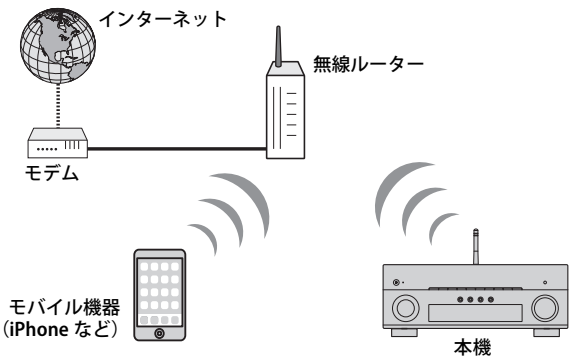
接続方法を選ぶ

お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選びます。

■ 無線ルーター（アクセスポイント）を使って接続する

本機を無線ルーター（アクセスポイント）に接続します。

これによりインターネットラジオや AirPlay、パソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などの DLNA サーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。



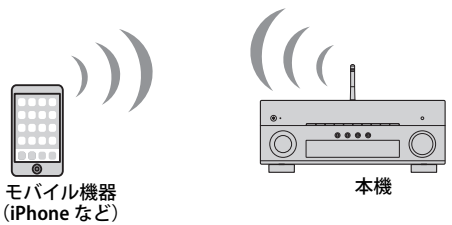
接続方法については「無線ネットワークに接続する」（45 ページ）をご覧ください。

- 有線ネットワーク接続（32 ページ）やワイヤレスダイレクト（50 ページ）と同時に使用することはできません。
- 本機と無線ルーター（アクセスポイント）が離れていると接続できないことがあります。その場合、本機と無線ルーター（アクセスポイント）を近づけてください。

■ 無線ルーター（アクセスポイント）を使わずに接続する

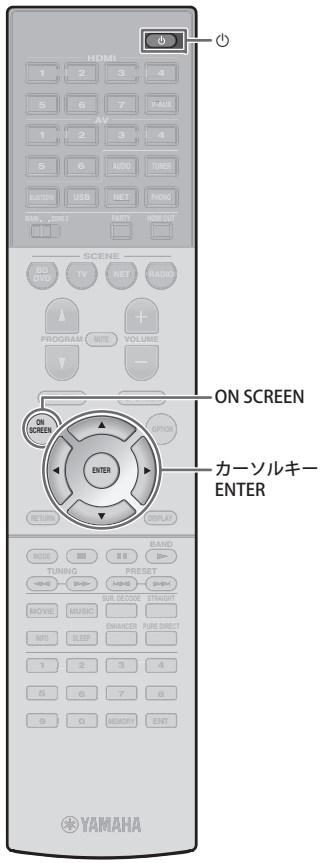
モバイル機器を本機に直接接続します。

スマートフォン / タブレット用アプリケーション「AV CONTROLLER」（9 ページ）を使用して、モバイル機器から本機を操作したり、モバイル機器の音楽ファイルを本機で再生したりできます。



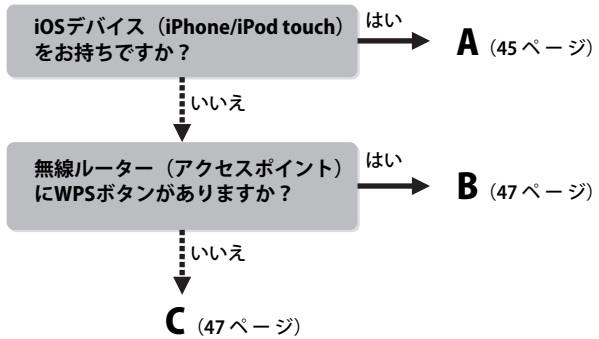
接続方法については「モバイル機器を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト）」（50 ページ）をご覧ください。

- 有線ネットワーク接続（32 ページ）や無線ネットワーク接続（45 ページ）と同時に使用することはできません。
- ワイヤレスダイレクト使用時は、以下の機能を使用できません。
  - インターネットラジオ
  - DLNA サーバー（パソコン、NAS）に保存されている音楽ファイルの再生



無線ネットワークに接続する

本機と無線ネットワークの接続には、いくつかの方法があります。
お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選んでください。



■ 接続方法A：iOSデバイスの設定を共有する

お使いの iOS デバイス（iPhone/iPod touch）のネットワーク設定を本機に適用して、簡単に無線接続の設定をすることができます。

以下の手順を実行する前に、お使いの iOS デバイスが無線ルーター（アクセスポイント）に接続されていることをご確認ください。

1 ⏻（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

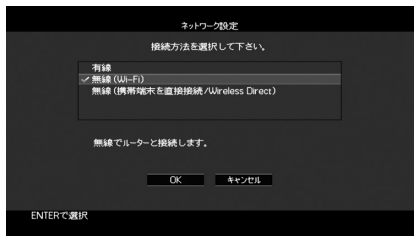
3 ON SCREEN キーを押す。

4 カーソルキーで「設定」を選び、ENTER キーを押す。

5 カーソルキー（◁/▷）で「ネットワーク設定」を選ぶ。

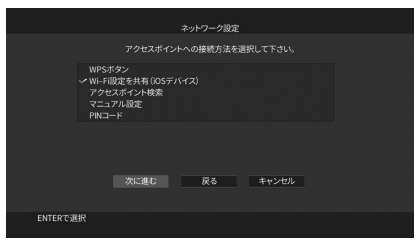
6 カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。

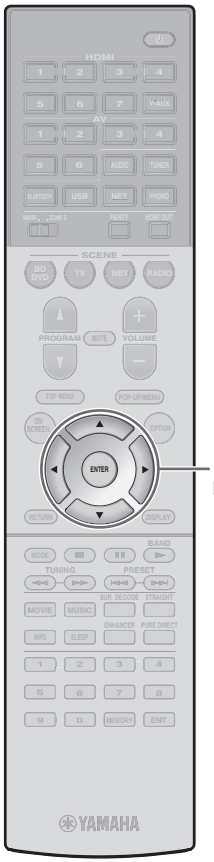
7 カーソルキー（△/▽）と ENTER キーで「無線（Wi-Fi）」をチェックし、「OK」を選ぶ。



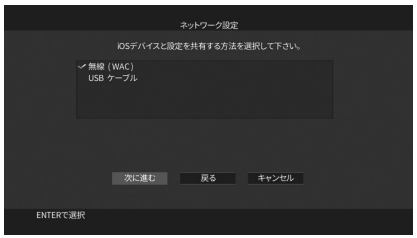
- チェックマークは現在の設定を表示しています。

8 カーソルキー（△/▽）と ENTER キーで「Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）」をチェックし、「次に進む」を選ぶ。





9 カーソルキー（△/▽）と ENTER キーで接続方法を選び、「次に進む」を選ぶ。



以下の接続方法から選びます。

無線（WAC）	iOS デバイスと無線で接続してネットワーク設定を共有します。詳しくは「無線で iOS デバイスの設定を共有する」（46 ページ）をご覧ください。 （iOS 7 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。）
USB ケーブル	iOS デバイスと USB ケーブルで接続してネットワーク設定を共有します。詳しくは「USB 接続で iOS デバイスの設定を共有する」（47 ページ）をご覧ください。 （iOS 5 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。）

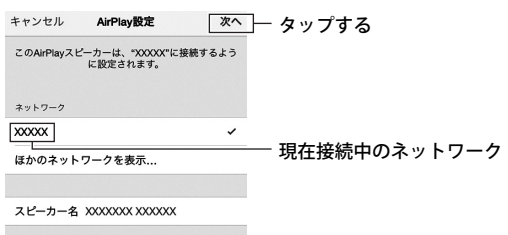
❑ 無線で iOS デバイスの設定を共有する

接続方法に「無線（WAC）」を選んだ場合、iOS デバイスを操作してネットワーク設定の共有を行います。（ここでは例として、iOS 8 の操作方法を説明します。）

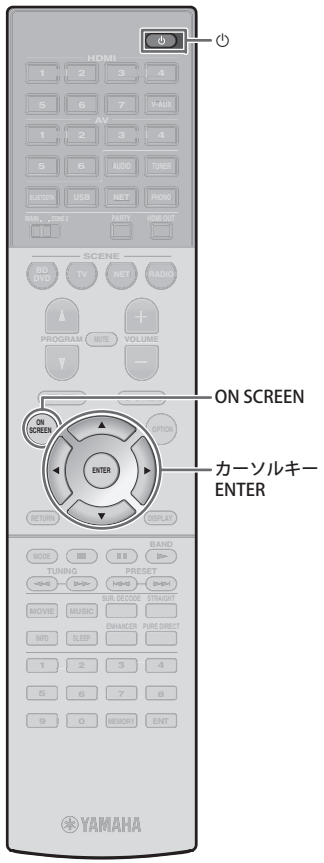
1 iOS デバイスの Wi-Fi 画面で、AirPlay スピーカーとして本機を選ぶ。



2 現在接続中のネットワークを確認し、「次へ」をタップする。



ネットワーク設定の共有が完了すると、本機が自動的に選択したネットワーク（アクセスポイント）に接続されます。

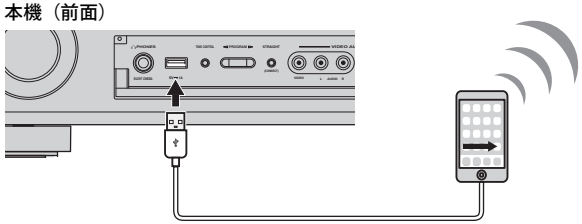


❑ USB 接続で iOS デバイスの設定を共有する

接続方法に「USB ケーブル」を選んだ場合、以下の手順でネットワーク設定の共有を行います。

1 **iOS デバイスを USB 端子に接続し、iOS デバイスの画面ロックを解除する。**

本機（前面）



2 **カーソルキー（◁/▷）で「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。**

3 **iOS デバイスにメッセージが表示されたら「許可」をタップする。**

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

4 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

■ 接続方法 B：WPS ボタンを使って設定する

無線ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押すだけで、簡単に無線接続の設定をすることができます。

- セキュリティー方式に WEP を使用している無線ルーター（アクセスポイント）には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。

1 **⏻（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。**

2 **本体前面の INFO（WPS）キーを 3 秒以上押し続ける。**

前面ディスプレイに「Press WPS button on Access Point」と表示されます。

3 **無線ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押す。**

接続が完了すると、前面ディスプレイに「Completed」と表示されます。

「Not connected」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

WPS とは

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。

■ 接続方法 C：その他の方法で設定する

お使いの無線ルーター（アクセスポイント）に WPS ボタンがない場合は、以下の手順で無線接続の設定を行います。

1 **⏻（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。**

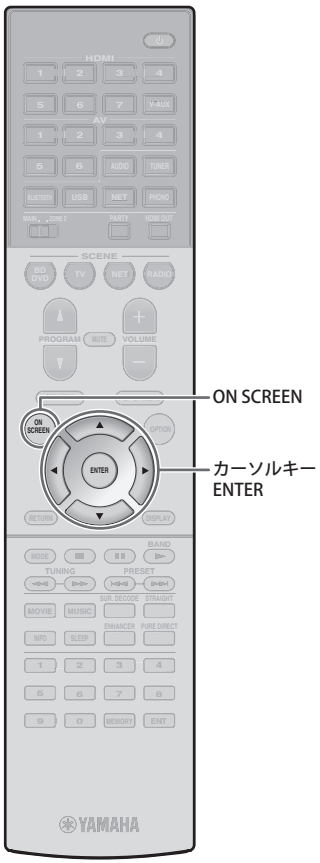
2 **テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。**

- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

3 **ON SCREEN キーを押す。**

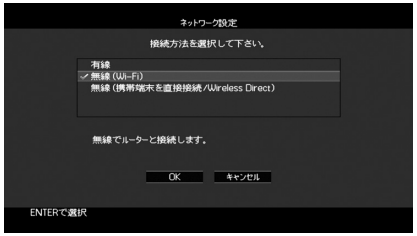
4 **カーソルキーで「設定」を選び、ENTER キーを押す。**

5 **カーソルキー（◁/▷）で「ネットワーク設定」を選ぶ。**



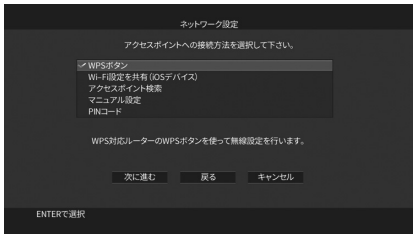
6 **カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。**

7 **カーソルキー（△/▽）と ENTER キーで「無線（Wi-Fi）」をチェックし、「OK」を選ぶ。**



• チェックマークは現在の設定を表示しています。

8 **カーソルキー（△/▽）と ENTER キーで接続方法を選び、「次に進む」を選ぶ。**



以下の接続方法から選びます。

WPS ボタン	テレビ画面の表示にしたがって WPS ボタンを押すだけで、無線接続の設定ができます。
Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）	「iOS デバイスの設定を共有する」（45 ページ）をご覧ください。
アクセスポイント検索	検索したアクセスポイント一覧から、接続先を選びます。詳しくは「アクセスポイントを検索する」（48 ページ）をご覧ください。
マニュアル設定	必要な情報（SSID など）を手動で入力して、無線接続を設定します。詳しくは「手動で無線接続を設定する」（49 ページ）をご覧ください。
PIN コード	無線ルーター（アクセスポイント）に PIN コードを入力して、無線接続を設定します。無線ルーター（アクセスポイント）が PIN コード式の WPS に対応している場合に利用できます。詳しくは「PIN コードを使って設定する」（50 ページ）をご覧ください。

❑ アクセスポイントを検索する

接続方法に「アクセスポイント検索」を選ぶと、アクセスポイントの検索が始まります。しばらくすると、テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

1 **カーソルキーと ENTER キーで接続先のアクセスポイントを選び、「次に進む」を選ぶ。**

テレビに無線接続の設定画面が表示されます。

2 **カーソルキーと ENTER キーでセキュリティーキーを入力し、「次に進む」を選ぶ。**

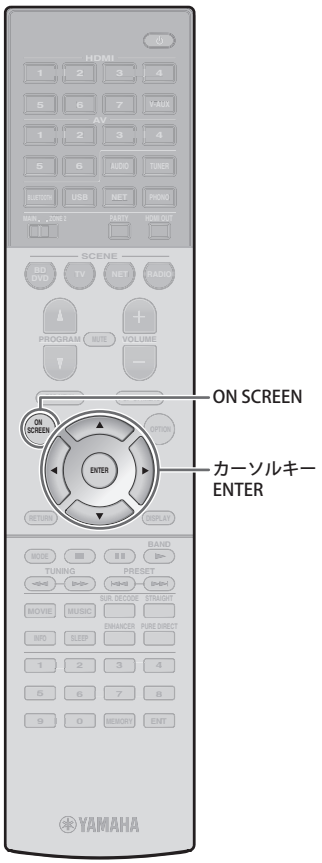


3 **カーソルキー（◁/▷）で「接続」を選び、ENTER キーを押して接続を開始する。**

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

4 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**



❑ 手動で無線接続を設定する

接続方法に「マニュアル設定」を選ぶと、テレビに無線接続の設定画面が表示されます。

SSID（ネットワーク名）、セキュリティー方式、セキュリティーキーを手動で入力して、無線接続の設定を行います。

1 カーソルキーと ENTER キーでアクセスポイントの SSID を入力し、「次に進む」を選ぶ。



2 カーソルキーと ENTER キーでアクセスポイントのセキュリティー方式をチェックし、「次に進む」を選ぶ。



設定値

使用しない、WEP、WPA2-PSK（AES）、Mixed Mode

3 カーソルキーと ENTER キーでアクセスポイントのセキュリティーキーを入力し、「次に進む」を選ぶ。

手順 2 で「使用しない」を選んだ場合は、この画面は表示されません。手順 4 に進んでください。

「WEP」を選んだ場合は、5 桁か 13 桁の文字、または 10 桁か 26 桁の 16 進数を入力します。

それ以外は、8 ～ 63 桁の文字、または 64 桁の 16 進数を入力します。

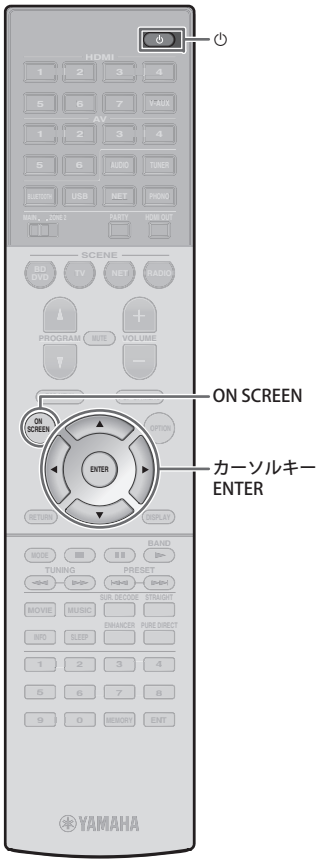


4 カーソルキー（◁/▷）で「接続」を選び、ENTER キーを押して接続を開始する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

5 終了するには、ON SCREEN キーを押す。



❑ PIN コードを使って設定する

接続方法に「PIN コード」を選ぶと、テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

1 **カーソルキーと ENTER キーで接続先のアクセスポイントを選び、「次に進む」を選ぶ。**

テレビ画面に本機の PIN コードが表示されます。

2 **無線ルーター（アクセスポイント）に本機の PIN コードを入力する。**

詳しくは、無線ルーター（アクセスポイント）の取扱説明書をご覧ください。

3 **カーソルキー（◁/▷）で「接続」を選び、ENTER キーを押して接続を開始する。**

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

4 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

モバイル機器を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト）

以下の手順でモバイル機器を本機に直接接続します。

- ワイヤレスダイレクトを使用する場合は、セキュリティー上のリスクがあります。無線機器などを使って第三者が無断アクセスをすると、本機が動作する可能性があります。

1 **⏻（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。**

2 **テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。**

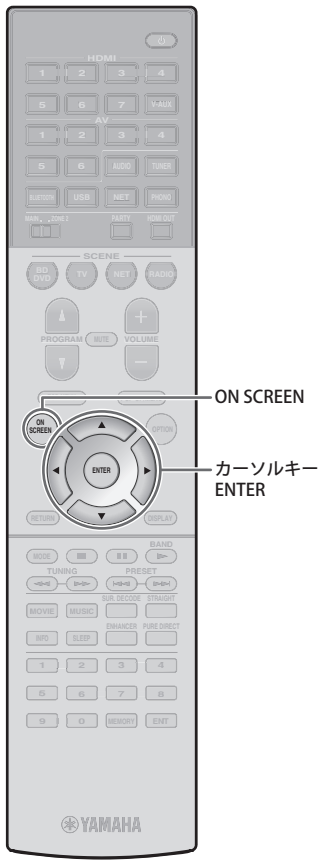
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

3 **ON SCREEN キーを押す。**

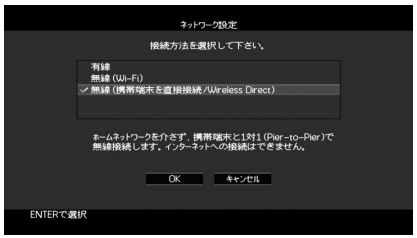
4 **カーソルキーで「設定」を選び、ENTER キーを押す。**

5 **カーソルキー（◁/▷）で「ネットワーク設定」を選ぶ。**

6 **カーソルキー（△/▽）で「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。**



7 カーソルキー（△/▽）と ENTER キーで「無線（携帯端末を直接接続 /Wireless Direct）」をチェックし、「OK」を選ぶ。



- チェックマークは現在の設定を表示しています。

8 カーソルキーと ENTER キーでセキュリティー方式をチェックし、「次に進む」を選ぶ。



設定値
使用しない、WPA2-PSK（AES）

- 「使用しない」を選ぶと、通信が暗号化されないためセキュリティー上のリスクがあります

9 カーソルキーと ENTER キーでセキュリティーキーを入力し、「次に進む」を選ぶ。

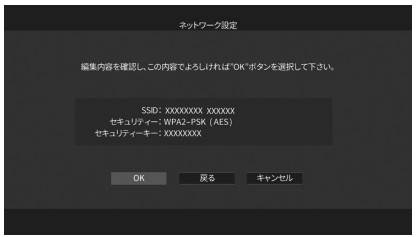
手順 8 で「使用しない」を選んだ場合は、この画面は表示されません。手順 10 に進んでください。

「WPA2-PSK（AES）」を選んだ場合は、8 ～ 63 桁の文字、または 64 桁の 16 進数を入力します。



10 カーソルキー（◁/▷）で「OK」を選び、ENTER キーを押して設定を保存する。

テレビ画面に設定内容が表示されます。



ここに表示されている SSID とセキュリティーキーは、モバイル機器側の Wi-Fi 設定で使用します。

- ここで設定した内容は、情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）でも確認できます。

11 モバイル機器の Wi-Fi 設定を行う。

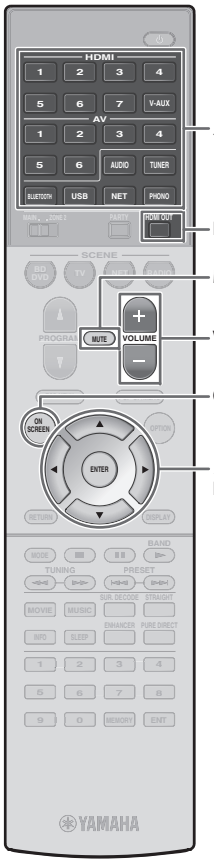
詳しくは、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

① モバイル機器の Wi-Fi 機能を有効にする。

② 利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されたら、手順 10 の画面に表示されている SSID を選ぶ。

③ パスワードの入力を求められたら、手順 10 の画面に表示されているセキュリティーキーを入力する。

12 終了するには、ON SCREEN キーを押す。



再生する

再生の基本操作

1 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）の電源を入れる。

2 入力選択キーで入力を選ぶ。

3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（59 ページ）
- *Bluetooth* で音楽を聴く（62 ページ）
- iPod の曲を再生する（63 ページ）
- USB 機器の曲を再生する（66 ページ）
- パソコン（サーバー）の曲を再生する（69 ページ）
- インターネットラジオを聴く（72 ページ）
- AirPlay で音楽を聴く（75 ページ）

4 VOLUME キーで音量を調節する。

- **MUTE** キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- オプションメニュー、または本体前面の **TONE CONTROL** キーで高音域と低音域のバランスを調整できます（**87** ページ）。

テレビ画面でも入力を選べます

① ON SCREEN キーを押す。

② カーソルキーで「入力選択」を選び、ENTER キーを押す。

③ カーソルキーで入力を選び、ENTER キーを押す。

HDMI 出力端子を切り替える

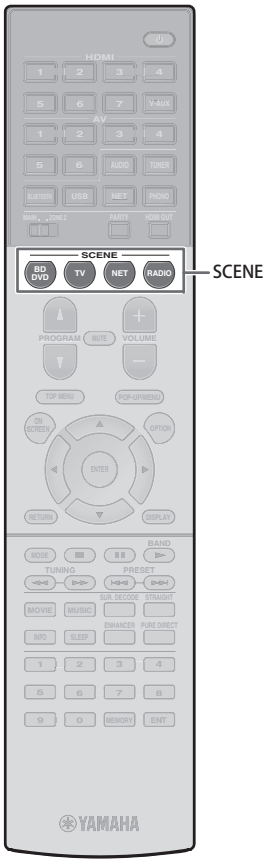
1 HDMI OUT キーで HDMI OUT 端子を選ぶ。

キーを押すたびに、信号を出力する HDMI OUT 端子が切り替わります。



HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1 ～ 2 端子の両方から同じ信号を出力する。
HDMI OUT 1	選択した HDMI OUT 端子からのみ信号を出力する。
HDMI OUT 2	
HDMI OUT Off	HDMI OUT 端子から信号を出力しない。

- シーン機能（**53** ページ）でも、**HDMI** 出力端子を切り替えることができます。
- 「**HDMI OUT 1+2**」を選んだ場合、出力先の **2** 台のテレビ（またはプロジェクター）の両方が対応しているもっとも高い解像度で信号が出力されます。（例：**HDMI OUT1** 端子に **1080p** 対応のテレビ、**HDMI OUT2** 端子に **720p** 対応のテレビを接続している場合、**720p** 信号が出力されます。）



入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効 / 無効、HDMI 出力端子）をワンタッチで選ぶことができます。

1 **SCENE キーを押す。**

該当 SCENE キーに登録されている内容が呼び出されます。

本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

各 SCENE キーの登録内容（初期値）は以下のとおりです。

SCENE キー	BD DVD	TV	NET	RADIO
入力	HDMI1	AV4	NET RADIO	TUNER
音場プログラム	MOVIE（Sci-Fi）	STRAIGHT	MUSIC（7ch Stereo）	MUSIC（7ch Stereo）
ミュージックエンハンサー	オフ	オン	オン	オン
HDMI 出力端子	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2

シーン機能の登録内容を変更する

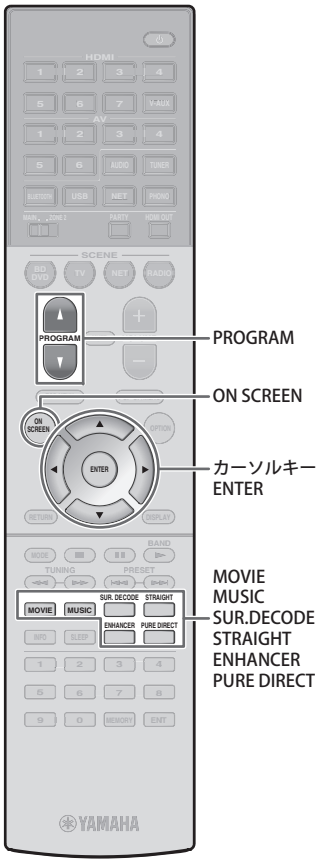
1 **以下の操作を行って、SCENE キーに登録したい状態にする。**

- 登録したい入力を選ぶ（52 ページ）
- 登録したい音場プログラムを選ぶ（54 ページ）
- ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にする（58 ページ）
- HDMI 出力端子を切り替える（52 ページ）

2 **前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE キーを押し続ける。**



- シーン選択メニュー（92 ページ）でも、シーン機能の登録内容を変更できます。
- シーン選択と連動して、HDMI で本機に接続した外部機器の再生を開始できます（シーン連動再生）。シーン連動再生を有効にするには、シーン選択メニューの「機器連携」（93 ページ）で機器の種類を指定してください。



好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

❑ 映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ

• MOVIE キーを繰り返し押す。

映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムをお楽しみいただけます（55 ページ）。

❑ 音楽に適した音場プログラムまたはステレオ再生を選ぶ

• MUSIC キーを繰り返し押す。

音楽鑑賞に適した音場プログラムやステレオ再生をお楽しみいただけます（56 ページ）。

❑ サラウンドデコーダーを選ぶ

• SUR. DECODE キーを繰り返し押す。

音場効果をかけずに、2 チャンネルソースをマルチチャンネル再生でお楽しみいただけます（57 ページ）。

❑ ストレートデコードに切り替える

• STRAIGHT キーを押す。

音場効果をかけずに、オリジナルチャンネルの音声をお楽しみいただけます（57 ページ）。

❑ ピュアダイレクトに切り替える

• PURE DIRECT キーを押す。

ほかの回路からのノイズを低減することで、原音により忠実な音声をお楽しみいただけます（58 ページ）。

❑ ミュージックエンハンサーを有効にする

• ENHANCER キーを押す。

圧縮音源に音の深みと広がりを加え、ダイナミックな再生音をお楽しみいただけます（58 ページ）。

テレビ画面でも音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べます

① ON SCREEN キーを押す。

② カーソルキーで「DSP プログラム」を選び、ENTER キーを押す。

③ カーソルキーで音場プログラムやサラウンドデコーダーを選び、ENTER キーを押す。

- **PROGRAM キーで音場プログラムやサラウンドデコーダーを選択することもできます。**
- **DSP プログラムメニュー（94 ページ）では、音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定を変更できます。**
- **音場プログラムやサラウンドデコーダーは入力ごとに記憶されます。**
- **本体前面のスピーカー表示（11 ページ）または情報メニューの「音声信号」（114 ページ）で、音声出力中のスピーカー端子を確認できます。**

Dolby Atmos® について

- **以下の場合は、Dolby Atmos コンテンツであっても Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、マルチチャンネル PCM のいずれかのフォーマットで再生されます。**
  - **– シネマ DSP の音場プログラムを選択している。**
  - **– サラウンドバックとプレゼンススピーカーのいずれも使用していない。**
  - **– ヘッドホンを接続している（2 チャンネル再生になります）。**
- **Dolby Atmos デコーダーがはたらいているときは、バーチャルシネマフロント（56 ページ）などのバーチャル処理や、YPAO ボリューム（87 ページ）、ミュージックエンハンサー（58 ページ）などの機能は動作しません。**

立体的な音場を楽しむ（シネマ DSP 3D）

CINEMA DSP 3D DIGITAL

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP 3D）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。



- 通常のシネマ DSP を使用する場合は、設定メニューの「シネマ DSP 3D モード」（104 ページ）を「オフ」に設定してください。
- よりよい音場効果を得るにはプレゼンススピーカーの使用をおすすめします。ただし、プレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、立体的な視聴空間を実現します。
- サラウンドバックスピーカーが接続されていない状態で、6.1ch 以上の音声信号が入力されたときは、本機はサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し（VSBS）、後方に奥行き感ある視聴空間を実現します。
- VPS または VSBS が機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラム（MOVIE）

映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

❑ ムービーシアター

Standard（スタンダード）	Dolby Digital、DTS、AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle（スペクタクル）	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi（サイファイ）	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure（アドベンチャー）	アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama（ドラマ）	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie（モノムービー）	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。広がりと適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。

❑ エンターテイメント

Sports（スポーツ）	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game（アクションゲーム）	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game（ロールプレイングゲーム）	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。
Music Video（ミュージックビデオ）	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。 ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

■ 音楽に適した音場プログラム / ステレオ再生（MUSIC）

音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。ステレオ再生も選べます。

❑ クラシカル

Hall in Munich（ミュンヘン）	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna（ウィーン）	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber（チェンバー）	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。

❑ ライブ / クラブ

Cellar Club（セラークラブ）	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre（ロキシーシアター）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line（ボトムライン）	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

❑ ステレオ

2ch Stereo（2ch ステレオ）	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
7ch Stereo（7ch ステレオ）	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 7 つのスピーカーから音が出力され、ホームパーティーの BGM に最適です。

- 「7ch Stereo」または「2ch Stereo」選択時は、シネマ DSP 3D（55 ページ）およびバーチャルシネマ DSP（56 ページ）は機能しません。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

本機には、ヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術が搭載されています。これにより、いずれかの音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）を選ぶと、サラウンドスピーカーが接続されていない状態でも、前方のスピーカーだけで定位感に優れた最大 7 チャンネルのサラウンド感を創り出し、音場効果を楽しむことができます。さらにプレゼンススピーカーを使用することで、より立体的な音場効果を得ることができます。

- バーチャルシネマ DSP が機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

■ 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ（バーチャルシネマフロント）

部屋の後方に設置スペースがない場合など、サラウンドスピーカーを前方に設置して（18 ページ）、マルチチャンネル再生を楽しめます。設定メニューの「配置（サラウンド）」（102 ページ）で「前方」を選ぶと、本機は前方に設置した 5 本のスピーカーを使って、部屋の後方にバーチャルサラウンドスピーカーを創り出します。これにより自然なマルチチャンネルサラウンドをお楽しみいただけます。

- バーチャルシネマフロントが機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

■ ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ）

SILENT ™
CINEMA

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べば、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しむことができます。



音場効果をかけずに再生する

■ オリジナルチャンネルでの再生を楽しむ（ストレートデコード）

ストレートデコードを使うと、CD などの 2 チャンネルソースをフロントスピーカーからステレオ音声で再生できます。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 **STRAIGHT キーを押す。**

キーを押すたびに、ストレートデコードが有効/無効になります。



- **設定メニューの「配置（サラウンド）」（102 ページ）を「前方」に設定時は、マルチチャンネルソースを再生するとバーチャルシネマフロント（56 ページ）が機能します。**

■ 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ（サラウンドデコーダー）

サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースやマルチチャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。

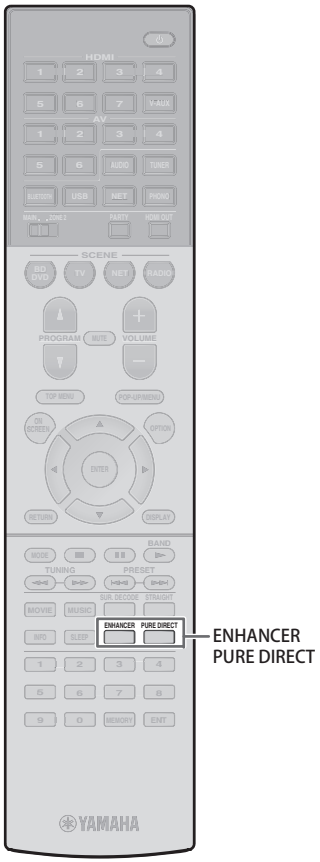
- **音が出るスピーカーは、使用しているスピーカーシステムやデコーダー（95 ページ）により異なります。**
- **各デコーダーについて詳しくは、「用語/技術解説」（130 ページ）をご覧ください。**

1 **SUR.DECODE キーでサラウンドデコーダーを選ぶ。**

キーを押すたびにデコーダーが切り替わります。



DSurround	Dolby Surround デコーダーです。すべてのソースに適しています。特に、オブジェクトベースの音声信号（Dolby Atmos コンテンツなど）を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
DPLIIx Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。2 チャンネルソース再生時でもサラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。
DPLII Movie	
DPLIIx Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。2 チャンネルソース再生時でもサラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。
DPLII Music	
DPLIIx Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。2 チャンネルソース再生時でもサラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。
DPLII Game	



Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダー（または DTS-ES マトリクスデコーダー）です。サラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダー（または DTS-ES マトリクスデコーダー）です。サラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。

- ヘッドホン接続時または設定メニューの「サラウンドバック」（101 ページ）を「無」に設定時は、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選べません。
- Dolby Surround デコーダー選択時は、バーチャルシネマフロント（56 ページ）などのバーチャル処理や、YPAO ボリューム（87 ページ）、ミュージックエンハンサー（58 ページ）などの機能は動作しません。
- サラウンドバックスピーカーが 1 本のシステムで、Dolby Surround デコーダーを選択した場合、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されません（Dolby Atmos コンテンツ再生時を除く）。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトを使うと、最低限再生に必要な機能を除き、各種の回路（前面ディスプレイなど）が停止されます。これによりノイズの混入を防ぎ、原音により忠実な音質で再生できます。

1 PURE DIRECT キーを押す。

キーを押すたびに、ピュアダイレクトが有効 / 無効になります。



- ピュアダイレクト使用時は、以下の機能は使用できません。
  - 音場プログラムの選択
  - オプションメニュー（一部の項目）、オンスクリーンメニューの操作
  - マルチゾーン機能
  - 前面ディスプレイの表示（操作がない場合）

圧縮音源をダイナミック再生する（ミュージックエンハンサー）

compressed music ENHANCER

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

1 ENHANCER キーを押す。

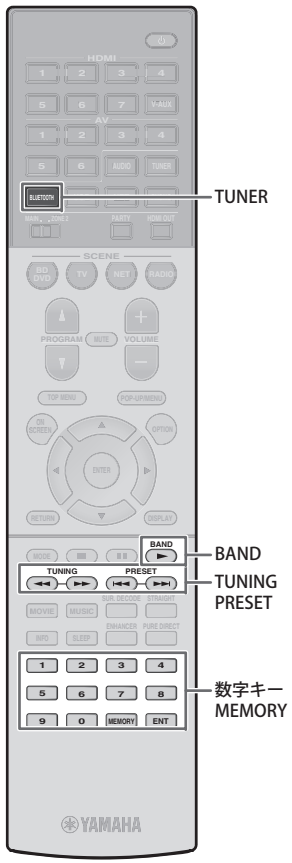
キーを押すたびに、ミュージックエンハンサーが有効 / 無効になります。

「ENHANCER」が点灯



- サンプリング周波数が 48kHz を超える音声には機能しません。

- オプションメニューの「エンハンサー」（88 ページ）でも、ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にできます。



FM/AM ラジオを聴く

ラジオの選局をするには、周波数を指定するか、登録したラジオ局を呼び出します。

- 本機は FM 補完放送に対応しています。

- ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。

周波数を指定して選局する

1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 BAND キーで FM/AM を切り替える。



3 以下のキーで選局する。

TUNING キー 周波数を切り替えます。約 1 秒押し続けると、放送局を自動でサーチします。

数字キー 周波数を直接入力します（例：82.5MHz を選ぶ場合は「8」「2」「5」と入力します）。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。

ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

- 受信範囲外の周波数を入力した場合は、「Wrong Station!」と表示されます。

- オプションメニューの「FM モード」（89 ページ）で FM ラジオのステレオ / モノラルを切り替えることができます。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選ぶと改善される場合があります。

お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット）

最大 40 局のラジオ局を登録できます。登録したラジオ局は、プリセット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ラジオ局を登録する

ラジオ局を手動で選んでプリセット番号に登録します。

- 「オートプリセット」（61 ページ）を使うと、信号の強い FM ラジオ局を自動で登録できます。

1 「周波数を指定して選局する」の手順で、登録したいラジオ局を受信する。

2 MEMORY キーを 2 秒以上押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号に登録されます。

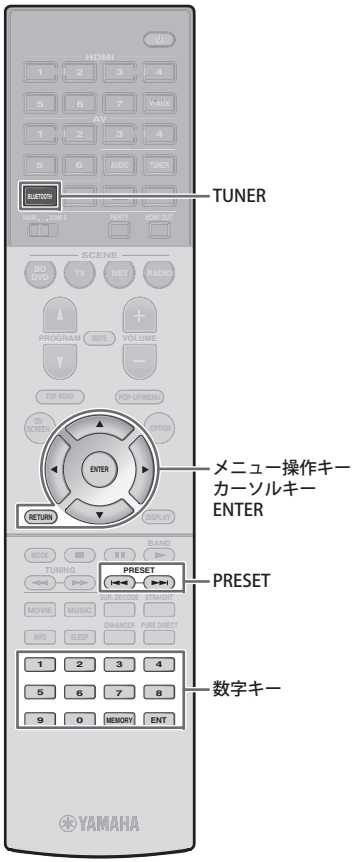


登録先のプリセット番号

- 登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーまたは数字キーでプリセット番号を選び、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」（空き）または現在登録されている周波数



■ 登録したラジオ局を呼び出す

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選びます。

1 **TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。**

2 **PRESET キーでプリセット局を選ぶ。**

PRESET キーを一度押したあと、数字キーでプリセット番号（01 ～ 40）を直接入力することもできます。



- **ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。**
- **無効なプリセット番号を入力した場合は、「Wrong Num.」と表示されます。**
- **未登録のプリセット番号を入力した場合は、「Empty」と表示されます。**

- 登録内容を消去するには、「プリセット消去」または「全プリセット消去」（**61** ページ）を実行してください。

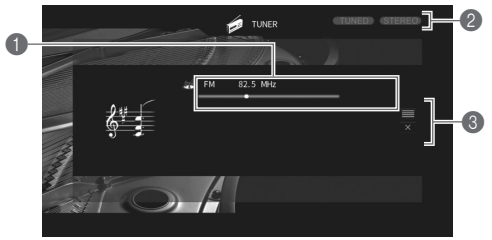
テレビ画面でラジオを操作する

テレビ画面で、受信中のラジオ局の情報を確認したり聴きたいラジオ局を選んだりできます。

1 **TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。**

テレビに再生画面が表示されます。

■ 再生画面



❶ ラジオ局情報

FM/AM、周波数など、受信中のラジオ局の情報が表示されます。

❷ TUNED/STEREO 表示

ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。

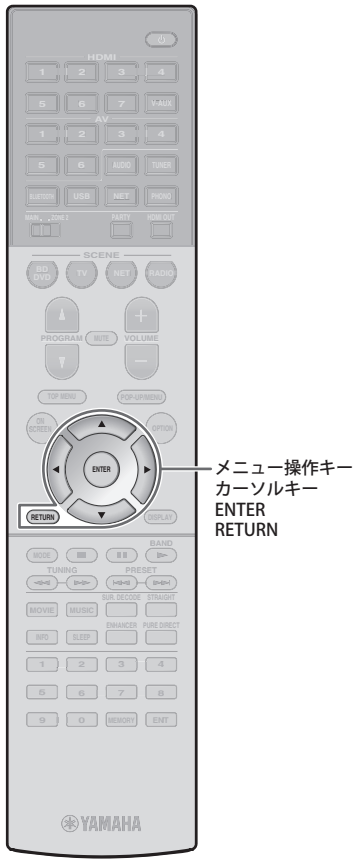
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

❸ 操作メニュー

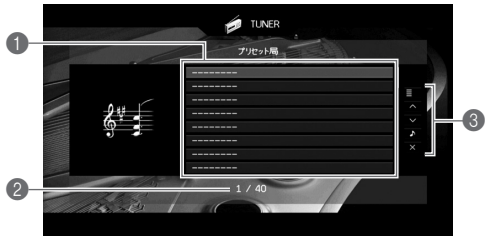
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。

ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
ブラウズ画面へ	ブラウズ画面（プリセット局リスト）を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。 いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。



■ ブラウズ画面

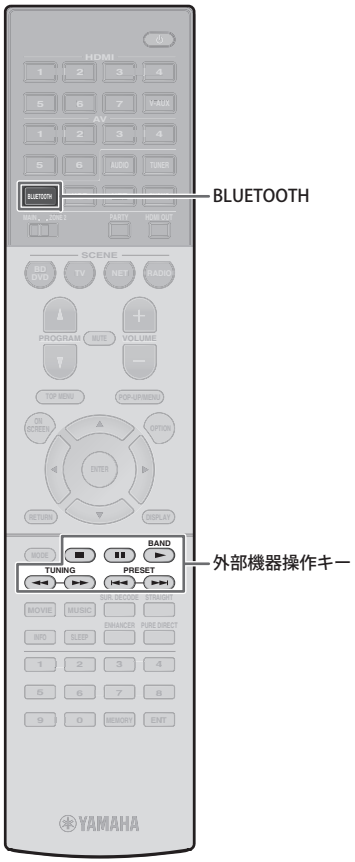


❶ プリセット局リスト
プリセット局の一覧が表示されます。カーソルキーでプリセット局を選び、ENTER キーで呼び出します。

❷ プリセット番号

❸ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。
ENTER キーで実行します。
サブメニューを閉じるには、RETURN キーを押します。

メニュー	サブメニュー	説明
ユーティリティ	保存	受信中のラジオ局をリストで選択しているプリセット番号に登録します。
	オートプリセット	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します（最大 40 局）。
	プリセット消去	リストで選択しているプリセット局を消去します。
	全プリセット消去	プリセット局をすべて消去します。
1 ページ上へ		リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ		
再生画面へ		再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる		画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。



Bluetooth で音楽を聴く

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。



- ***Bluetooth*** **機能を使用するには、設定メニューの「Bluetooth」（109 ページ）を「オン」（初期値）に設定してください。**

- **対応している *Bluetooth* 機器については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（133 ページ）をご覧ください。**

Bluetooth 機器の曲を本機で再生する

本機と *Bluetooth* 機器（スマートフォンなど）を接続して、*Bluetooth* 機器の曲を本機で再生します。

- ***Bluetooth*** **機器の映像を本機で再生することはできません。**

1 BLUETOOTH キーで入力を「Bluetooth」に切り替える。

2 *Bluetooth* 機器で接続操作を行い、使用可能なデバイスのリストから本機（ネットワーク名）を選ぶ。

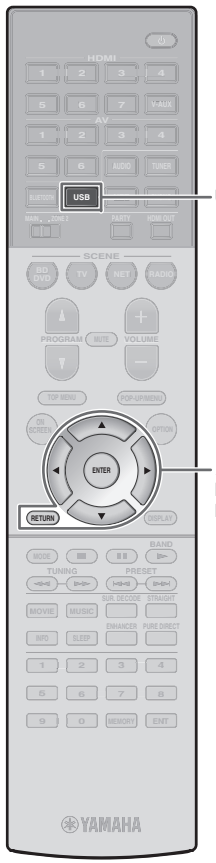
本機と *Bluetooth* 機器が接続されます。

パスキーを要求された場合は、数字の「0000」を入力してください。

3 *Bluetooth* 機器で曲を選び、再生を始める。

テレビに再生画面（アーティスト名、アルバム名、曲名）が表示されます。

- **本機が前回接続した *Bluetooth* 機器を検出すると、手順 1 実行後にその *Bluetooth* 機器と自動的に接続されます。別の *Bluetooth* 機器と接続する場合は、現在の *Bluetooth* 接続を切断してください。**
- ***Bluetooth*** **接続を切断するには、以下のいずれかの操作を行ってください。**
  - ***Bluetooth*** **機器で切断操作をする。**
  - **本機で「Bluetooth」以外の入力を選ぶ。**
  - **設定メニューの「Bluetooth 設定」で「音声受信」を選び、「デバイス切断」を実行する。**
- **リモコンの外部機器操作キー（►、■、▮▮、⏮、⏭）で再生操作ができます（*Bluetooth* 機器によっては一部の機能を操作できない場合があります）。**



iPod の曲を再生する

iPod 付属の USB ケーブルを使って、iPod の曲を本機で再生します。

- 対応している iPod については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（133 ページ）をご覧ください。

- iPad の USB ケーブル接続には対応していません。iPad の曲を本機で再生するには、AirPlay（75 ページ）をご利用ください。

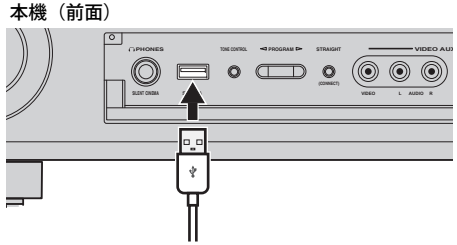
iPod を接続する

iPod 付属の USB ケーブルを使って、iPod を本機に接続します。

1 USB ケーブルを iPod に接続する。

2 USB ケーブルを USB 端子に接続する。

本機（前面）





- 本機の電源が入っているときは iPod が充電されます。iPod を充電中に本機をスタンバイにした場合は、最大 4 時間まで充電を続けます。設定メニューの「ネットワークスタンバイ」（108 ページ）を「オン」に設定したときは、常時充電します。

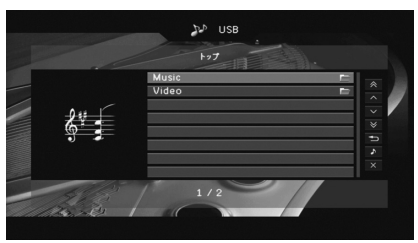
- iPod を使用しないときは、USB 端子から取り外してください。

iPod の曲を選ぶ

iPod の曲を選んで、再生を始めます。
テレビ画面を見ながら iPod を操作できます。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。



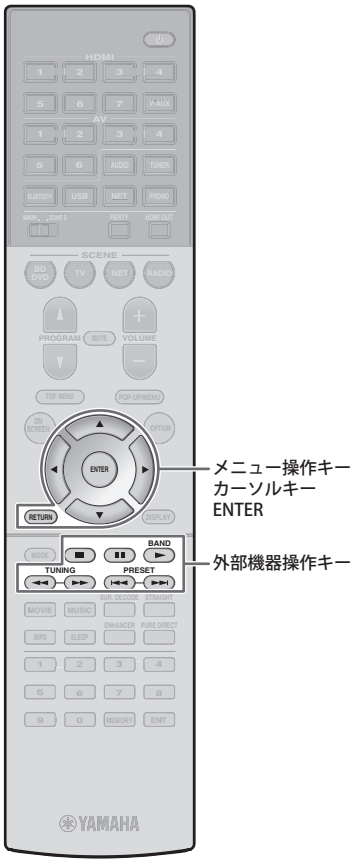
- iPod 側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- iPod を使って操作するには、シンプル再生（65 ページ）に切り替えます。



■ ブラウズ画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（65 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❷ リスト名

❸ コンテンツリスト
iPod のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。 いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

■ 再生画面



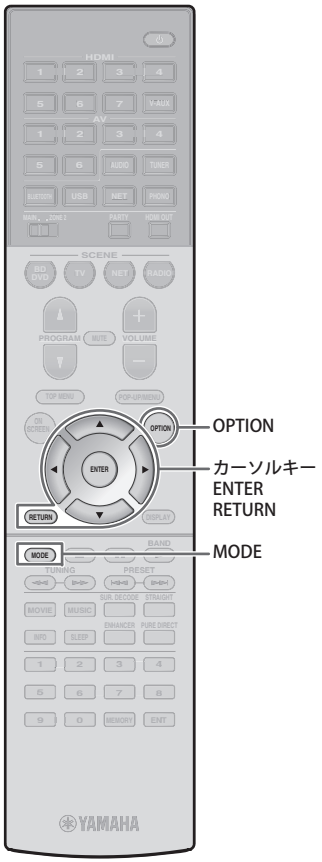
❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（65 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❷ 再生情報
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間 / 残り時間が表示されます。
カーソルキー（△/▽）でスクロールさせる情報を選べます。

❸ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
ブラウズ画面へ	ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。 いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- **リモコンの外部機器操作キーで再生操作ができます。**



■ iPod 本体で操作する（シンプル再生）

1 **MODE キーでシンプル再生に切り替える。**

テレビの表示が消えて、iPod で操作可能になります。

テレビの表示（ブラウズ画面 / 再生画面）に戻すには、もう一度 MODE キーを押します。

2 **iPod 本体でコンテンツを選び、再生を始める。**

■ シャッフル再生 / リピート再生

iPod のシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

- シンプル再生で操作中は、**iPod** 側で直接設定するか、**MODE** キーを押してテレビの表示に戻してから以下の手順を行ってください。

1 **入力に「USB」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。**

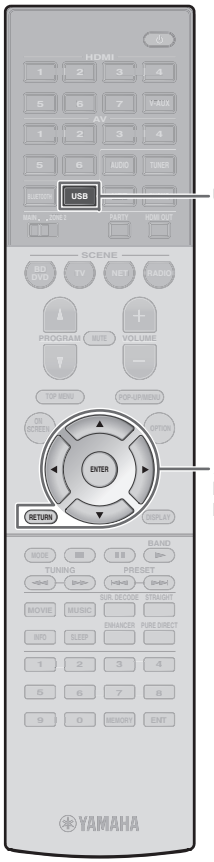
2 **カーソルキーで「シャッフル」（Shuffle）または「リピート」（Repeat）を選び、ENTER キーを押す。**

- メニュー操作中、**1** つ前の画面に戻るには **RETURN** キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 **カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。**

項目	設定値	説明
シャッフル（Shuffle）	オフ（Off）	シャッフル再生を無効にします。
	曲（Songs）	曲をランダムに再生します。 テレビ画面に「🔀」が表示されます。
	アルバム（Albums）	アルバム単位でランダムに再生します。 テレビ画面に「🔀」が表示されます。
リピート（Repeat）	オフ（Off）	リピート再生を無効にします。
	1 曲（One）	現在の曲を繰り返し再生します。 テレビ画面に「🔂」が表示されます。
	すべて（All）	現在のアルバムを繰り返し再生します。 テレビ画面に「🔁」が表示されます。

4 **終了するには、OPTION キーを押す。**



USB 機器の曲を再生する

USB 機器に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

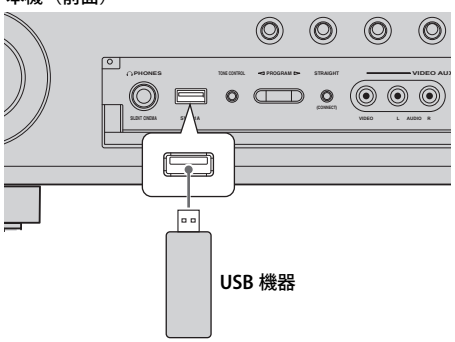
本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器に対応しています。

- 対応しているファイル形式については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（133 ページ）をご覧ください。

USB 機器を接続する

1 **USB 機器を USB 端子に接続する。**

本機（前面）





- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。この場合、前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。

- USB 機器を使用しないときは、USB 端子から取り外してください。
- USB 機器は再生を停止させてから取り外してください。
- 本機の USB 端子にパソコンを接続することはできません。

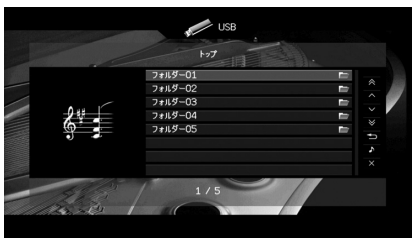
USB 機器の曲を選ぶ

USB 機器の曲を選んで、再生を始めます。

テレビ画面を見ながら操作できます。

1 **USB キーで入力を「USB」に切り替える。**

テレビにブラウズ画面が表示されます。



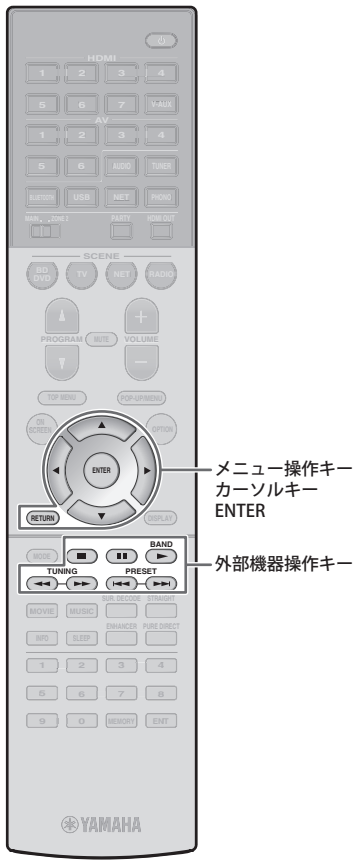
- USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

2 **カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。**

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- 本機が対応していない形式のファイルは選べません。
- 再生できないファイル（画像や隠しファイル含む）が続いた場合は再生を停止します。
- ショートカット機能（81 ページ）を使うと、お好みの曲を登録することができます。登録した曲は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（68 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

❷ リスト名

❸ コンテンツリスト
USB 機器のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

■ 再生画面



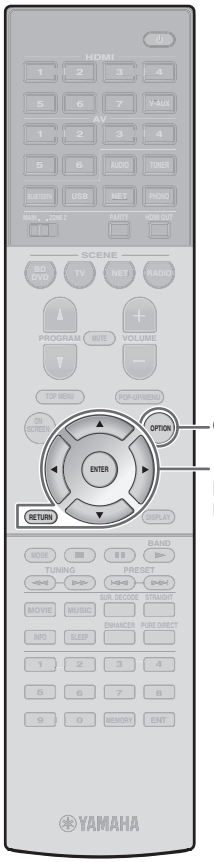
❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（68 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

❷ 再生情報
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。
カーソルキー（△/▽）でスクロールさせる情報を選べます。

❸ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
ブラウズ画面へ	ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キー（►、■、▮▮、◄◄、►►I）で再生操作ができます。



■ シャッフル再生 / リピート再生

USB 機器のシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

1 入力に「**USB**」が選ばれている状態で、**OPTION** キーを押す。

2 カーソルキーで「シャッフル」（**Shuffle**）または「リピート」（**Repeat**）を選び、**ENTER** キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、**RETURN** キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選び、**ENTER** キーを押す。

項目	設定値	説明
シャッフル（Shuffle）	オフ（Off）	シャッフル再生を無効にします。
	オン（On）	アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生します。 テレビ画面に「⤮」が表示されます。
リピート（Repeat）	オフ（Off）	リピート再生を無効にします。
	1 曲（One）	現在の曲を繰り返し再生します。 テレビ画面に「🔂」が表示されます。
	すべて（All）	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生します。 テレビ画面に「🔁」が表示されます。

4 終了するには、**OPTION** キーを押す。

パソコン（サーバー）の曲を再生する

パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージサーバー（NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

- この機能を使用するには、本機とパソコン（サーバー）が同じルーターに接続されている必要があります（32 ページ）。情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- 無線ネットワークの状態によっては、ハイレゾ音源などを再生すると音声が途切れることがあります。その場合は、有線でネットワークに接続してください。

- 対応しているファイル形式については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（133 ページ）をご覧ください。

メディアの共有設定を行う

パソコン（サーバー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生するには、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。

■ Windows Media Player がインストールされているパソコン

❑ Windows Media Player 12 の場合

1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。

2 メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。

3 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。

4 機種名の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。

5 「OK」をクリックして設定を終了する。

❑ Windows Media Player 11 の場合

1 パソコンで Windows Media Player 11 を起動する。

2 「ライブラリ」から「メディアの共有」を選ぶ。

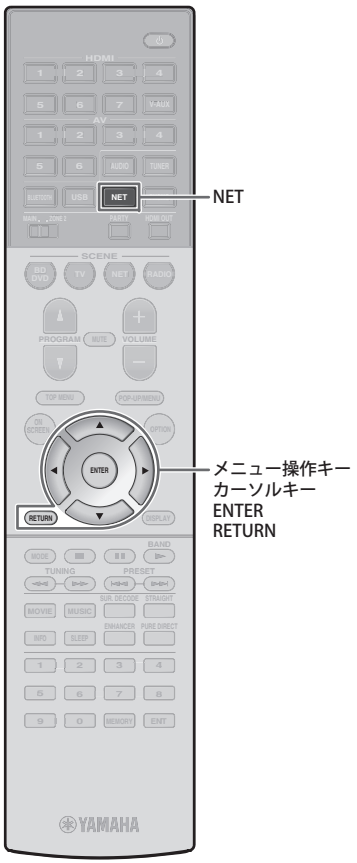
3 「メディアを共有する」をチェックし、本機のアイコンを選んで「許可」をクリックする。

4 「OK」をクリックして設定を終了する。

- 共有設定については、Windows Media Player のヘルプをご覧ください。

■ Windows Media Player 以外の DLNA サーバーソフトがインストールされているパソコン（サーバー）

各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。

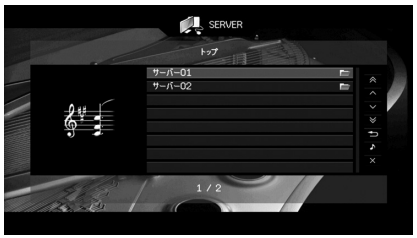


再生する

パソコン（サーバー）の曲を選ぶ

パソコン（サーバー）の曲を選んで、再生を始めます。
テレビ画面を見ながら操作できます。

1 **NETキーを繰り返し押して、入力を「SERVER」に切り替える。**
テレビにブラウズ画面が表示されます。



- 本機から操作したパソコン（サーバー）の再生が続いている場合は、再生画面が表示されます。

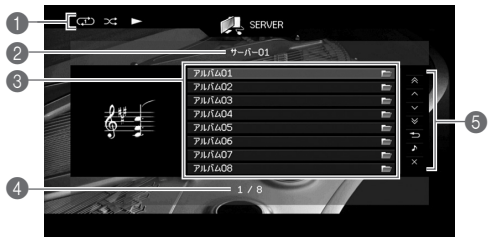
2 **カーソルキーでサーバーを選び、ENTERキーで確定する。**

3 **カーソルキーでコンテンツを選び、ENTERキーで確定する。**
曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- 本機が対応していない形式のファイルは選べません。
- 再生できないファイル（画像や隠しファイル含む）が続いた場合は再生を停止します。
- ショートカット機能（81 ページ）を使うと、お好みの曲を登録することができます。登録した曲は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ブラウズ画面



❶ ステータス表示
シャッフル再生 / リピート再生の設定（71 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

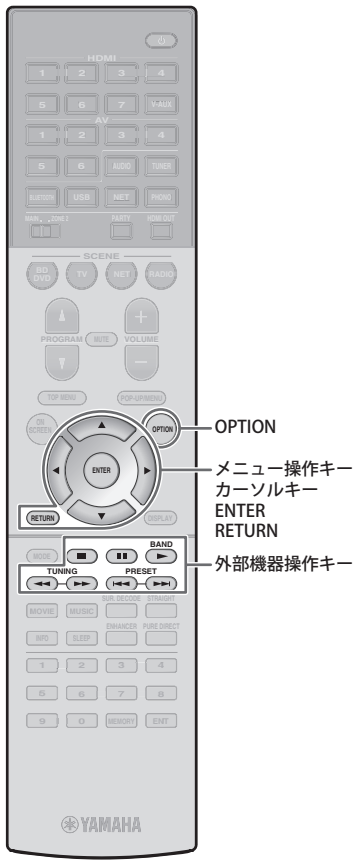
❷ リスト名

❸ コンテンツリスト
パソコン（サーバー）のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。 いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。



■ 再生画面



❶ ステータス表示

シャッフル再生 / リピート再生の設定（71 ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止）が表示されます。

❷ 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。

カーソルキー（△/▽）でスクロールさせる情報を選べます。

❸ 操作メニュー

カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。

ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
ブラウズ画面へ	ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。 いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- **リモコンの外部機器操作キーで再生操作ができます（パソコンによっては一部の機能を操作できない場合があります）。**
- **DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー（DMC）からも再生を操作できます。詳しくは「DMC からの操作」（92 ページ）をご覧ください。**

■ シャッフル再生 / リピート再生

パソコンのシャッフル再生およびリピート再生を設定します。

1 **入力に「SERVER」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。**

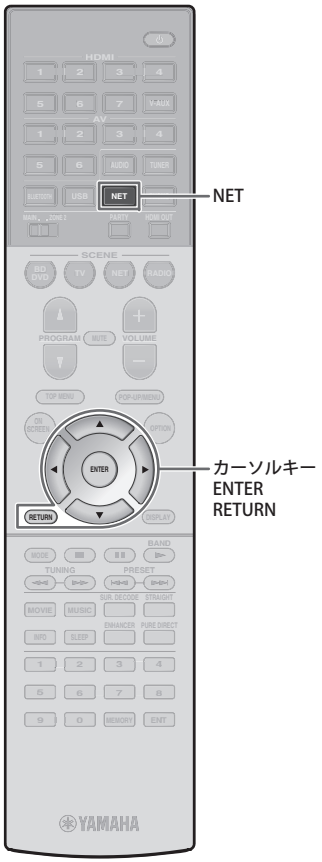
2 **カーソルキーで「シャッフル」（Shuffle）または「リピート」（Repeat）を選び、ENTER キーを押す。**

- **メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。**
- **カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。**

3 **カーソルキー（◁/▷）で設定値を選び、ENTER キーを押す。**

項目	設定値	説明
シャッフル（Shuffle）	オフ（Off）	シャッフル再生を無効にします。
	オン（On）	アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生します。 テレビ画面に「🔀」が表示されます。
リピート（Repeat）	オフ（Off）	リピート再生を無効にします。
	1 曲（One）	現在の曲を繰り返し再生します。 テレビ画面に「🔂」が表示されます。
	すべて（All）	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生します。 テレビ画面に「🔁」が表示されます。

4 **終了するには、OPTION キーを押す。**



インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ放送を受信します。

- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります（32 ページ）。情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- この機能は、vTuner ラジオ局データベースサービスを利用します。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。

インターネットラジオ局を選ぶ

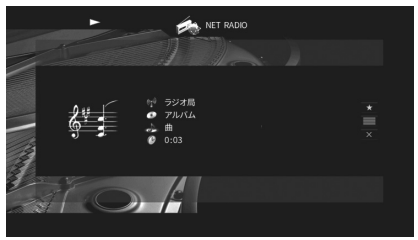
1 **NET キーを繰り返し押して、入力を「NET RADIO」に切り替える。**

テレビにブラウズ画面が表示されます。

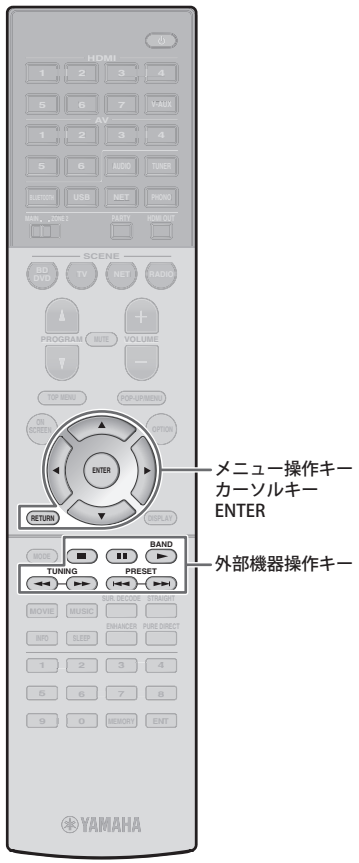


2 **カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。**

インターネットラジオ局を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- ショートカット機能（81 ページ）を使うと、お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録したラジオ局は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



❶ 再生表示

❷ リスト名

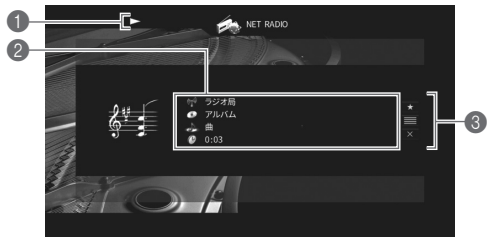
❸ コンテンツリスト
インターネットラジオのコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❹ コンテンツ番号 / 総数

❺ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
ブックマーク オン（ブックマーク オフ）	リストで選択しているラジオ局を「ブックマーク」フォルダー（74 ページ）に追加 / 削除します。
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	
戻る	1 つ前の階層に戻ります。
再生画面へ	再生画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

■ 再生画面



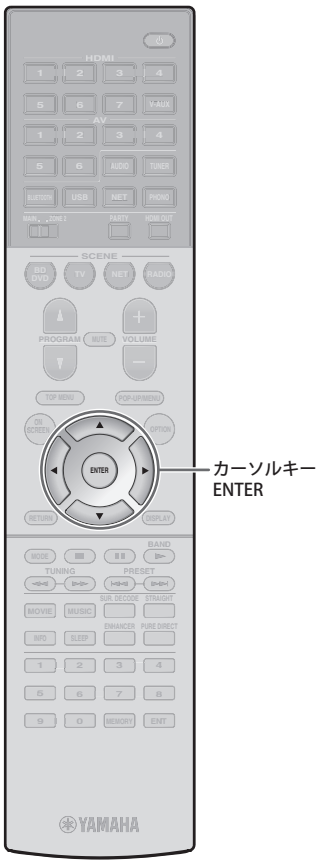
❶ 再生表示

❷ 再生情報
ラジオ局名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。
カーソルキー（△/▽）でスクロールさせる情報を選べます。

❸ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押したあと、カーソルキー（△/▽）で項目を選びます。ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
ブックマーク オン	現在のラジオ局を「ブックマーク」フォルダー（74 ページ）に追加します。
ブラウズ画面へ	ブラウズ画面を表示します。
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キー（■）で再生を停止できます。
- インターネットラジオ局によっては、一部の情報は表示されません。



お気に入りのインターネットラジオ局を登録する（ブックマーク）

「ブックマーク」フォルダーにお気に入りのインターネットラジオ局を登録します。登録したラジオ局は、ブラウズ画面の「ブックマーク」フォルダーから簡単に再生することができます。

■ ブラウズ画面 / 再生画面で登録する

1 ブラウズ画面で登録したいインターネットラジオ局を選ぶ、または再生して再生画面を表示する。

2 カーソルキー（▷）で「ブックマークオン」を選び、ENTER キーを押す。

選択したラジオ局が「ブックマーク」フォルダーに登録されます。

- 登録を削除するには、「ブックマーク」フォルダーで該当ラジオ局を選び、「ブックマーク オフ」を選びます。

■ vTuner のウェブサイトで登録する

1 本機でいずれかのインターネットラジオ局を再生する。

初めて登録する際は、この操作が必要になります。

2 本機の vTuner ID を確認する。

情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で本機の vTuner ID を確認します。

3 パソコンのウェブブラウザーで vTuner ウェブサイト（http://yradio.vtuner.com/）にアクセスし、本機の vTuner ID を入力する。



- ブックマークの登録にはアカウント作成が必要です。電子メールアドレスを入力してアカウントを作成してください。

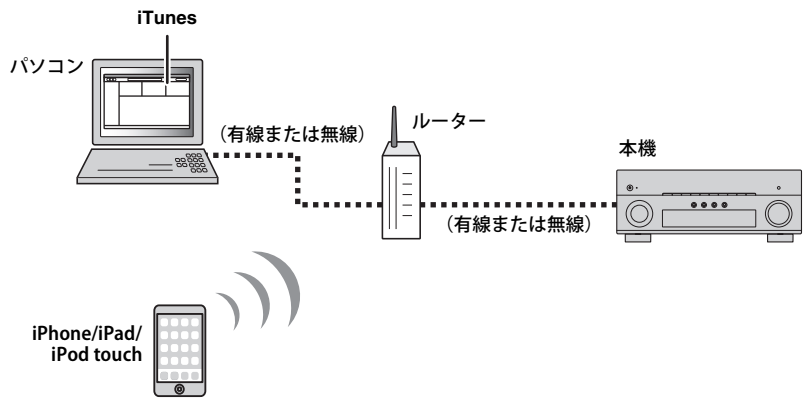
4 お気に入りのインターネットラジオ局を登録する。

該当ラジオ局の追加アイコン（❤+）をクリックします。

- 登録を削除するには、HOME 画面の「お気に入りグループ」で該当ラジオ局の削除アイコン（❤–）をクリックします。

AirPlay で音楽を聴く

iTunes や iPod に保存されている音楽ファイルを、AirPlay を使ってネットワーク経由で再生します。



- この機能を使用するには、本機とパソコンが同じルーターに接続されている必要があります。情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- マルチ SSID 対応ルーターをお使いの場合、使用する SSID によっては本機へのアクセスが制限されることがあります。iPod を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください。

- 対応している iPod については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（133 ページ）をご覧ください。
- ウェブコントロールの「AirPlay Password」（84 ページ）でパスワードを設定すると、AirPlay を使った本機へのアクセスを制限できます。

iTunes/iPod で曲を再生する

本機と iTunes/iPod を操作して再生を始めます。

1 本機の電源を入れ、iTunes を起動する、または iPod の音楽再生画面を表示する。

iTunes/iPod が本機を認識すると AirPlay アイコン（⎍）が表示されます *。

- iOS7/iOS8 を搭載した iPod の場合は、コントロールセンター内に表示されます。コントロールセンターを表示するには、iPod の画面を下から上にスワイプします。

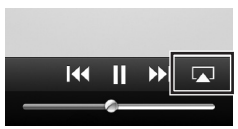
iTunes（表示例）



iPod iOS7/iOS8（表示例）



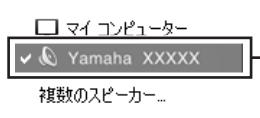
iPod iOS6（表示例）



- アイコンが表示されない場合は、本機とパソコンや iPod が正しくルーターに接続されているか確認してください。

2 iTunes/iPod で AirPlay アイコンをクリック（タップ）し、音声の出力先として本機（ネットワーク名）を選ぶ。

iTunes（表示例）



iPod（表示例）

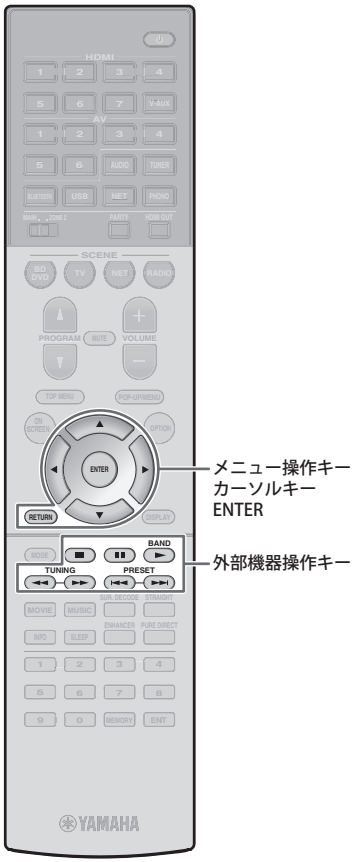


本機のネットワーク名

- iTunes/iPod に表示される本機のネットワーク名は、設定メニューの「ネットワーク名」（109 ページ）で変更できます。

3 iTunes/iPod を操作して曲を再生する。

本機の入力が自動的に「AirPlay」に切り替わり、再生が始まります。
テレビに再生画面が表示されます。



- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」（108 ページ）を「オン」に設定したときは、iTunes/iPod で再生を始めると本機の電源が自動的に入ります。
- 設定メニューの「ネットワーク名」（109 ページ）で、本機のネットワーク名を変更できます。
- 本機の入力を「AirPlay」以外に切り替えると、iTunes/iPod の再生が自動的に停止します。
- 再生中は iTunes/iPod から本機の音量を操作できます。操作を無効にするには入力選択メニューの「音量連動」（92 ページ）を「オフ」に設定します。

注意

- iTunes/iPod で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPod の再生を停止してください。

■ 再生画面



❶ ステータス表示
再生中にアイコンが表示されます。

❷ 再生情報
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間 / 残り時間が表示されます。
カーソルキー（△/▽）でスクロールさせる情報を選べます。

❸ 操作メニュー
カーソルキー（▷）を押して項目を選びます。
ENTER キーで実行します。

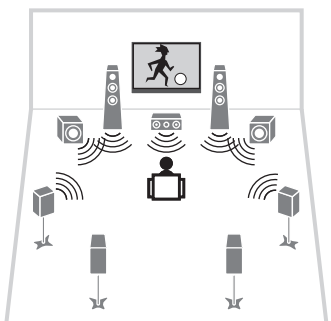
メニュー	説明
スクリーンを閉じる	画面表示を閉じて、背景を表示します。 いずれかのメニュー操作キーを押すと、画面表示に戻ります。

- リモコンの外部機器操作キー（►、■、▮▮、⏮、⏭）で再生操作ができます。

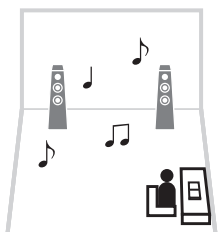
複数の部屋で音楽を楽しむ（マルチゾーン）

マルチゾーン機能を使えば、本機を設置した部屋（メインゾーン）と別の部屋（ゾーン 2）で、それぞれ入力を選んで再生できます。

たとえば、リビング（メインゾーン）でテレビを視聴しているときに、書斎（ゾーン 2）でラジオを聴くことができます。



リビング（メインゾーン）



書斎（ゾーン 2）

- ゾーン 2 に出力できる音声は、アナログ音声（FM/AM ラジオを含む）および *Bluetooth* 機器、USB 機器、パソコン（サーバー）、インターネットラジオ、AirPlay の音声です。再生機器の音声をゾーン 2 に出力する場合は、ステレオピンケーブルを使って再生機器を本機の AUDIO 端子（AV5 ～ 6、AUDIO1 ～ 2）に接続してください。パーティーモード（80 ページ）を使うと、音声入力端子の種類に関係なく、メインゾーンと同じ音声をゾーン 2 にも出力できます。

ゾーン 2 を準備する

ゾーン 2 で使用する機器を本機に接続します。使用するアンプ（本機または外部アンプ）により接続方法が異なります。

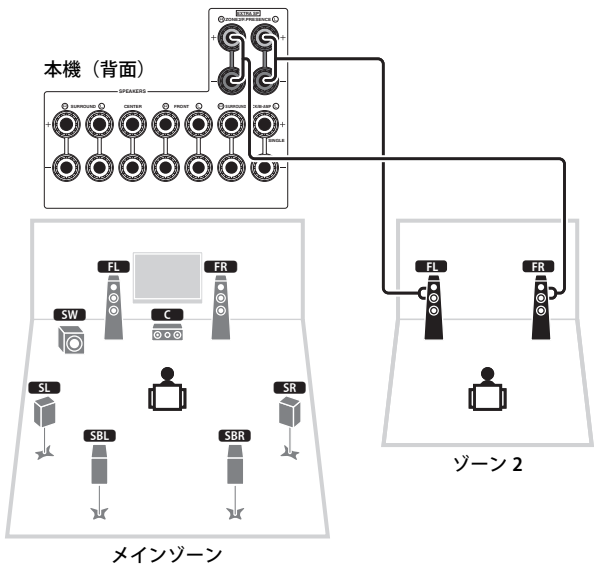
注意

- スピーカーや外部アンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。

■ 本機の内蔵アンプを使う

スピーカーケーブルを使って、ゾーン 2 に設置したスピーカーを本機に接続します。

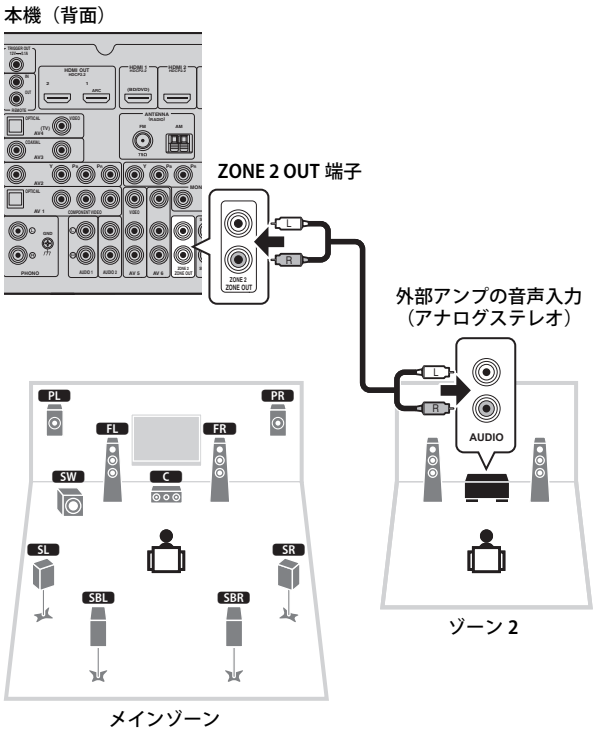
EXTRA SP 端子をゾーン 2 スピーカーに割り当てるには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」（100 ページ）を「7ch+1ZONE」に設定してください。



- ゾーン2出力が有効なとき（79ページ）は、メインゾーンのサラウンドバックスピーカーから音が出ません。

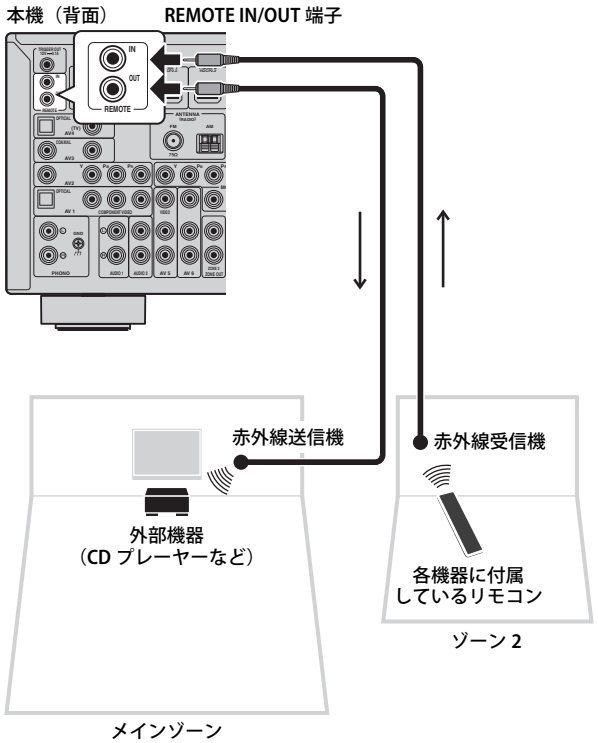
■ 外部アンプを使う

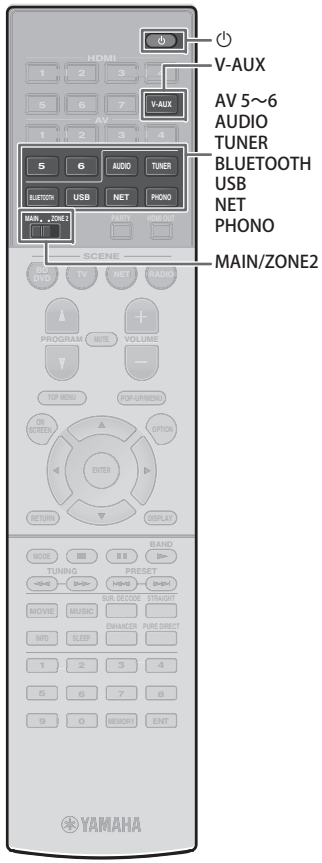
ステレオピンケーブルを使って、ゾーン 2 に設置したアンプ（ボリューム調節機能付き）を本機に接続します。



■ 別の部屋から本機を操作する（リモート接続）

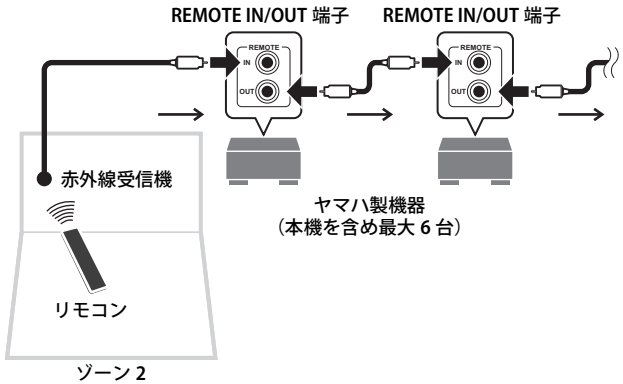
赤外線受信機 / 送信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続すれば、本機や外部機器に付属しているリモコン使って別の部屋から各機器を操作できます。





❑ ヤマハ製機器間のリモート接続

本機のようにリモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。赤外線受信機とモノラルミニプラグケーブルを使って、REMOTE IN/OUT 端子を接続するだけで、リモコン信号を転送できます。



ゾーン 2 を操作する

1 **MAIN/ZONE2 スイッチを「ZONE2」に切り替える。**

2 **⏻（レシーバー電源）キーを押す。**

キーを押すたびに、ゾーン 2 の電源を入 / 切できます。
有効なときは、前面ディスプレイに「ZONE2」が点灯します。

3 **以下のキーで入力を選ぶ。**

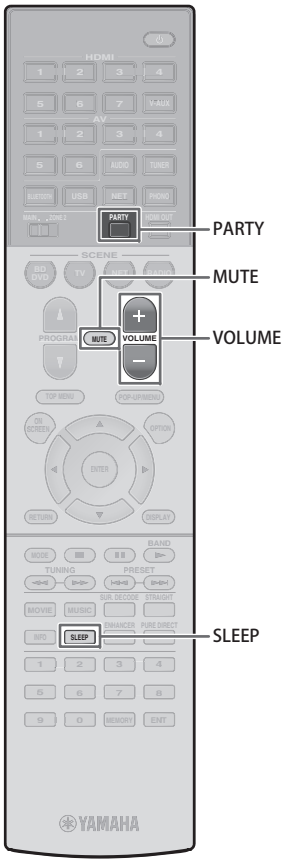
V-AUX キー：前面の VIDEO AUX（AUDIO）端子
AV 5 〜 6 キー：AV5 〜 6（AUDIO）端子
AUDIO キー：AUDIO1 〜 2 端子（繰り返し押して「AUDIO1」「AUDIO2」を切り替えます）
TUNER キー：FM/AM ラジオ
BLUETOOTH キー：*Bluetooth* 接続
USB キー：前面の USB 端子
NET キー：NETWORK 入力（繰り返し押して「SERVER」「NET RADIO」「AirPlay」を切り替えます）
PHONO キー：PHONO 端子

!

- **「Bluetooth」、「USB」、「SERVER」、「NET RADIO」、「AirPlay」は、すべてのゾーンでいずれか 1 つしか選べません。例えばメインゾーンの入力が「USB」のときに、ゾーン 2 で「SERVER」を選ぶと、メインゾーンも「SERVER」に切り替わります。**

4 **外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。**

各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。



以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（59 ページ）
- *Bluetooth* で音楽を聴く（62 ページ）
- iPod の曲を再生する（63 ページ）
- USB 機器の曲を再生する（66 ページ）
- パソコン（サーバー）の曲を再生する（69 ページ）
- インターネットラジオを聴く（72 ページ）
- AirPlay で音楽を聴く（75 ページ）

- **テレビ画面の表示には対応していません。ウェブコントロール（82 ページ）を使うと、パソコンからゾーン 2 を操作できます。**
- **AirPlay は、メインゾーンで AirPlay を使って再生時のみゾーン 2 にも音声が出力されます。**

- **SLEEP キーを繰り返し押して、スリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定できます。指定した時間が経過するとゾーン 2 出力が無効になります。**
- **内蔵アンプを使っている場合は、VOLUME キーや MUTE キーでゾーン 2 出力の音量調節や消音ができます。**
- **本体前面のキーやつまみでも、ゾーン 2 の入力選択や音量操作ができます。その場合は、ZONE CONTROL キーで「Zone2」を選び、前面ディスプレイの「ZONE2」が点滅中に、INPUT つまみや VOLUME つまみを操作してください。**
- **外部アンプを使用する場合は、外部アンプ側のボリュームで音量を調節してください。**
- **ウェブコントロール（82 ページ）または AV CONTROLLER（9 ページ）で、ゾーン 2 の入力として「Main Zone Sync」を選ぶと、ゾーン 2 の入力がメインゾーンと連動して切り替わります。**
- **ゾーン 2 で DSD 音声を再生するには、ゾーン 2 の入力として「Main Zone Sync」を選ぶか、パーティーモード（80 ページ）をご利用ください。**

注意

- **DTS-CD をゾーン 2 で再生しないでください。大きな雑音が出力される恐れがあります。**

すべての部屋で同じ音楽を聴く（パーティーモード）

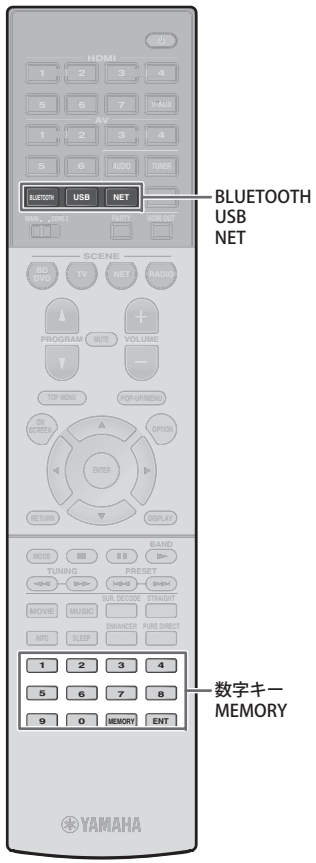
メインゾーンで再生中の音楽を同時にゾーン 2 でも楽しむことができます。パーティーモード中は、すべてのゾーンでステレオ音声が出力されます。ホームパーティーの BGM などにご利用ください。

1 PARTY キーを押す。

キーを押すたびに、パーティーモードが入 / 切します。

パーティーモード中は、前面ディスプレイに「PARTY」が点灯します。

- **パーティーモードが機能しない場合は、設定メニューの「パーティーモード設定」（110 ページ）を「有効」（初期値）に設定してください。**



お気に入りのコンテンツを登録する（ショートカット）

最大 40 種類のコンテンツ（パソコンや USB 機器の曲、インターネットラジオ局）を登録できます。登録したコンテンツは、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

- インターネットラジオ局の登録は、「ブックマーク」（74 ページ）もご利用いただけます。
- Bluetooth と AirPlay は入力ソースのみ登録できます。曲を個別に登録することはできません。

コンテンツを登録する

お気に入りのコンテンツを選んでショートカット番号に登録します。

1 登録したい曲やインターネットラジオ局を再生する。

2 MEMORY キーを押す。



登録先のショートカット番号（点滅）

- 登録先のショートカット番号を指定するには、手順 2 実行後に数字キーでショートカット番号を選びます。



「Empty」（空き）または現在登録されているコンテンツの入力名

3 登録を確定するには、MEMORY キーを押す。

登録したコンテンツを呼び出す

ショートカット番号に登録されているコンテンツの中から、聴きたいコンテンツを選びます。

1 BLUETOOTH キー、USB キー、または NET キーを押す。

2 数字キーで聴きたいコンテンツのショートカット番号（01 ～ 40）を入力する。

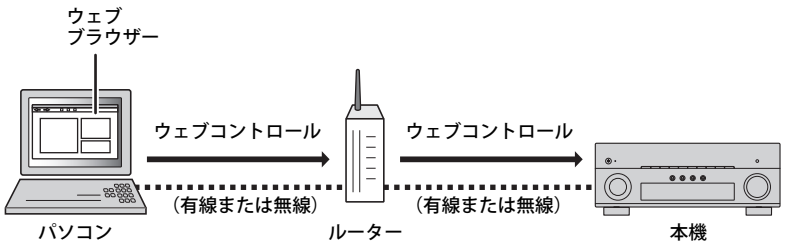
本体前面の PRESET キーでもショートカットに登録したコンテンツを選べます。



- ショートカットが 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。
- 未登録のショートカット番号を入力した場合は、「Empty」と表示されます。
- 以下の場合は、ショートカット番号を選んでもコンテンツを再生できません。
  - 登録時と異なる USB 機器を接続している。
  - パソコンの電源が入っていない。またはネットワークに接続されていない。
  - 登録したインターネットラジオ局に一時的に接続できない。またはサービスが終了している。
  - 登録したコンテンツ（ファイル）が別のフォルダーに移動された。
  - 本機と *Bluetooth* 機器の接続ができない。
- USB 機器またはパソコンの曲を登録した場合、本機は音楽ファイルのフォルダー内における相対的な位置を記憶します。そのため、フォルダー内の音楽ファイルを追加 / 削除すると、登録したコンテンツが呼び出されないことがあります。その場合は、コンテンツを登録し直してください。

ウェブブラウザーで本機を操作する（ウェブコントロール）

パソコンのウェブブラウザーに表示されるウェブコントロール画面を使って、本機を操作することができます。

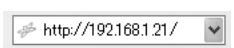


- この機能を使用するには、本機とパソコンが同じルーターに接続されている必要があります（32 ページ）。
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトの設定を変更してください。
- 本機がスタンバイ時にウェブコンロトール画面を表示したり本機の電源を入れたりするには、「Network Standby」（84 ページ）を「On」に設定してください。
- 以下のウェブブラウザーを使用することをおすすめします。
  - Internet Explorer 9.x、10.x、11.x
  - Safari 7.x

1 ウェブブラウザーを起動する。

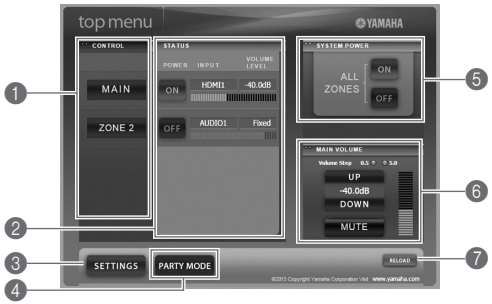
2 ウェブブラウザーのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力する。

(入力例)



- IP アドレスは情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で確認できます。
- ウェブブラウザーのブックマーク機能で本機の IP アドレスを登録するか、「Create Link」（84 ページ）でショートカットを作成すれば、次回から簡単にウェブコントロール画面を表示できます。ただし、DHCP サーバーをお使いの場合は、本機の電源を入れ直すと IP アドレスが変わる可能性があります。
- MAC アドレスフィルター（84 ページ）を使って、本機にアクセスできるネットワーク機器（パソコンなど）を制限できます。
- Windows 8 をご使用になる場合は、以下の操作で Internet Explorer を起動することをおすすめします。
  - スタート画面からデスクトップを選び、画面左下の Internet Explorer アイコンをクリックします。
- スマートフォン / タブレット用アプリケーション「AV CONTROLLER」（9 ページ）を使用すると、iPhone/iPad/iPod touch や Android 端末からも本機を操作できます。

■ トップメニュー画面



❶ CONTROL（コントロール）
選択したゾーンのコントロール画面を表示します。

❷ STATUS（ステータス）
各ゾーンの電源を入 / 切します。また各ゾーンの入力と音量を表示します。

❸ SETTINGS（セッティングス）
設定画面を表示します。

❹ PARTY MODE（パーティーモード）
パーティーモード（80 ペ ー ジ）を入 / 切します。

❺ SYSTEM POWER（システムパワー）
すべてのゾーンの電源を入 / 切します。

❻ MAIN VOLUME（メインボリューム）
メインゾーンの音量調節や、消音をします。音量調節の単位も選べます。

❼ RELOAD（リロード）
ウェブコントロール画面内の情報を本機にあわせて更新します。

■ コントロール画面



❶ PLAY INFO（プレイインフォ）
選択したゾーンの入力や再生に関する操作を行います。

❷ TOP MENU（トップメニュー）
トップメニュー画面を表示します。

❸ SCENE（シーン）
選択したゾーンのシーンを選びます。

❹ POWER（パワー）
選択したゾーンの電源を入 / 切します。

❺ VOLUME（ボリューム）
選択したゾーンの音量調節や、消音をします。音量節の単位も選べます。

❻ RELOAD（リロード）
ウェブコントロール画面内の情報を本機にあわせて更新します。

■ 設定画面



❶ Rename（リネーム）
本機のネットワーク名（109 ページ）と各ゾーンの名称（110 ページ）を変更します。「APPLY」をクリックすると、本機に変更内容が反映されます。

Network（ネットワーク）
ネットワークへの接続方法（107 ページ）や、ネットワーク情報（IP アドレスなど）（107 ページ）を設定します。「APPLY」をクリックすると、本機に変更内容が反映されます。

AirPlay Password（エアプレイパスワード）
パスワードを設定して AirPlay（75 ページ）を使った本機へのアクセスを制限します。「APPLY」をクリックすると、本機に変更内容が反映されます。

MAC Filter（MAC フィルター）
MAC アドレスフィルター（108 ページ）により、本機にアクセスできるネットワーク機器（パソコンなど）を制限します。「APPLY」をクリックすると、本機に変更内容が反映されます。

Auto Reload（オートリロード）
自動更新を有効 / 無効にします。「On」（有効）の場合、ウェブコントロール画面内の情報が本機にあわせて 5 秒ごとに更新されます。

Network Standby（ネットワークスタンバイ）
ネットワークスタンバイ（108 ページ）を有効 / 無効にします。

Backup/Recovery（バックアップ / リカバリー）
バックアップファイルを作成して、本機の各種設定をパソコンに保存します。またバックアップファイルから設定を本機に読み込ませることができます。

Firmware Update（ファームウェアアップデート）
パソコンにダウンロードしたファームウェアを使って、本機のファームウェアを更新します。画面表示にしたがって、ファームウェアを更新してください。

Create Link（クリエートリンク）
各コントロール画面へのショートカット（リンク）を作成します。

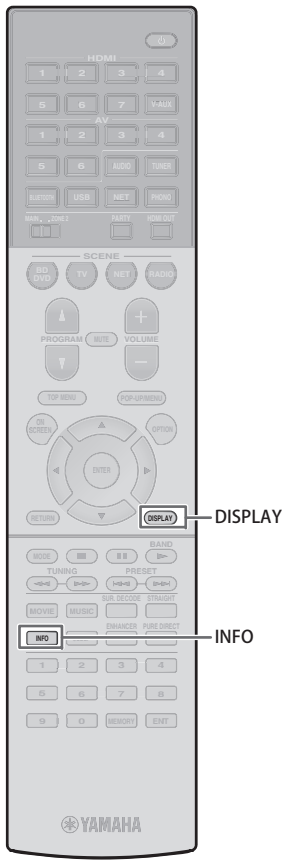
Tips（ティップス）
ウェブコントロール使用時に役立つ情報を表示します。

Licenses（ライセンス）
本機で使用しているソフトウェアのライセンス文を表示します。

❷ BACK（バック）
トップメニュー画面を表示します。

❸ RELOAD（リロード）
ウェブコントロール画面内の情報を本機にあわせて更新します。

注意
- ネットワーク設定の変更後に、ブラウザの再起動や本機への再アクセスが必要になる場合があります。
- MAC アドレスフィルターをご使用になる場合は、MAC アドレスを十分ご確認の上、設定してください。誤った設定をすると、パソコンから本機にアクセスできなくなります。アクセスできなくなった場合は、本機のリモコンで MAC アドレスフィルター（108 ページ）を再設定してください。
- リカバリー（設定の読み込み）実行中は本機を操作しないでください。正しく設定が反映されないことがあります。リカバリーが終了したら、「OK」をクリックして本機をスタンバイに切り替えてください。
- バックアップファイルには、ユーザー情報（アカウント、パスワードなど）や本機特有の情報（MAC アドレス、IP アドレスなど）は含まれません。
- パソコンで入力した文字は、本機で正しく表示されない場合があります。



現在の状態を確認する

前面ディスプレイの表示を切り替える

1 **INFO キーで表示項目を選ぶ。**

キーを押すたびに、表示項目が切り替わります。



項目名

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



情報

- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。

入力グループ	項目
HDMI1 ～ 7 **V-AUX** **AV1 ～ 6** **AUDIO1 ～ 2** **PHONO**	Input（入力名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名 *）
TUNER	Frequency（周波数）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名 *）
BLUETOOTH **USB** **SERVER** **AirPlay**	Song（曲名）、Artist（アーティスト）、Album（アルバム名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名 *） ※**iPod をシンプル再生で操作時：Input（入力名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名 *）**
NET RADIO	Song（曲名）、Album（アルバム名）、Station（ラジオ局名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名 *）

*** 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。**

テレビ画面でステータス情報を確認する

1 **DISPLAY キーを押す。**

テレビ画面にステータス情報が表示されます。



2 **終了するには、DISPLAY キーを押す。**

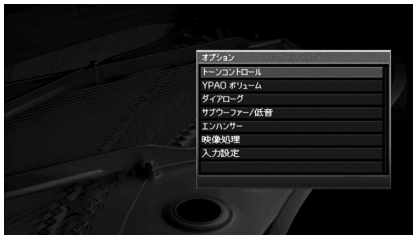
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生中のソースにあわせて、再生関連の機能を設定します。テレビ画面を使わずに、前面ディスプレイだけでも操作できるので、必要なときに簡単に設定を変更できます。

1 OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

オプションメニューでできること

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。
- 各項目の初期値には下線が付いています。

項目		説明	ページ
トーンコントロール（Tone Control）		音声の高音域と低音域のバランスを調整します。	87
YPAO ボリューム（YPAO Volume）	YPAO ボリューム（YPAO Vol.）	YPAO ボリュームを有効 / 無効にします。	87
	アダプティブ DRC（A.DRC）	音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。	87
ダイアローグ（Dialog）	セリフ音量調整（Dialog Lvl）	中央に定位する音（セリフなど）の音量を調節します。	88
	セリフ位置調整（Dialog Lift）	中央に定位する音（セリフなど）の高さを調節します。	88
サブウーファー / 低音（Subwoofer/ Bass）	サブウーファーレベル補正（SW.Trim）	サブウーファーの音量を微調整します。	89
	エクストラベース（Extra Bass）	エクストラベースを有効 / 無効にします。	88
エンハンサー（Enhancer）		ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。	88
映像処理（Video Process.）		映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。設定メニューの「ビデオモード」（105 ペ ー ジ）と共通の設定です。	89
入力設定 (Input Settings)	入力レベル補正（In.Trim）	入力間の音量差を補正します。	89
	映像選択（V.Out）	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。	89
	多重モノラル音声（Dual Mono）	多重音声信号入力時の出力音声を設定します	89
FM モード（FM Mode）		FM ラジオのステレオ / モノラルを切り替えます。	89

項目	説明	ページ
シャッフル（Shuffle）	iPod（65 ページ）、USB 機器（68 ページ）、パソコン（サーバー）の曲（71 ページ）のシャッフル再生を設定します。	—
リピート（Repeat）	iPod（65 ページ）、USB 機器（68 ページ）、パソコン（サーバー）の曲（71 ページ）のリピート再生を設定します。	—

■ トーンコントロール（Tone Control）

出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを調整します。

選択項目

高音（Treble）、低音（Bass）

設定値

–6.0dB ～バイパス（Bypass）～ +6.0dB（0.5dB 単位）

- **極端な設定にすると、音のつながりが悪くなることがあります。**

- **本体前面のキーでもトーンコントロールを調整できます。その場合は、TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選び、PROGRAM キーでバランスを調整してください。**

■ YPAO ボリューム（YPAO Volume）

YPAO ボリュームやアダプティブ DRC を有効 / 無効にします。

YPAO ボリューム（YPAO Vol.）

YPAO ボリュームを有効 / 無効にします。有効にすると、音量に連動して低音域 / 高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。

設定値

オフ（Off）	YPAO ボリュームを無効にする。
オン（On）	YPAO ボリュームを有効にする。

- **YPAO ボリュームは、「自動測定」（36 ページ）の測定結果を保存後に効果的に機能します。**
- **夜間などに小音量で聴く場合は、YPAO ボリュームとアダプティブ DRC の両方を有効にすることをおすすめします。**

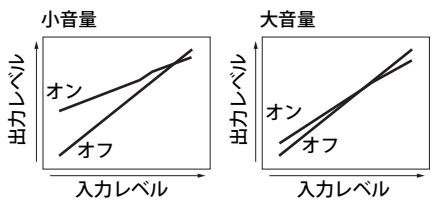
アダプティブ DRC（A.DRC）

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。「オン」にすると、夜間など小音量でも聴きやすくなります。

設定値

オフ（Off）	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。
オン（On）	ダイナミックレンジを自動的に調節する。

「オン」に設定すると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは広がります。



■ ダイアローグ（Dialog）

中央に定位する音（セリフなど）の音量や高さを調節します。

セリフ音量調整（Dialog Lvl）

中央に定位する音（セリフなど）の音量を調節します。セリフが聞こえにくい場合などは、設定値を大きくしてください。

設定値

0 ～ 3

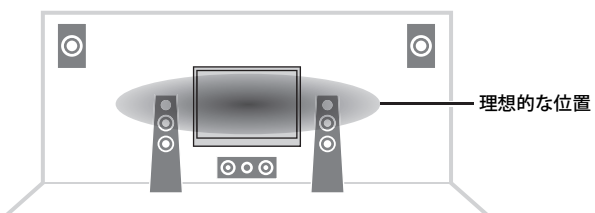
セリフ位置調整（Dialog Lift）

セリフが聞こえる位置の高さを調節します。セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合は、設定値を大きくしてください。

設定値

0 ～ 5（値が大きいほど高い）

- 以下のいずれかの場合のみ設定できます。
  - フロントプレゼンススピーカー使用時に、音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）が選ばれている。
  - バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）（55 ページ）が機能している（視聴位置によってはサラウンドスピーカーからセリフが聞こえることがあります）。



■ サブウーファー / 低音（Subwoofer/Bass）

サブウーファーの音量や低音を調節します。

サブウーファーレベル補正（SW.Trim）

サブウーファーの音量を微調整します。

設定値

–6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

エクストラベース（Extra Bass）

エクストラベースを有効 / 無効にします。有効にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定値

オフ（Off）	エクストラベースを無効にする。
オン（On）	エクストラベースを有効にする。

■ エンハンサー（Enhancer）

ミュージックエンハンサー（58 ページ）を有効 / 無効にします。

- 入力ごとに個別に設定できます。
- この設定はゾーン 2 に対しても有効になります。

設定値

オフ（Off）	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン（On）	ミュージックエンハンサーを有効にする。

初期値

TUNER、Bluetooth、SERVER、NET RADIO、AirPlay、USB：オン（On）
その他：オフ（Off）

■ 映像処理（Video Process.）

設定メニューの「ビデオモード」（105 ペ ー ジ）で設定した内容（解像度、アスペクト）を有効 / 無効にします。

設定値

ダイレクト（Direct）	映像の信号処理を無効にする。
信号処理（Processing）	映像の信号処理を有効にする。

■ 入力設定（Input Settings）

入力に関する設定を変更します。

入力レベル補正（In.Trim）

入力間の音量差を補正します。入力切り替え時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って調節してください。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

–6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

映像選択（V.Out）

選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

オフ（Off）	映像を表示しない。
HDMI1 ～ 7、AV1 ～ 6、V-AUX	選択した入力の映像を表示する。

多重モノラル音声（Dual Mono）

地上デジタル /BS デジタル放送など、モノラル多重音声信号入力時の出力音声を設定します。

設定値

主音声（Main）	主音声をフロントスピーカーから出力する。
副音声（Sub）	副音声をフロントスピーカーから出力する。
主＋副（All）	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。



- 「主＋副」に設定時、主音声 / 副音声が出力されるスピーカーは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。

■ FM モード（FM Mode）

FM ラジオの受信方法（ステレオ / モノラル）を切り替えます。

設定値

ステレオ（Stereo）	FM ラジオをステレオで受信する。
モノラル（Mono）	FM ラジオをモノラルで受信する。

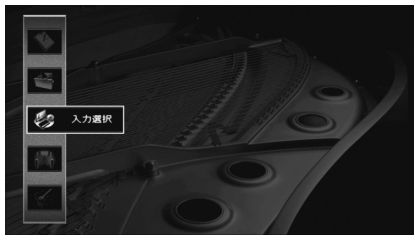
設定する

入力の設定を変更する（入力選択メニュー）

テレビ画面を見ながら、入力の設定を変更します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「入力選択」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁/▷）で設定を変更する入力を選び、カーソルキー（△）を押す。



- 手順 3 実行後もカーソルキー（◁/▷）で入力を切り替えることができます。

4 カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

5 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

入力選択メニューでできること

- 選択した入力により設定可能な項目が異なります。
- 各項目の初期値には下線が付いています。

項目	説明	ページ
入力名変更 / アイコン選択	入力の名称やアイコンを変更します。	91
音声入力	選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	91
デコードモード	再生するデジタル音声のフォーマットを DTS または AAC に固定します。	91
音量連動	入力が AirPlay のとき、iTunes/iPod と本機の音量を連動させるかどうかを設定します。	92
DMC からの操作	DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー（DMC）からの操作を有効 / 無効にします。	92

■ 入力名変更 / アイコン選択

前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称やアイコンを変更します。

対象の入力

HDMI1 ～ 7、V-AUX、AV1 ～ 6、AUDIO1 ～ 2、USB、PHONO

■ 手順

1 カーソルキー（◁/▷）でテンプレートを選び、カーソルキー（▽）を押す。



- **iPod 接続時、「USB」のテンプレートおよびアイコンは変更できません。**

2 カーソルキー（◁/▷）でアイコンを選び、カーソルキー（▽）を押す。

3 **ENTER** キーを押して、編集画面を開く。

4 カーソルキーと **ENTER** キーで名称を変更し、「決定」を選んで確定する。



- 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。

5 カーソルキーで「**OK**」を選び、**ENTER** キーを押す。

- 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

6 終了するには、**ON SCREEN** キーを押す。

■ 音声入力

選択した入力の映像と他の端子の音声を組み合わせます。以下のような場合にご利用ください。

- 映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する再生機器を本機に接続する。
- 映像はコンポーネントビデオ、音声はアナログステレオで出力する再生機器（ゲーム機など）を本機に接続する。

対象の入力

HDMI1 ～ 7、AV1 ～ 2

■ 手順

（光デジタル端子を使って音声を入力する場合）

「AV1」または「AV4」を選び、光デジタルケーブルを使って外部機器を本機の音声入力端子に接続する。

（同軸デジタル端子を使って音声を入力する場合）

「AV2」または「AV3」を選び、同軸デジタルケーブルを使って外部機器を本機の音声入力端子に接続する。

（アナログ音声端子を使って音声を入力する場合）

「AV5」、「AV6」、「AUDIO1」、「AUDIO2」のいずれかを選び、ステレオピンケーブルを使って外部機器を本機の音声入力端子に接続する。

■ デコードモード

再生するデジタル音声のフォーマットを DTS または AAC に固定します。

たとえば DTS フォーマットの音声を再生するとノイズが生じる場合は、DTS に固定します。

対象の入力

HDMI1 ～ 7、V-AUX、AV1 ～ 4

設定値

自動判別	入力中の音声フォーマットに合わせる。
DTS 固定	DTS に固定する（DTS 信号以外は再生不可）。
AAC 固定	AAC に固定する（AAC 信号以外は再生不可）。

■ 音量連動

入力が「AirPlay」のとき、iTunes/iPod からの音量操作を有効 / 無効にします。

対象の入力
AirPlay

設定値

オフ	iTunes/iPod からの音量操作を無効にする。
制限あり	音量を制限して、iTunes/iPod からの音量操作を有効にする。 （–80dB ～ –20dB の調節と消音が可能）
制限なし	音量を制限せずに、iTunes/iPod からの音量操作を有効にする。 （–80dB ～ +16.5dB の調節と消音が可能）

■ DMC からの操作

DLNA 対応のデジタルメディアコントローラー（DMC）からの操作を有効 / 無効にします。

対象の入力
SERVER

設定値

無効	DMC からの操作を無効にする。
有効	DMC からの操作を有効にする。

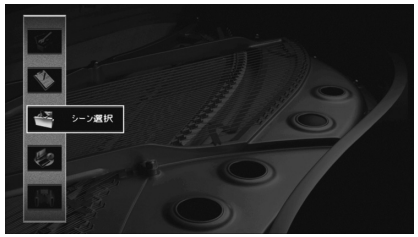
- デジタルメディアコントローラー（DMC）とは、ネットワーク上でほかの機器を制御できる機器のことです。この機能を有効にすると、本機と同じネットワーク上にある DMC（Windows Media Player 12 など）から直接本機の再生を操作できます。

シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）

テレビ画面を見ながら、シーン機能（53 ペ ー ジ）の設定を変更します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「シーン選択」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁/▷）で設定を変更するシーンを選び、カーソルキー（△）を押す。



4 カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、**ENTER** キーを押す。



5 カーソルキーと **ENTER** キーで設定値を変更する。

6 終了するには、**ON SCREEN** キーを押す。

シーン選択メニューでできること

項目	説明	ページ
登録	現在の環境をシーンに登録します。	93
呼出	シーンの登録内容を呼び出します。シーン連動の設定や登録内容の確認もできます。	93
シーン名変更 / アイコン選択	シーンの名称やアイコンを変更します。	94
リセット	シーンの登録内容を初期値に戻します。	94

■ 登録

現在の環境（入力、音場プログラム / サラウンドデコーダー、ミュージックエンハンサーの有効 / 無効、HDMI 出力端子）を選択したシーンに登録します。

- シーンに登録されている入力を変更したときは、**SCENE** キーのリモコンコードも登録し直してください（**53** ページ）。

■ 呼出

選択したシーンの登録内容を呼び出します。

「詳細設定」では、シーン連動の設定や登録内容の確認ができます。

機器連携

シーン選択と連動して、HDMI で本機に接続した外部機器の再生を開始します（シーン連動再生）。

設定値

オフ	シーン連動再生を無効にする。
HDMI コントロール	シーン選択と連動して、本機と HDMI 経由で接続した HDMI コントロール対応の外部機器（BD/DVD レコーダーなど）の再生を開始する。テレビが HDMI コントロールに対応している場合は、テレビの電源も入ります。

初期値

シーン 1（BD/DVD）、シーン 2（TV）：HDMI コントロール

シーン 3（NET）、シーン 4（RADIO）：オフ

- **HDMI コントロール経由でシーン連動再生を使うには、設定メニューの「HDMI コントロール」を「オン」（初期値）に設定してから、HDMI コントロール機器どうしの連動設定が必要になります（135 ページ）。**

詳細設定

選択したシーンの登録内容が表示されます。

入力	使用する入力
HDMI 出力端子	使用する HDMI OUT 端子
再生モード	使用する音場プログラム / サラウンドデコーダー
エンハンサー	ミュージックエンハンサーの有効 / 無効

■ シーン名変更 / アイコン選択

前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、シーンの名称やアイコンを変更します。

■ 手順

1 カーソルキー（◁/▷）でアイコンを選び、カーソルキー（▽）を押す。



2 ENTER キーを押して、編集画面を開く。

3 カーソルキーと ENTER キーで名称を変更し、「決定」を選んで確定する。



• 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。

4 カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。

• 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

5 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ リセット

選択したシーンの登録内容を初期値（53 ページ）に戻します。

音場プログラム / サラウンドデコーダーの設定を変更する（DSP プログラムメニュー）

テレビ画面を見ながら、音場プログラム / サラウンドデコーダーの設定を変更します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「DSP プログラム」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁/▷）で設定を変更する音場プログラム / サラウンドデコーダーを選び、カーソルキー（△）を押す。



• 手順 3 実行後もカーソルキー（◁/▷）で音場プログラムを切り替えることができます。

4 カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、**ENTER** キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには **RETURN** キーを押します。
- 選択した音場プログラムの設定を初期化するには、「リセット」を選びます。

5 カーソルキーで設定値を選び、**ENTER** キーを押す。

6 終了するには、**ON SCREEN** キーを押す。

DSP プログラムメニューでできること

- 選択した音場プログラムや、サラウンドデコーダーにより設定可能な項目が異なります。
- 各項目の初期値には下線が付いています。

■ 音場プログラムの設定

項目	説明	設定値
デコーダー選択	選択した音場プログラムと組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを設定します。	DD サラウンド *、 DDPLIIx ムービー （DDPLII ムービー）、 DDPLIIx ミュージック * （DDPLII ミュージック *）、 DDPLIIx ゲーム * （DDPLII ゲーム *）、 Neo:6 シネマ、 Neo:6 ミュージック * （*「サラウンドデコーダー」選択時のみ）
エフェクト量の加減	音場効果の強弱を調節します。	–6dB ～ <u>0dB</u> ～ +3dB 値を大きくすると音場効果が増し、小さくすると減少します。
ディレイ	直接音からプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節します。	1ms ～ 99ms 値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。
サラウンド音場の遅れ	直接音からサラウンド音場が生じるまでの時間を調節します。	1ms ～ 49ms 値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。
サラウンドバックの遅れ	直接音からサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節します。	
音場空間の大きさ	プレゼンス音場の広がり感を調節します。	0.1 ～ 2.0 値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します。	

項目	説明	設定値
響きの強さ	プレゼンス音場の減衰量を調節します。	0 ～ 10 値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の減衰量を調節します。	
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の減衰量を調節します。	
残響時間	後部残響音の減衰時間を調節します。	1.0s ～ 5.0s 値を大きくすると残響音が豊かになり、小さくするとすっきりとします。
残響音の遅れ	直接音から後部残響音が生じるまでの時間を調節します。	0ms ～ 250ms 値を大きくすると残響音の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。
残響音の強さ	後部残響音の余韻を調節します。	0% ～ 100% 値を大きくすると残響音の余韻が強くなり、小さくすると弱くなります。

「2ch ステレオ」および「7ch ステレオ」では、以下の項目を設定できます。

音場プログラム	項目	説明	設定値
2ch ステレオ	**ダイレクト**	アナログ音声を再生時、自動的にDSP 回路をバイパスするかどうかを設定します。	自動、オフ 「自動」に設定すると、バイパスします。
7ch ステレオ	**レベル**	全体の音量を調節します。	–5 ～ 0 ～ +5
	前後バランス	前後の音量バランスを調節します。値が大きいほど前方の音量が大きくなります。	–5 ～ 0 ～ +5
	左右バランス	左右の音量バランスを調節します。値が大きいほど右方向の音量が大きくなります。	–5 ～ 0 ～ +5
	高さバランス	上下方向の高さを調節します。値が大きいほど高くなります。	0 ～ 5 ～ 10
	モノラルミックス	音声をモノラルにミックスします。	オフ、オン

- **スピーカー接続の有無により、「7ch ステレオ」で設定可能な項目が異なります。**

■ サラウンドデコーダーの設定

「サラウンドデコーダー」の「デコーダー選択」で「DD サラウンド」、「DDPLIIx ミュージック（DDPLII ミュージック）」、「Neo:6 ミュージック」のいずれかを選ぶと、以下の項目を設定できます。

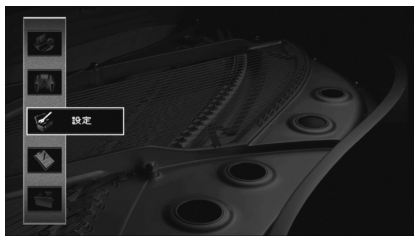
デコーダー選択	項目	説明	設定値
DD サラウンド	**センタースプレッド**	2 チャンネルソース再生時にセンターチャンネル音声を左右に振り分けるかどうかを設定します。	オフ、オン 2 チャンネルソース再生時にセンターからの音声を強く感じる場合など、「オン」に設定するとセンターチャンネル音声が左右に振り分けられます。
DDPLIIx ミュージック（DDPLII ミュージック）	**パノラマ**	フロント音場の広がり感を調節します。	オフ、オン 「オン」に設定すると、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感を得ることができます。
	センターの広がり	センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。	0 ～ 3 ～ 7 値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。
	ディメンション	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	－3 ～ 0 ～＋3 値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。
Neo:6 ミュージック	**センターイメージ**	フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	0.0 ～ 0.3 ～ 1.0 値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増します。

詳細機能を設定する（設定メニュー）

テレビ画面を見ながら、本機の詳細機能を設定します。

1 **ON SCREEN キーを押す。**

2 **カーソルキーで「設定」を選び、ENTER キーを押す。**



3 **カーソルキー（◁/▷）でメニューを選ぶ。**



4 **カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。**



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

5 **カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。**

6 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

設定メニューでできること

メニュー	項目			説明	ページ
スピーカー設定	自動測定			スピーカー設定を自動で調節します（YPAO）。	36
	手動設定	パワーアンプ割り当て		使用するスピーカーシステムを選択します。	100
		構成	フロント	フロントスピーカーのサイズを選択します。	100
			センター	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	100
			サラウンド	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	101
			サラウンドバック	サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。	101
			フロントプレゼンス	プレゼンススピーカーの有無やサイズを設定します。	101
			サブウーファー	サブウーファーの有無や位相を設定します。	101
			配置	サラウンドスピーカーやフロントプレゼンススピーカー使用時の配置を選択します。	102
		距離		スピーカーの距離を個別に設定します。	102
		音量		スピーカーの音量を個別に調節します。	102
		パラメトリック EQ		イコライザーを使って音色を調節します。	102
		テストトーン		テストトーン出力を有効 / 無効にします。	103
音声設定	リップシンク	ディレイ有効設定		入力ごとに、リップシンク（映像と音声の出力タイミング補正）を有効 / 無効にします。	103
		自動 / 手動選択		映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	103
		調整		映像と音声のずれを手動で調整します。	104
	ダイナミックレンジ			Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	104
	音量の上限			リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	104
	音量の初期値			電源を入れたときの音量を設定します。	104
	アダプティブ DSP レベル			音量の大きさに合わせて、音場プログラムのエフェクト量も自動的に調節するかどうかを設定します。	104
	シネマ DSP 3D モード			シネマ DSP 3D を有効 / 無効にします。	104
	バーチャルサラウンドバックスピーカー			サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を創り出すかどうかを設定します。	104
	オブジェクトデコードモード			オブジェクトベースの音声信号（Dolby Atmos コンテンツなど）の再生を有効 / 無効にします。	105
映像設定	ビデオモード			映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。	105
HDMI 設定	HDMI コントロール			HDMI コントロールを有効 / 無効にします。また HDMI コントロール関連項目（ARC、TV 音声入力など）を設定します。	106
	音声出力			音声の出力先を設定します。	106
	スタンバイスルー			本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。	107

メニュー	項目		説明	ページ
ネットワーク設定	ネットワーク接続		ネットワークへの接続方法を設定します。	107
	IP アドレス		ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。	107
	ネットワークスタンバイ		ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能を有効 / 無効にします。	108
	MAC アドレスフィルター		MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるネットワーク機器を制限します。	108
	ネットワーク名		ネットワーク上に表示される本機の名称を設定します。	109
Bluetooth 設定	Bluetooth		*Bluetooth* 機能を有効 / 無効にします。	109
	音声受信	デバイス切断	*Bluetooth* 機器（スマートフォンなど）との *Bluetooth* 接続を切断します。	62
	Bluetooth スタンバイ		*Bluetooth* 機器から本機の電源を入れる機能を有効 / 無効にします。	109
マルチゾーン設定	メインゾーン設定	ゾーン名変更	テレビ画面に表示されるメインゾーンの名前を変更します。	110
	ゾーン 2 設定	音量の上限	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 2 の音量の上限値を設定します。	110
		音量の初期値	ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	110
		ゾーン名変更	テレビ画面に表示されるゾーン 2 の名称を変更します。	110
	パーティーモード設定		パーティーモードへの切り替えを有効 / 無効にします。	110
ファンクション設定	表示設定	ディマー（本体表示器）	前面ディスプレイの明るさを調節します。	111
		ショートメッセージ	本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。	111
		壁紙設定	テレビ画面表示の背景画像を選択します。	111
	トリガー出力	トリガーモード	トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。	111
		対象ゾーン	トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。	112
	設定保護		設定を保護して、変更できないようにします。	112
エコ設定	自動スタンバイ		本機を指定時間操作しなかったときや入力信号が検出されなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	112
	エコモード		エコモード（消費電力の節約）を有効 / 無効にします。	112
表示言語			テレビ画面の表示言語を設定します。	113

スピーカー設定（手動設定）

スピーカーの各種パラメーターを手動で設定します。

- 各項目の初期値には下線が付いています。



■ パワーアンプ割り当て

使用するスピーカーシステムを選択します。

通常の 5.1/7.1 チャンネルのスピーカーシステムに加えて、プレゼンススピーカー、ゾーン 2 スピーカー、バイアンプ接続を使うことも可能です。

設定値

Basic	標準的なスピーカーシステムを使う場合（ゾーン 2 スピーカーやバイアンプ接続を使わない場合）に選択する。
7ch+1ZONE	メインゾーンのスピーカーシステムに加えて、ゾーン 2 スピーカーを使う場合（77 ページ）に選択する。
5ch BI-AMP	フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合（23 ページ）に選択する。

■ 構成

スピーカーの出力特性を設定します。

- スピーカーのサイズ選択時、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」にしてください。

フロント

フロントスピーカーのサイズを選択します。

設定値

大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。
小	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。

- 「サブウーファー」（101 ページ）が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。

センター

センタースピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
小	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	センタースピーカーを接続していない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

サラウンド

サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
小	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大 1 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの全帯域がサラウンドバックスピーカーから出力されます。
大 2 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの全帯域がサラウンドバックスピーカーから出力されます。
小 1 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
小 2 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの音声はサラウンドスピーカーから出力されます。

- **以下のいずれかの場合は設定できません。**
  - **–「パワーアンプ割り当て」を「5ch BI-AMP」に設定**
  - **–「サラウンド」を「無」に設定**
  - **–「配置（サラウンド）」を「前方」に設定**

フロントプレゼンス

プレゼンススピーカーの有無やサイズを設定します。

設定値

大	フロントプレゼンススピーカーが大きい場合に選択する。
小	フロントプレゼンススピーカーが小さい場合に選択する。
無	フロントプレゼンススピーカーを接続しない場合に選択する。

- **「パワーアンプ割り当て」が「5ch BI-AMP」または「7ch+1ZONE」の場合は設定できません。**

サブウーファー

サブウーファーの有無や位相を設定します。

設定値

使用する	正相	サブウーファーを接続している場合に選択する（位相を反転しない）。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
	逆相	サブウーファーを接続している場合に選択する（位相を反転する）。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
使用しない		サブウーファーを接続していない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

- **視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。**

配置

サラウンドスピーカーやフロントプレゼンススピーカー使用時の配置を選択します。

サラウンド

サラウンドスピーカー使用時の配置を選択します。

設定値

後方	サラウンドスピーカーを部屋の後方に配置する場合に選択する。
前方	サラウンドスピーカーを部屋の前方に配置する場合に選択する。この場合、バーチャルシネマフロント（56 ページ）が機能します。

- **「構成（サラウンド）」が「無」の場合は設定できません。**

フロントプレゼンス

フロントプレゼンススピーカー使用時の配置を選択します。（この設定は音場効果の最適化に使用されます。）

設定値

フロントハイト	フロントプレゼンススピーカーが前方の壁に設置されている場合に選択する。
オーバーヘッド	フロントプレゼンススピーカーが天井に設置されている場合に選択する。
ドルビーイネーブルド SP	ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をフロントプレゼンススピーカーとして使用する場合に選択する。

- **「構成（フロントプレゼンス）」が「無」の場合は設定できません。**
- **フロントプレゼンススピーカー使用時の Dolby Atmos コンテンツの再生については、「プレゼンススピーカーの配置」（19 ページ）をご覧ください。**

■ 距離

スピーカーの距離を個別に設定して、各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように調節します。最初に表示単位（メートルまたはフィート）を選んでください。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、サブウーファー

設定値

0.30m ～ 3.00m ～ 24.00m　※ 0.05m 単位

■ 音量

スピーカーの音量を個別に調節します。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、サブウーファー

設定値

–10.0dB ～ 0.0dB ～ +10.0dB（0.5dB 単位）

■ パラメトリック EQ

イコライザーを使って音色を調節します。

設定値

手動編集	イコライザーを手動で調節する場合に選択する。 詳しくは「イコライザーの手動編集」をご覧ください。
YPAO: フラット	各スピーカーの特性を均一に設定する。
YPAO: フロント近似	フロントスピーカーの特性に合わせて、各スピーカーの特性を設定する。
YPAO: ナチュラル	高域特性を下げた状態で揃えて、各スピーカーの音質を設定する。
使用しない	イコライザーを使用しない。

- **「YPAO: フラット」、「YPAO: フロント近似」、「YPAO: ナチュラル」を選択後、もう一度 ENTER キーを押すと調節の結果を確認できます。これらを選択する場合は、あらかじめ「自動測定」（36 ページ）を実行してください。**

■ イコライザーの手動編集

1 「パラメトリック EQ」で「手動編集」を選び、ENTER キーを押す。

2 もう一度 ENTER キーを押して、編集画面を表示する。

3 カーソルキーでスピーカーを選び、ENTER キーを押す。

- すべてのスピーカーの設定を初期値に戻すには、「PEQ データクリア」で「OK」を選びます。
- 「PEQ データコピー」を使うと、「YPAO: フラット」、「YPAO: フロント近似」、「YPAO: ナチュラル」の値を、「手動編集」の編集画面にコピーできます。「自動測定」の結果を微調整する場合にご利用ください。

4 カーソルキー（◁/▷）であらかじめ設定されている 7 つのバンド（サブウーファーは 4 つ）から調節したいバンドを選び、カーソルキー（△/▽）でゲイン（レベルの強さ）を調節する。



設定値
ゲイン：–20.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

5 中心周波数や Q ファクター（バンド幅）を微調節したい場合は、ENTER キーを繰り返し押して項目を選び、以下のように操作する。

周波数：カーソルキー（◁/▷）で選択中の「バンド」の中心周波数を調節し、カーソルキー（△/▽）でゲインを調節する。

Q：カーソルキー（◁/▷）で選択中の「バンド」の Q ファクター（バンド幅）を調節し、カーソルキー（△/▽）でゲインを調節する。

設定値
中心周波数：31.3Hz ～ 16.0kHz（サブウーファーは 31.3Hz ～ 250.0Hz）
Q ファクター：0.500 ～ 10.08

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ テストトーン

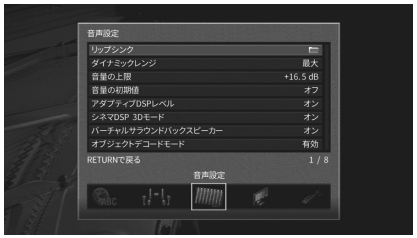
テストトーン出力を有効 / 無効にします。テストトーンを出力すると、実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節できます。

設定値

オフ	テストトーンを出力しない。
オン	スピーカーの音量やイコライザーなどを設定する際に、テストトーンを自動的に出力する。

音声設定

音声出力に関する設定を変更します。



■ リップシンク

音声の出力を遅らせることにより、映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。

ディレイ有効設定

入力ごとに、リップシンク（映像と音声の出力タイミング補正）を有効 / 無効にします。

選択項目
HDMI 1 ～ 7、AV 1 ～ 6、V-AUX、AUDIO 1 ～ 2

設定値

無効	選択した入力のリップシンクを無効にします。
有効	選択した入力のリップシンクを有効にします。

自動 / 手動選択

映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。

設定値

自動補正	自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続時に、映像と音声のずれを自動で補正する。 必要に応じて、「調整」で自動補正の値を微調整できます。
手動補正	映像と音声のずれを手動で補正する。 「調整」で設定した補正値が適用されます。

- 本機に接続したテレビによっては、「自動補正」に設定しても自動で補正されないことがあります。この場合は「手動補正」に設定し、「調整」で手動調整してください。

調整

「自動 / 手動選択」を「手動補正」に設定時、映像と音声のずれを手動で調整します。

「自動補正」に設定時は、自動補正の値を微調整できます。

設定値

0ms ～ 500ms（1ms 単位）



- **自動調整時の「オフセット」には、自動補正の値と微調整した値の差が表示されます。**

■ ダイナミックレンジ

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

設定値

最大	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
最小 / 自動	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

■ 音量の上限

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値

–30.0dB ～ +15.0dB（5.0dB 単位）、+16.5dB

■ 音量の初期値

電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または指定した音量（–80.0dB ～ +16.5dB、0.5dB 単位）に固定する。 （「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効）

■ アダプティブ DSP レベル

音場プログラムのエフェクト量を自動的に調節するかどうかを設定します。

設定値

オフ	自動的に調節しない。
オン	YPAO の測定結果と音量調節に応じて自動的に調節する。

■ シネマ DSP 3D モード

シネマ DSP 3D（55 ページ）を有効 / 無効にします。有効にすると、選択している音場プログラム（2ch Stereo、7ch Stereo 以外）に応じてシネマ DSP 3D が機能します。

設定値

オフ	シネマ DSP 3D を無効にする。
オン	シネマ DSP 3D を有効にする。

■ バーチャルサラウンドバックスピーカー

サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を創り出すかどうかを設定します。VSBS を有効にすると、サラウンドバックスピーカーが接続されていない場合でも、本機はサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出します。

設定値

オフ	バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を無効にする。
オン	バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を有効にする。



- **VSBS は 6.1/7.1 チャンネルソースの再生時のみ効果があります。**

■ オブジェクトデコードモード

オブジェクトベースの音声信号（Dolby Atmos コンテンツなど）の再生を有効 / 無効にします。

設定値

無効	オブジェクトベースの音声信号の再生を無効にする。 （通常の 5.1/7.1 チャンネルで再生されます。）
有効	オブジェクトベースの音声信号の再生を有効にする。

- シネマ DSP を使った音場プログラムが選択されている場合、オブジェクトベースの音声信号は常に通常の 5.1/7.1 チャンネルで再生されます。

映像設定

映像出力に関する設定を変更します。



■ ビデオモード

映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。

設定値

ダイレクト	映像の信号処理を無効にする。
信号処理	映像の信号処理を有効にする。 「解像度」と「アスペクト」の設定が適用されます。

- 「ダイレクト」に設定時は、映像信号出力の遅延を低減するため、各種の映像処理回路をバイパスして映像信号が伝送されます。
- 「信号処理」に設定し、解像度変換が行われているときは TV にショートメッセージが表示されません。

解像度

「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、出力する HDMI 映像信号の解像度を選択します。

設定値

変換しない	解像度を変換しない。
自動判別	出力先のテレビの解像度に自動的に合わせる。
480p、720p、 1080i、1080p、4K	指定した解像度に変換する。 （テレビが対応している解像度のみ選択可）

- テレビが対応していない解像度で出力するには、アドバンスドセットアップメニューの「MON.CHK」で「SKIP」を選んでから（116 ページ）、解像度を設定してください（映像がテレビ画面に正しく表示されなくなる場合があります）。

アスペクト

「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、出力する HDMI 映像信号のアスペクト比（縦横比）を選択します。

設定値

変換しない	アスペクト比を変換しない。
16：9 ノーマル	4：3 の映像の左右に黒い帯をつけて、16：9 のテレビに合わせる。

- 解像度が 480i、480p の映像信号を 720p、1080i、1080p または 2160p（4K）に変換時のみ有効です。

HDMI 設定

HDMI に関する設定を変更します。



■ HDMI コントロール

HDMI コントロール（135 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
<u>オン</u>	HDMI コントロールを有効にする。 「TV 音声入力」、「ARC」、「スタンバイ連動」の設定が適用されます。

!

- **「HDMI コントロール」を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります（135 ページ）。**

TV 音声入力

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定値
AV1 ～ 6、AUDIO1 ～ 2

初期値
AV4

!

- **ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用に割り当てられます。したがって、本体背面の該当入力端子は使用できません。**

ARC

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、ARC（25ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ARC を無効にする。
<u>オン</u>	ARC を有効にする。

!

- **通常は「オン」（初期値）から変更する必要はありません。テレビ音声の再生時にノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。**

スタンバイ連動

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
<u>自動</u>	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

■ 音声出力

音声の出力先を設定します。

!

- **「アンプ」および「HDMI OUT1」は、「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。**

アンプ

音声を本機に接続したスピーカー（ヘッドホン）から出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	スピーカー（ヘッドホン）から出力しない。
<u>オン</u>	スピーカー（ヘッドホン）から出力する。

HDMI OUT1、HDMI OUT2

音声を HDMI OUT 1 端子または HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

!

- **本機の電源がオンのとき、テレビに出力される音声は 2 チャンネルに限定されます。**

■ スタンバイスルー

本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。「オン」または「自動」に設定すると、本機がスタンバイ時でも入力選択キー（HDMI1 ～ 7、V-AUX）で HDMI 入力を選べます（入力選択時に本体前面のスタンバイ表示が点滅します）。

設定値

オフ	テレビに出力しない。 （「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ選択可）
オン	テレビに出力する。「オフ」に設定時よりも電力を消費します。
自動	テレビに出力する。 （入力信号が無い状態が続くと、本機が自動的に省電力モードに切り替わります。）

ネットワーク設定

ネットワークに関する設定を変更します。



■ ネットワーク接続

ネットワークへの接続方法を設定します。

設定値

有線	市販のネットワークケーブルを使って（32 ページ）、本機をネットワークに接続する場合に選択する。
無線（Wi-Fi）	無線ルーター（アクセスポイント）を経由して、本機をネットワークに接続する場合に選択する。詳しくは「無線ネットワークに接続する」（45 ページ）をご覧ください。
無線（携帯端末を直接接続 /Wireless Direct）	モバイル機器を本機に直接接続する場合に選択する。詳しくは「モバイル機器を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト）」（50 ページ）をご覧ください。

■ IP アドレス

ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。

DHCP

DHCP サーバーを使用するかどうかを設定します。

設定値

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する。詳しくは「ネットワーク情報の手動設定」をご覧ください。
オン	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報（IP アドレスなど）を自動的に取得する。取得したネットワーク情報は、情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で確認できます。

■ ネットワーク情報の手動設定

1 「DHCP」で「オフ」を選ぶ。

2 カーソルキー（△/▽）で項目を選び、ENTER キーを押す。

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

3 カーソルキー（◁/▷）で変更する位置を移動し、カーソルキー（△/▽）で値を選ぶ。

4 ENTER キーで設定値を確定する。

5 別の項目を設定するには、手順 2 ～ 4 を繰り返す。

6 変更した内容を保存するには、カーソルキー（△/▽）で「OK」を選び ENTER キーを押す。

7 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ ネットワークスタンバイ

ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ネットワークスタンバイを無効にする。
オン	ネットワークスタンバイを有効にする。「オフ」に設定時よりも電力を消費します。
自動	ネットワークスタンバイを有効にする。 （「ネットワーク接続」を「有線」に設定時、本機がネットワークから切断されると自動的に省電力モードに切り替わります。）

■ MAC アドレスフィルター

MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるネットワーク機器を制限します。

フィルター

MAC アドレスフィルターを有効 / 無効にします。

設定値

オフ	MAC アドレスフィルターを無効にする。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にする。 「MAC アドレス 1-10」で指定した MAC アドレスを持つネットワーク機器だけが本機にアクセスできるようになります。



- AirPlay（75 ページ）や DMC（92 ページ）からの操作は制限されません。

MAC アドレス 1-10

「フィルター」を「オン」に設定時、本機へのアクセスを可能にするネットワーク機器の MAC アドレス（最大 10 個）を指定します。

■ 手順

1 カーソルキー（△/▽）で「MAC アドレス 1-5」または「MAC アドレス 6-10 」を選び、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（△/▽）でアドレス番号を選び、ENTER キーを押す。

3 カーソルキー（◁/▷）で変更する位置を移動し、カーソルキー（△/▽）で値を選ぶ。

4 ENTER キーで設定値を確定する。

5 変更した内容を保存するには、カーソルキー（△/▽）で「OK」を選び ENTER キーを押す。

6 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

■ ネットワーク名

ネットワーク上に表示される本機の名前を変更します。

■ 手順

1 **ENTER キーを押して、編集画面を開く。**

2 **カーソルキーと ENTER キーで名称を変更し、「決定」を選んで確定する。**



• 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。

3 **カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。**

• 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

4 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

Bluetooth 設定

Bluetooth 機能に関する設定を変更します。



■ Bluetooth

Bluetooth 機能（62 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	*Bluetooth* 機能を無効にする。
<u>オン</u>	*Bluetooth* 機能を有効にする。

■ Bluetooth スタンバイ

Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能（Bluetooth スタンバイ）を有効 / 無効にします。有効にすると、*Bluetooth* 機器で接続操作を行ったときに自動的に本機の電源が入ります。

設定値

オフ	Bluetooth スタンバイを無効にする。
<u>オン</u>	Bluetooth スタンバイを有効にする。 （「オフ」に設定時より電力を消費します。）

•「ネットワークスタンバイ」（108 ページ）が「オフ」の場合は設定できません。

マルチゾーン設定

マルチゾーンに関する設定を変更します。



■ メインゾーン設定

メインゾーンに関する設定を変更します。

ゾーン名変更

テレビ画面に表示されるメインゾーンの名称を変更します。

■ 手順

1 **ENTER キーを押して、編集画面を開く。**

2 **カーソルキーと ENTER キーで名称を変更し、「決定」を選んで確定する。**



- **入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。**

3 **カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。**

- **初期値に戻すには、「リセット」を選びます。**

4 **終了するには、ON SCREEN キーを押す。**

■ ゾーン 2 設定

ゾーン 2 の音声出力に関する設定を変更します。

音量の上限

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 2 の音量の上限値を設定します。

設定値

–30.0dB ～ +15.0dB（5.0dB 単位）、+16.5dB

- **「パワーアンプ割り当て」（100 ページ）が「7ch+1ZONE」の場合のみ設定できます。**

音量の初期値

ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または –80.0dB ～ +16.5dB（0.5dB 単位）に固定する。 （「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効）

- **「パワーアンプ割り当て」（100 ページ）が「7ch+1ZONE」の場合のみ設定できます。**

ゾーン名変更

テレビ画面に表示される、ゾーン 2 の名称を変更します。

設定手順については、「メインゾーン設定」の「ゾーン名変更」をご覧ください。

■ パーティーモード設定

パーティーモード（80 ページ）への切り替えを有効 / 無効にします。

選択項目

対象：ゾーン 2

設定値

無効	パーティーモードへの切り替えを無効にする。
有効	パーティーモードへの切り替えを有効にする。 リモコンの PARTY キーでパーティーモードを入 / 切できます。

ファンクション設定

本機をより便利に使うための機能を設定します。



■ 表示設定

前面ディスプレイおよびテレビ画面表示に関する設定を変更します。

ディマー（本体表示器）

前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定値

–4 ～ 0（値が大きいほど明るい）

- **「エコモード」（112 ページ）を「オン」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。**

ショートメッセージ

入力選択や音量調節など、本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。

設定値

オン	テレビ画面にショートメッセージを表示する。
オフ	テレビ画面にショートメッセージを表示しない。

壁紙設定

テレビ画面表示の背景画像を選択します。

設定値

ピアノ	背景をピアノ画像に設定する。
グレー	背景をグレー（灰色）に設定する。

■ トリガー出力

TRIGGER OUT 端子に接続した機器の制御に関する設定をします。

トリガーモード

トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。

設定値

パワー	「対象ゾーン」で設定したゾーンの電源操作に連動して、電気信号を出力 / 停止する。
ソース	「対象ゾーン」で設定したゾーンの入力選択に連動して、電気信号を出力 / 停止する。 入力ごとに電気信号の出力 / 停止を設定できます。詳しくは「ソース」をご覧ください。
手動	電気信号を手動で出力 / 停止する。詳しくは「手動」をご覧ください。

ソース

「トリガーモード」を「ソース」に設定時、入力ごとに電気信号の出力 / 停止を設定します。

選択項目

HDMI1 ～ 7、AV1 ～ 6、V-AUX、AUDIO1 ～ 2、TUNER、PHONO、SERVER、NET RADIO、AirPlay、Bluetooth、USB

設定値

ロー	該当する入力を選んだときに電気信号の出力を停止する。
ハイ	該当する入力を選んだときに電気信号を出力する。

手動

「トリガーモード」を「手動」に設定時、電気信号を手動で出力 / 停止します。
トリガー機能が正しく動作するか確認する際にご利用ください。

選択項目

ロー	電気信号の出力を停止する。
ハイ	12V の電気信号を出力する。

対象ゾーン

「トリガーモード」を「パワー」または「ソース」に設定時、トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。

設定値

メイン	メインゾーンの動作に連動して電気信号を出力する。
ゾーン 2	ゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。
全ゾーン	メインゾーンやゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。

■ 設定保護

設定を保護して、変更できないようにします。

設定値

しない	設定を保護しない。
する	設定を保護する。「しない」に戻すまで、設定変更が禁止されます。

- **「設定保護」を「する」に設定時、メニュー画面右上に設定保護（🔒）アイコンが表示されます。**



エコ設定

電源 / 消費電力に関する設定を変更します。



■ 自動スタンバイ

本機を指定時間操作しなかったときや入力信号が検出されなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。

設定値

オフ	電源を自動的にスタンバイにしない。
20 分	入力信号が無い状態で、本機を 20 分間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2 時間、4 時間、8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。たとえば「2 時間」を選んだ場合、本機の操作が 2 時間行われなかったとき電源がスタンバイになります。

- **自動的にスタンバイになる直前、前面パネルに「AutoPowerStdby」と表示され、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。**

■ エコモード

エコモードを有効 / 無効にします。
有効にすると、本機の消費電力を低減できます。

設定値

オフ	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。

- **「エコモード」の設定を変更した場合は、本機を再起動してください。新しい設定は再起動後に反映されます。**
- **「エコモード」を「オン」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。**
- **大きな音量で再生する場合は、「エコモード」を「オフ」に設定してください。**

表示言語

テレビ画面の表示言語を設定します。



設定値

English	英語
日本語	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
Русский	ロシア語
Italiano	イタリア語
中文	中国語

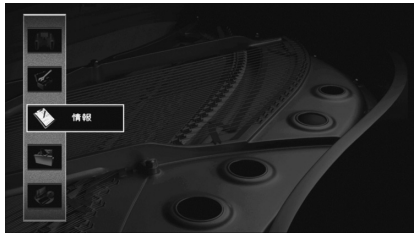
- 前面ディスプレイは常に英語で表示されます。

情報を確認する（情報メニュー）

テレビ画面で各種情報を確認します。

1 ON SCREEN キーを押す。

2 カーソルキーで「情報」を選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキー（◁/▷）で情報の種類を選ぶ。



4 終了するには、ON SCREEN キーを押す。

情報の種類

■ 音声信号

音声信号に関する情報が表示されます。

入力	信号方式	入力信号の音声フォーマット
	チャンネル	信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE） 「5.1(3/2/0.1)」と表示されている場合、合計 5.1ch（フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE）
	サンプリング	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数（サンプリング周波数）
	ビットレート	入力ビットストリーム信号の 1 秒あたりのデータ量
	ダイアローグ	入力ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベル
出力		音声を出力しているスピーカー端子

- **信号の種類により、一部の情報が表示されない場合があります。**
- **本機側でビットストリーム信号をそのまま出力していても、再生機器側の仕様や設定により、信号が変換されている場合があります。**

■ ビデオ信号

映像信号に関する情報が表示されます。

HDMI 信号	HDMI 信号の入出力の有無
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度
アナログ解像度	入力信号（アナログ）と MONITOR OUT 端子から出力される信号（アナログ）の解像度

■ HDMI モニタ

HDMI OUT 端子に接続しているテレビに関する情報が表示されます。

カーソルキー（△/▽）で「OUT1」と「OUT2」を切り替えてください。

インターフェース	テレビのインターフェース
ビデオ解像度	テレビが対応している解像度

■ ネットワーク

本機のネットワーク情報が表示されます。

（有線接続または無線接続［Wi-Fi］を使用時）

IP アドレス	IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス
MAC アドレス （イーサネット）	MAC アドレス
MAC アドレス （Wi-Fi）	
vTuner ID	vTuner ID
ネットワーク名	ネットワーク名（ネットワーク上で使用する本機の名称）
有線 / 無線	有線または無線の接続状態
SSID	（無線接続［Wi-Fi］を使用時） 無線ネットワークの SSID

（ワイヤレスダイレクトを使用時 ）

SSID	無線ネットワークの SSID
セキュリティー	暗号化方式
セキュリティーキー	セキュリティーキー
IP アドレス	IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
MAC アドレス （Wi-Fi）	MAC アドレス
ネットワーク接続	「無線（WD）」と表示

■ システム

本機のシステム情報が表示されます。

リモート ID	本体側のリモコン ID 設定（116 ページ）
TV フォーマット	本機のビデオ信号方式（116 ページ）
スピーカー インピーダンス	本機のスピーカーインピーダンス設定（116 ページ）
システム ID	システム認識番号
ファームウェア バージョン	本機にインストールされているファームウェアのバージョン

- ネットワークから最新のファームウェアが検出されると、「情報」アイコンおよび「システム」アイコンの右上に「!」が表示されます。また「システム」画面にメッセージが表示されます。ファームウェアを更新するには、「システム」画面で ENTER キーを押し、「ネットワーク経由で本機のファームウェアを更新する」（118 ページ）の手順を実行してください。

■ マルチゾーン

ゾーン 2 に関する情報が表示されます。

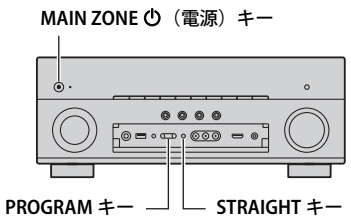
入力	ゾーン 2 で再生中の入力
音量	ゾーン 2 の音量

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

前面ディスプレイを見ながら、本機のシステム設定を変更します。

1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。

2 前面の STRAIGHT キーを押しながら ⏻（電源）キーを押す。



3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。

4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。

5 MAIN ZONE ⏻（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

設定変更が反映されます。

アドバンスドセットアップメニューでできること

項目	説明	ページ
SP IMP.	本機のスピーカーインピーダンス設定を変更します。	116
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	116
TV FORMAT	ビデオ信号方式を切り替えます。	116
MON.CHK	HDMI 映像出力の制限を解除します。	116
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	117
INIT	各種設定を初期化します。	117
UPDATE	ファームウェアを更新します。	117
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	117

- 各項目の初期値には下線が付いています。

スピーカーインピーダンス設定の変更（SP IMP.）



接続するスピーカーのインピーダンスにあわせて、本機のスピーカーインピーダンス設定を変更します。

設定値

6ΩMIN	いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合に選択する。この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。
8ΩMIN	8Ω 以上のスピーカーを接続する場合に選択する。

リモコン ID の変更（REMOTE ID）



リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するよう、本体側のリモコン ID を変更します。

複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないように設定します。

設定値
ID1、ID2

■ リモコン側のリモコン ID 設定

1 **ID1 に設定するには、カーソルキー（◁）を押しながら SCENE（BD/DVD）キーを 3 秒間押し続ける。**
ID2 に設定するには、カーソルキー（◁）を押しながら SCENE（TV）キーを 3 秒間押し続ける。

ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）



お使いのテレビに合わせて、本機のビデオ信号方式を切り替えます。

設定値
NTSC、PAL

HDMI 映像出力の制限解除（MON.CHK）



本機は、HDMI OUT 端子に接続したテレビが対応している解像度を自動的に判別します（モニターチェック）。本機の判別に関わらず「解像度」（105 ペ ー ジ）で出力する解像度を指定したい場合や、テレビの解像度を本機が判別できない場合は、モニターチェックを無効にしてください。

設定値

YES	モニターチェックを有効にする。 （テレビが対応している解像度の映像のみ出力）
SKIP	モニターチェックを無効にする。 （テレビの対応に関わらず映像を出力）

!

- **「SKIP」に設定後、本機の映像がテレビ画面に正しく表示されずに本機を操作できない場合は、「YES」に戻してください。**

HDMI 4K 信号のフォーマット設定（4K MODE）



HDMI 4K（60Hz/50Hz）対応のテレビおよび再生機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

設定値

MODE 1	4K（60Hz/50Hz）信号を 4:4:4、4:2:2 または 4:2:0 フォーマットで入出力する。（VIDEO AUX［HDMI IN］端子は 4:2:0 フォーマットのみ）接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は「MODE 2」に設定してください。
MODE 2	4K（60Hz/50Hz）信号を 4:2:0 フォーマットで入出力する。

- 「MODE 1」に設定した場合は、18Gbps に対応したハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。

設定の初期化（INIT）



本機の各種設定を初期化します。

選択項目

VIDEO	映像に関する設定を初期化する。
ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

ファームウェアの更新（UPDATE）



機能の追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアが更新されることがあります。ファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。本機がインターネットに接続されている場合は、ネットワーク経由で更新することも可能です。

詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

■ ファームウェアの更新手順

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前に、ファームウェア更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

1 本体前面の STRAIGHT キーで「USB」または「NETWORK」を選び、INFO キーで実行する。

選択項目

USB	USB メモリーを使ってファームウェアを更新する。
NETWORK	ネットワーク経由でファームウェアを更新する。

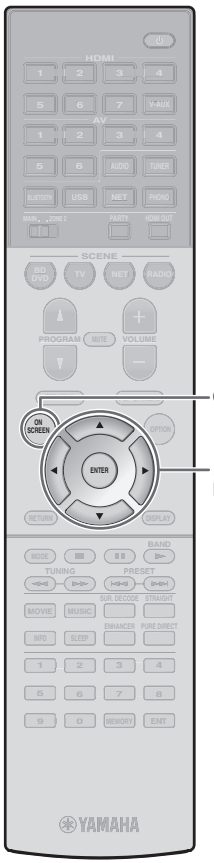
- ネットワークから最新のファームウェアが検出されると、ON SCREEN キーを押したときにメッセージが表示されます。この場合は、「ネットワーク経由で本機のファームウェアを更新する」（118 ページ）の手順でもファームウェアを更新できます。

ファームウェアバージョンの確認（VERSION）



本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

- 情報メニューの「システム」（115 ページ）でもファームウェアのバージョンを確認できます。
- 表示されるまで時間がかかる場合があります。



ネットワーク経由で本機のファームウェアを更新する

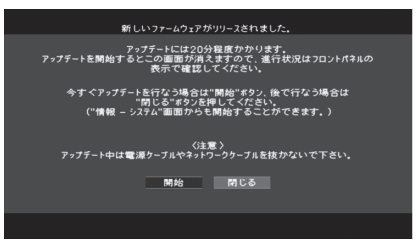
本機がインターネットに接続されている場合、ネットワークから最新のファームウェアが検出されるとメッセージが表示されます。この場合、以下の手順でファームウェアを更新できます。

注意

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。所要時間は約 **20** 分です（インターネット回線の速度により異なります）。
- 本機を無線ネットワークに接続している場合、接続状態によってはファームウェアの更新に失敗することがあります。その場合、**USB** メモリーを使ってファームウェアを更新してください（**117** ページ）。
- ファームウェアに関する詳細は弊社ウェブサイトをご覧ください。

- アドバンスドセットアップメニュー（**117** ページ）では、**USB** メモリーを使ってファームウェアを更新することもできます。

ファームウェアの更新が可能な場合、ON SCREEN キーを押したあとに次のメッセージ画面が表示されます。



1 テレビ画面の表示内容を確認する。

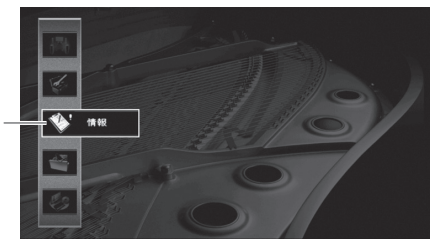
2 ファームウェアを更新するには、カーソルキーで「開始」を選び、**ENTER** キーを押す。

テレビ画面の表示が消えます。

3 前面ディスプレイに「**UPDATE SUCCESS PLEASE POWER OFF!**」と表示されたら、本体前面の **MAIN ZONE** キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。

- ファームウェアを更新せずにメッセージ画面を閉じるには、手順 **2** で「閉じる」を選びます。この場合、「情報」アイコンおよび「システム」アイコンの右上に「!」が表示されます。また「システム」画面にメッセージが表示されます。「システム」画面で **ENTER** キーを押すと、ファームウェアを更新できます。





付録

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった...

スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、「自動測定」を実行してスピーカー設定を再調整してください（36 ページ）。手動でスピーカー設定を調整する場合は、設定メニューの「手動設定」をご利用ください（100 ページ）。

小さな子供がいるので音量が大きくならないようにしたい ...

誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。このような場合は、設定メニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください（104 ページ）。

電源を入れた直後に音量が大きいとびっくりする ...

初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、設定メニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください（104 ページ）。ゾーン 2 でも同様に設定できます（110 ページ）。

特定の入力の音量が他の入力に比べて大きすぎる ...

入力ごとの音量差を補正するには、オプションメニューの「入力レベル補正」をご利用ください（89 ページ）。

HDMIケーブルで接続しているのにHDMIコントロールが機能しない...

HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります（135 ページ）。HDMI コントロール対応機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。なお、HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

操作時にテレビ画面に表示されるメッセージを消したい ...

初期状態では、入力選択や音量調節など本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージが表示されます。映画やスポーツを観ているときなど、映像と重なってしまい見づらい場合は、設定メニューの「ショートメッセージ」（111 ページ）でメッセージが表示されないように設定できます。

設定変更を禁止したい ...

スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止するには、設定メニューの「設定保護」をご利用ください（112 ページ）。

ウェブコントロール画面（82 ページ）が表示されなくなった ...

DHCP サーバーから本機の IP アドレスを取得している場合、本機の電源を入れ直したときに IP アドレスが変わる可能性があります。情報メニューの「ネットワーク」（114 ページ）で IP アドレスをご確認ください。また「MAC アドレスフィルター」（108 ページ）を設定している場合は、お使いのパソコンの MAC アドレスを「MAC アドレス 1-10」（108 ページ）に登録して、本機へのアクセスを可能にしてください。MAC アドレスの確認方法については、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう ...

複数のヤマハ製機器お使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。このような場合は、それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください（116 ページ）。

本機の電源がスタンバイのときも、テレビでビデオ機器の映像 / 音声を楽しみたい ...

本機の電源がスタンバイのときに本機に接続されたビデオ機器（HDMI 接続の機器のみ）の映像 / 音声をテレビで楽しむには、設定メニューの「スタンバイスルー」を「オン」または「自動」に設定してください（107 ページ）。本機のリモコンで、入力を切り替えることもできます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

最初にご確認ください ...

① 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。

② 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。

③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源 / システム / リモコン

症状	原因	対策
電源が入らない。	保護回路が 3 回続けて作動した。 （この状態で電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅します。）	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
電源が切れない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の MAIN ZONE ⏻（電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください（問題が解決しない場合は、コンセントから電源コードのプラグを抜き、再度差し込んでください）。
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（23 ページ）。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	スリープタイマーが作動した。	もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
	操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。	自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください（112 ページ）。
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（23 ページ）。
	音量を上げすぎたため、保護回路が作動した。	音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください（112 ページ）。
本機が操作を受け付けない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の MAIN ZONE ⏻（電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください（問題が解決しない場合は、コンセントから電源コードのプラグを抜き、再度差し込んでください）。
リモコンで本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（6 ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明または本体の向きを変えてください。
	本体とリモコンの ID が一致していない。	本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください（116 ページ）。

音声

症状	原因	対策
音が出ない	別の入力が選択されている。	入力選択キーで正しい入力を選んでください。
	本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、情報メニューの「音声信号」で確認できます（114 ページ）。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音量が上がらない	音量の上限値が低く設定されている。	設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください（104 ページ）。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。	該当機器すべての電源を入れてください。
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	情報メニューの「音声信号」で、入力信号のチャンネル数を確認できます（114 ページ）。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	設定メニューの「テストトーン」を「オン」に設定して、スピーカー出力を確認してください（103 ページ）。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	「自動測定」を実行するか（36 ページ）、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください（100 ページ）。
	該当スピーカーの音量が極端に小さい。	「自動測定」を実行するか（36 ページ）、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください（102 ページ）。
	本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	該当スピーカーが故障している。	正常に機能している別のスピーカーと交換することで確認できます。 それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。	設定メニューの「テストトーン」を「オン」に設定して、サブウーファー出力を確認してください（103 ページ）。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	「自動測定」を実行するか（36 ページ）、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください（101 ページ）。
	サブウーファーの音量が極端に小さい。	サブウーファーの音量を調節してください。
	サブウーファーのオートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）が作動した。	サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。

症状	原因	対策
HDMI で接続した再生機器の音が出ない	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。（HDMI コントロール使用時）	テレビ音声が本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	HDMI 入力音声をスピーカーから出力しない設定にしている。	設定メニューの「TV 音声出力」で、「アンプ」を「オン」に設定してください（106 ページ）。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
テレビの音声が本機から出ない（HDMI コントロール使用時）	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。	テレビ音声が本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	（音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合）「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。	設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください（106 ページ）。
	（ARC を使ってテレビ音声を入力したい場合）本機またはテレビの ARC が無効になっている。	設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください（106 ページ）。また、テレビ側で ARC を有効にしてください。
	ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで接続している。	光ケーブルで接続してください（25 ページ）。
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている。	情報メニューの「音声信号」（114 ページ）で、入力信号の音声フォーマットを確認してください。必要に応じて、再生機器側の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音がひずむ	音量が大きすぎる。	音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください（112 ページ）。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。	該当機器すべての電源を入れてください。

映像

症状	原因	対策
映像が出ない	本機で別の入力が選択されている。	入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
	テレビで別の入力が選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
	コンポーネントビデオで接続したビデオ機器で、480i 以外の映像を出力している。	480i 以外の映像は HDMI 端子から出力できません。ビデオ機器の映像出力を 480i に変更するか、本機とテレビをコンポーネントビデオ端子で接続してください（26 ページ）。
	テレビが非対応の映像信号を出力している。	アドバンスドセットアップメニューの「MON.CHK」を「YES」に設定してください（116 ページ）。
	本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。	入力中の映像信号（解像度）は、情報メニューの「ビデオ信号」で確認できます（114 ページ）。本機が対応している映像信号については「本機が対応している HDMI 信号」（136 ページ）をご覧ください。
	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。 HDCP 2.2 対応機器が必要なコンテンツを再生する場合、テレビと再生機器の両方が HDCP 2.2 に対応している必要があります。
	HDCP 2.2 対応の再生機器が HDM1 ～ 3 端子以外の入力端子に接続されている。	HDCP 2.2 対応機器が必要なコンテンツを再生する場合、再生機器を HDM1 ～ 3 端子に接続してください（27 ページ）。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
本機のメニューがテレビに表示されない	本機とテレビが HDMI ケーブルで接続されていない。	本機のメニューをテレビに表示するには、本機とテレビを HDMI で接続する必要があります。必要に応じて、テレビと本機を HDMI ケーブルで接続してください（25 ページ）。
	テレビで別の入力が選択されている。	テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替えてください。
映像が途切れる（テレビを 2 台接続時）	一方のテレビの電源が切れている状態で、HDMI 出力端子が「HDMI OUT 1+2」に設定されている。	HDMI 出力端子を「HDMI OUT 1」または「HDMI OUT 2」に設定し、使用するテレビにのみ信号を出力してください（52 ページ）。

FM/AM ラジオ

症状	原因	対策
FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	オプションメニューの「FM モード」を「モノラル」に設定して、モノラル放送に切り替えてください（89 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。	環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。
自動選局ができない	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	手動で選局してください（59 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
	AM ラジオの電波が弱い。	AM アンテナの方向を変えてください。
		手動で選局してください（59 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA（AM）端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。
AM ラジオ局を登録（プリセット）できない	自動登録（オートプリセット）を使用した。	オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください（59 ページ）。

Bluetooth

症状	原因	対策
***Bluetooth* 機器と接続できない**	本機の *Bluetooth* 機能が無効になっている。	*Bluetooth* 機能を有効にしてください（109 ページ）。
	本機が別の *Bluetooth* 機器と接続されている。	現在の *Bluetooth* 接続を切断してから、目的の *Bluetooth* 機器と接続してください（62 ページ）。
	本機と *Bluetooth* 機器の距離が離れすぎている。	本機と *Bluetooth* 機器を近づけてください。
	2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。	本機とそれらの機器を遠ざけてください。
	お使いの *Bluetooth* 機器が A2DP プロファイルに対応していない。	A2DP プロファイル対応の *Bluetooth* 機器をお使いください。
	Bluetooth 機器に登録されている接続情報が何らかの原因で正しく機能していない。	*Bluetooth* 機器の接続情報を削除してから、本機と *Bluetooth* 機器の接続操作を行ってください（62 ページ）。
音が出なかったり途切れたりする	音量が極端に小さい。	*Bluetooth* 機器の音量をあげてください。
	Bluetooth 機器が音声を伝送する設定になっていない。	*Bluetooth* 機器の音声出力設定をご確認ください。
	Bluetooth 接続が終了している。	本機と *Bluetooth* 機器の接続操作を再度実行してください（62 ページ）。
	本機と *Bluetooth* 機器の距離が離れすぎている。	本機と *Bluetooth* 機器を近づけてください。
	2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。	本機とそれらの機器を遠ざけてください。

USB/ ネットワーク

症状	原因	対策
USB 機器が認識されない	USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。
	FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。	FAT16/32 フォーマットの USB 機器を使用してください。
USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない	暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。	暗号化機能のない USB 機器を使用してください。
再生が停止してしまう（連続して再生できない）	本機が再生できないファイルが存在する。	再生しようとするフォルダーには本機が再生できないファイル（画像ファイルや隠しファイルなどを含む）を入れないでください。
ネットワーク機能を使用できない	ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。	ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください（107 ページ）。DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください（108 ページ）。
無線ルーター（アクセスポイント）に接続できない	無線ルーター（アクセスポイント）の電源が切れている。	無線ルーター（アクセスポイント）の電源を入れてください。
	本機と無線ルーター（アクセスポイント）の距離が離れすぎている。	本機と無線ルーター（アクセスポイント）を近づけてください。
	本機と無線ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある。	本機または無線ルーター（アクセスポイント）を移動し、機器間に障害物がなくなるように設置してください。
	無線ルーター（アクセスポイント）が 14 チャンネルを使用する設定になっている。	1 ～ 13 チャンネルのいずれかを使用するよう設定を変更してください。
無線ネットワークが見つからない	電子レンジや別の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。	それらの機器の電源を切るか、本機や無線ルーターから遠ざけてください。
	無線ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	無線ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定をご確認ください。
パソコンが検出されない	パソコンのメディア共有設定が正しくない。	本機がパソコンのフォルダーにアクセスできるように、パソコンのメディア共有設定を変更してください（69 ページ）。
	セキュリティソフトなどの設定により、パソコンへのアクセスが制限されている。	パソコンやルーターのセキュリティソフトの設定をご確認ください。
	本機とパソコンが同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するパソコンの MAC アドレスを指定してください（108 ページ）。

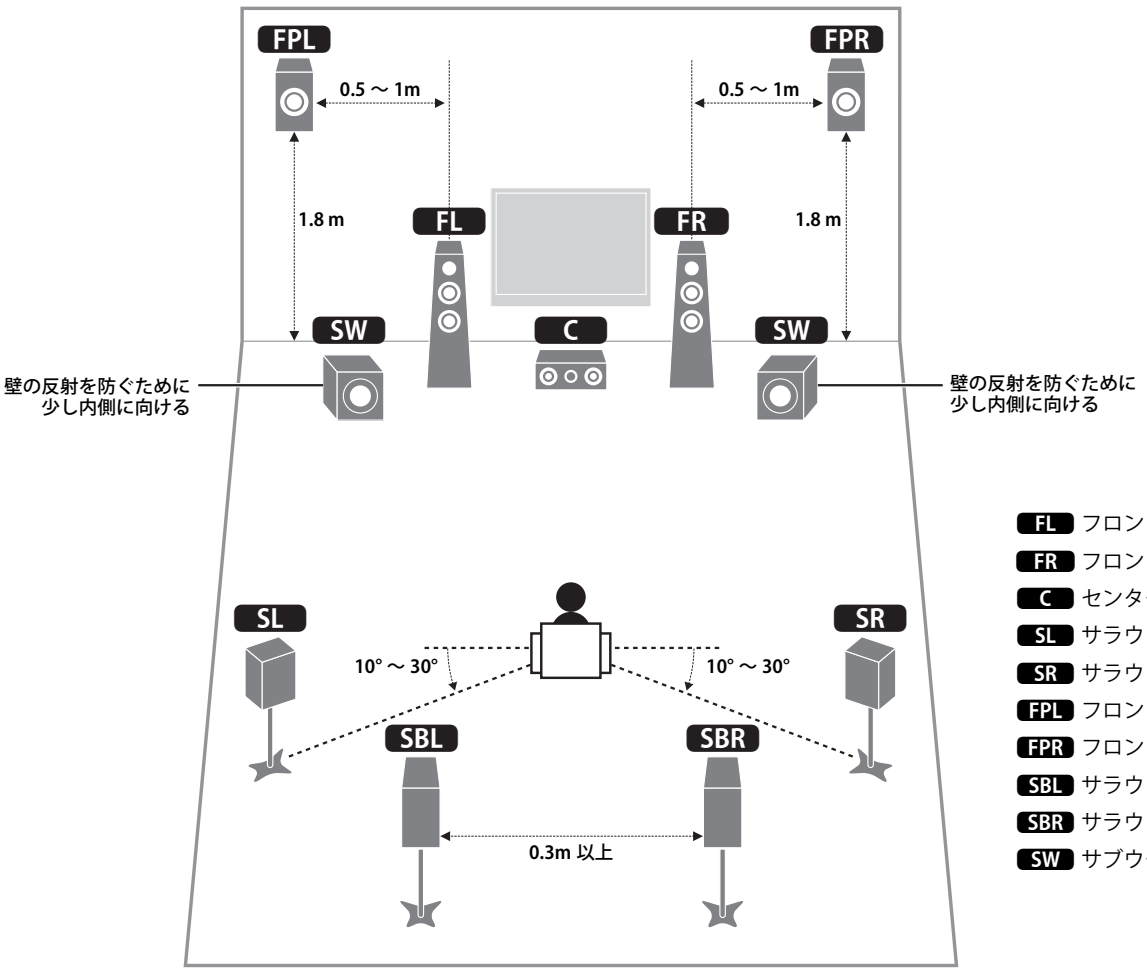
症状	原因	対策
パソコンのファイルが表示（再生）されない	本機またはサーバーが非対応のファイル形式を使用している。	本機およびサーバーが対応しているファイル形式を使用してください。本機が対応している音楽ファイルについては「パソコン（サーバー）の曲を再生する」（69 ページ）をご覧ください。
インターネットラジオを再生できない	選択したラジオ局のサービスが現在停止している。	ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。	時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音はでません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。
AirPlay 使用時に、iPod で本機が検出されない	マルチ SSID 対応ルーターを使用している。	ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPod を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください（プライマリ SSID への接続をお試しください）。
モバイル端末の専用アプリケーションで本機が検出されない	本機とモバイル端末が同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するモバイル端末の MAC アドレスを指定してください（108 ページ）。
ネットワーク経由によるファームウェアの更新に失敗した	ネットワークの接続状態がよくない。	しばらく経ってから再度更新をお試しください。または USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください（117 ページ）。

前面ディスプレイのエラー表示

メッセージ（アルファベット順）	内容	対策
Access denied	パソコン（サーバー）がアクセスを拒否している。	本機がパソコン（サーバー）のフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください（69 ページ）。
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	iPod にアクセスできない。	iPod の電源を入れ直してください。
	非対応の iPod が接続されている。	対応している iPod をご利用ください（63 ページ）。
	ネットワーク経路に問題が発生している。	ルーターおよびモデムの電源が入っていることを確認してください。
		本機とルーター（またはハブ）が正しく接続されているか確認してください（32 ページ）。
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（23 ページ）。
Internal error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	iPod が認識されていない。	iPod の電源を入れ直してください。
Please wait	本機がネットワーク接続に必要な準備をしている。	メッセージが消えるまでお待ちください。3 分経っても消えない場合は、本機の電源を入れ直してください。
RemID Mismatch	本体とリモコンのリモコン ID が一致していない。	本体またはリモコンのリモコン ID を変更してください（116 ページ）。
Unable to play	USB 機器の曲を再生できない。	再生可能なファイルか確認してください。ほかの機器でも再生できない場合は、曲データが破損している可能性があります。
	iPod の曲を再生できない。	再生可能なファイルか確認してください。iPod 本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。
	パソコン（サーバー）の曲を再生できない。	本機で再生可能なファイルか確認してください。本機が対応している音楽ファイルについては「パソコン（サーバー）の曲を再生する」（69 ページ）をご覧ください。本機が対応しているファイルなのに再生できない場合は、ネットワークに大きな負荷がかかっている可能性があります。
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Version error	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください（117 ページ）。

理想的なスピーカー配置

スピーカーを配置する際の目安としてご利用ください。下図に正確に合わせる必要はありません。



- **FL** フロントスピーカー（左）
- **FR** フロントスピーカー（右）
- **C** センタースピーカー
- **SL** サラウンドスピーカー（左）
- **SR** サラウンドスピーカー（右）
- **FPL** フロントプレゼンススピーカー（左）
- **FPR** フロントプレゼンススピーカー（右）
- **SBL** サラウンドバックスピーカー（左）
- **SBR** サラウンドバックスピーカー（右）
- **SW** サブウーファー

音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマット

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- サンプリング周波数
  1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。
- 量子化ビット数
  音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）

天井にスピーカーを設置できない場合に、天井の反射音を利用して上方からのサラウンド感を創り出すドルビー社が開発したスピーカーです。独自のドライバーや信号処理システムを従来のスピーカーに組み込んだり、独立型のスピーカーとして設置したりすることで、従来のスピーカーの長所は生かしつつ、Dolby Atmos コンテンツの再生時に非常にリアルなサラウンド感を創り出すことを可能にしています。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Atmos

最初に映画館から導入された音響技術で、オブジェクト化された信号を正確かつ自由に定位または移動させて、3 次元的な音響空間を簡単に創り出すことができます。そしてホームシアターにも導入され、画期的なシネマサウンドを家庭でも楽しめるようになりました。視聴者の上方から聞こえる音を活用しているのが大きな特徴です。

Dolby Atmos ストリーム

Dolby Atmos コンテンツは、Dolby Atmos ストリームを含む Dolby Digital Plus、または Dolby TrueHD フォーマットが収録されたブルーレイディスク、ダウンロードファイル、ストリーミングなどにより、Dolby Atmos 対応 AV レシーバー向けに提供されます。Dolby Atmos ストリームには音の位置に関する情報（メタデータ）が含まれており、Dolby Atmos 対応 AV レシーバーで再生する場合は、その情報に基づいてさまざまなホームシアター環境に最適な音響空間を創り出します。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Digital EX

Dolby Digital Surround EX 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。

Dolby Digital Plus

ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

Dolby Pro Logic II

2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby Pro Logic IIx

2 チャンネルで記録された音声だけでなく、マルチチャンネルで記録された音声信号も 7 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Movie モード、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています（Game モードは 2 チャンネル音声のみ対応）。

Dolby Surround

2 ～ 7.1 チャンネルのコンテンツを、使用されるスピーカーシステムに合わせて拡張することができる次世代のサラウンド技術です。インシーリング・スピーカー（埋め込みスピーカー）やドルビーイネーブルドスピーカーなど、Dolby Atmos の再生に適したシステムはもちろん、従来のスピーカーレイアウトでも Dolby Surround を楽しむことができます。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224MHz や 5.6448MHz などのビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS 96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD などで採用されています。

DTS-ES

DTS-ES 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。サラウンドバックチャンネルの信号をサラウンドチャンネル信号に合成して収録するマトリックス方式と、独立した信号を収録するディスクリート方式があります。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

FLAC（Free Lossless Audio Codec）

音声圧縮方式の一つで、ロスレス（可逆型）圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、音質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮することができます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD（ブルーレイディスク）などなどさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

WAV

Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

■ その他

バイアンプ接続

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して駆動することにより、相互影響を排除した、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク（Lipsync）

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補正します。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

HDMI/ 映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号
映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号および Pr/Cr 信号の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。

コンポジットビデオ信号
輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

Deep Color
HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDCP
HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）は、HDMI などのデジタルインターフェースを介したコンテンツの不正なコピーを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI
世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。より詳しい情報は、"http://www.hdmi.org" を参照ください。

x.v.Color
HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ネットワークに関する用語

SSID（Service Set Identifier）
無線ネットワークのアクセスポイントを特定するための名前です。

Wi-Fi
無線電波による電子機器間でのデータ通信やインターネット接続を可能にする技術です。ケーブル接続の煩雑さがないのが利点です。Wi-Fi Alliance の互換性テストをクリアした製品のみに「Wi-Fi Certified」ロゴが付与されます。

WPS（Wi-Fi Protected Setup）
無線ネットワークを簡単に設定するための、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。

ヤマハテクノロジー

サイレントシネマ
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）
Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP 3D
高さ方向の情報も含めた 3 次元の実測音場データを応用し、立体的な 3D 音場を再現します。

バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）
サラウンドスピーカーを使用し、仮想的にサラウンドバックスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドバックスピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の後方奥行き感ある視聴空間をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマ DSP
フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していなくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマフロント
サラウンドスピーカーを前方に配置したときに、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを前方に配置しても、自然なサラウンド再生をお楽しみいただけます。

バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）
センタースピーカーとサラウンドスピーカーを使用し、仮想的にプレゼンススピーカーの音場を再現する技術です。プレゼンススピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の豊かな 3 次元音場空間をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー
携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AAC など）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

本機が対応している機器 / ファイル形式

■ 対応機器

❑ *Bluetooth* 機器

- 本機は A2DP プロファイルおよび AVRCP プロファイルに対応しています。
- *Bluetooth* 機器によっては、本機と接続できない場合や一部の機能に対応していない場合があります。

❑ USB 機器

- 本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器（フラッシュメモリー、携帯音楽プレーヤーなど）に対応しています。
- USB マスストレージクラス以外の機器（USB チャージャー、USB ハブなど）、パソコン、カードリーダー、外付けハードディスクを接続しないでください。
- 暗号化機能がある USB 機器は使用できません。
- USB 機器のメーカーや種類により、USB 機器が本機に認識されない場合や一部の機能が使えない場合があります。

❑ iPod

対応 iPod（2015 年 5 月現在）

Made for.

iPhone 6 Plus、iPhone 6、iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPhone 4s、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G

iPod touch (2nd, 3rd, 4th and 5th generation)

iPod nano (2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th and 7th generation)

- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより、iPod が本機に認識されない場合や一部の機能が使えない場合があります。

❑ AirPlay

- AirPlay は iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone、iPad、iPod touch、OS X Mountain Lion 以降を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降を搭載した Mac と PC において動作します（2015 年 5 月現在）。

■ 対応ファイル形式

❑ USB/ パソコン（NAS）

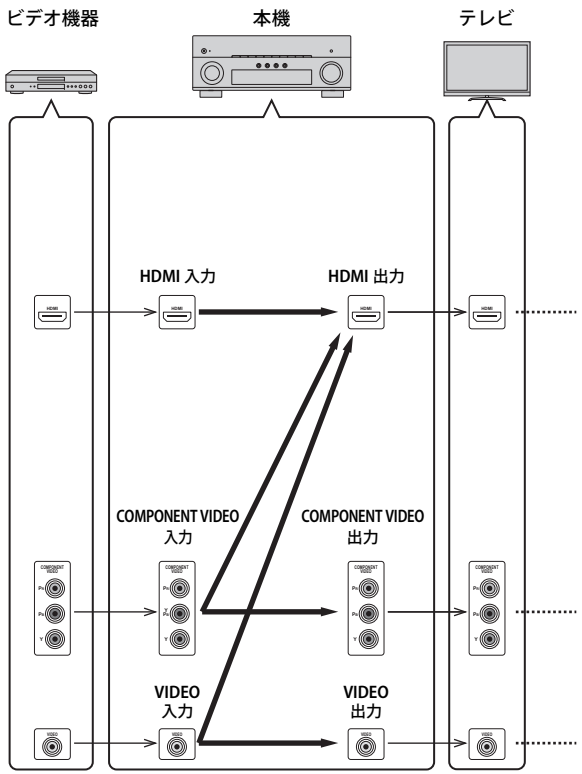
ファイル	サンプリング周波数（kHz）	量子化ビット数（bit）	ビットレート（kbps）	チャンネル数	ギャップレス再生対応
WAV *	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192	16/24	—	2	✔
MP3	32/44.1/48	—	8 ～ 320	2	—
WMA	32/44.1/48	—	8 ～ 320	2	—
MPEG-4 AAC	32/44.1/48	—	8 ～ 320	2	—
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192	16/24	—	2	✔
ALAC	32/44.1/48/88.2/96	16/24	—	2	✔
AIFF	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192	16/24	—	2	✔
DSD	2.8MHz/5.6MHz	1	—	2	—

* リニア PCM フォーマットのみ

- パソコン（サーバー）の FLAC ファイルを再生するには、パソコン（サーバー）にインストールされているサーバーソフトが、DLNA を使った FLAC ファイルの共有に対応している必要があります。
- DRM（デジタル著作権管理）により保護されたファイルは再生できません。

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。



■ 映像信号変換表

• 設定メニューの「ビデオモード」（105 ページ）で、出力する HDMI 映像信号の解像度やアスペクト比を設定できます。

		HDMI 出力						COMPONENT VIDEO 出力				VIDEO 出力
	解像度	480i	480p	720p	1080i	1080p	4K	480i	480p	720p	1080i	480i
HDMI 入力	480i	○	○	○	○	○	○					
	480p		○	○	○	○	○					
	720p			○	○	○	○					
	1080i			○	○	○	○					
	1080p/ 50, 60Hz			○	○	○	○					
	1080p/24Hz					○	○					
	4K						○					
COMPONENT VIDEO 入力	480i	○	○	○	○	○	○	○				
	480p								○			
	720p									○		
	1080i										○	
VIDEO 入力	480i	○	○	○	○	○	○					○

○：出力可

HDMI について

HDMI コントロール

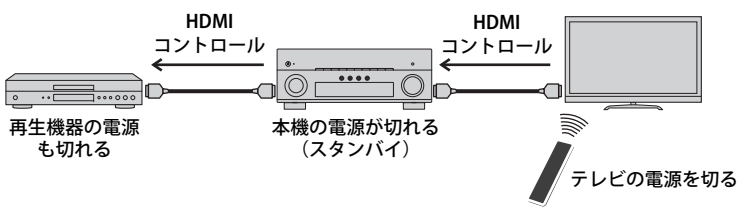
HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。

接続方法については、「テレビを接続する」（25 ページ）および「ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）」（27 ページ）をご覧ください。

テレビのリモコン操作による連動機能

- 電源スタンバイ
- 音量調節および消音
- テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え（映像をテレビに出力）
- 音声出力機器の切り替え（本機またはテレビ）

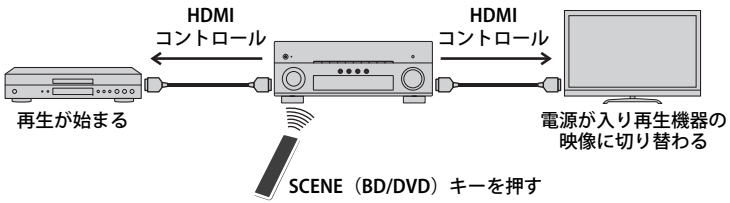
(動作イメージ)



本機のリモコン操作による連動機能

- シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入（53 ページ）
- テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示（ON SCREEN キー操作時）
- 外部機器操作キーで再生機器（再生機能およびメニュー）を操作

(動作イメージ)



HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。

テレビの設定や操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

- **HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。**
- **HDMI コントロールを使うには、テレビを HDMI OUT1 端子に接続してください。**

1 **本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**

2 **本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。**

本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」（106 ページ）を「オン」（初期値）に設定してから、関連項目（TV 音声入力、ARC、スタンバイ連動）を設定します。

3 **テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。**

4 **本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。**

5 **テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。**

6 **以下の点を確認する。**

本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 5」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

7 **テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。**

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されていると正しく機能しないことがあります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
  http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

オーディオリターンチャンネル（ARC）

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

HDMI コントロール（135 ページ）の設定をしてから、以下を確認してください。

1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。

2 本機の入力が自動的に「AV4」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されることを確認する。

テレビの音声が出力されない場合は、以下を確認してください。

– 設定メニューの「ARC」（106 ページ）が「オン」になっている。

– HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。

テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」（106 ページ）を「オフ」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください（25 ページ）。
- ARC 対応の HDMI ケーブルをお使いください。

- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AV4」が設定されています。AV4 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」（106 ページ）でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（53 ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定もあわせて変更してください。

本機が対応している HDMI 信号

音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32kHz ～ 192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32kHz ～ 192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイディスク）、HD DVD
DSD	2ch ～ 5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	BD（ブルーレイディスク）、HD DVD

映像信号

以下の解像度に対応しています。

- VGA
- 480i/60Hz
- 480p/60Hz
- 576i/50Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、30 Hz、25 Hz、24Hz
- 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

- 一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像 / 音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。
- HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

主な仕様

入力端子

- アナログ音声
  ステレオ ×6（AV5 ～ 6、AUDIO1 ～ 2、PHONO、V-AUX）
- デジタル音声（対応 fs：32kHz ～ 96kHz）
  光 ×2（AV1、AV4）
  同軸 ×2（AV2、AV3）
- 映像
  コンポジットビデオ ×5（AV3 ～ 6、V-AUX）
  コンポーネントビデオ ×2（AV1 ～ 2）
- HDMI 入力
  HDMI×8（HDMI1 ～ 7、V-AUX）
- その他
  USB×1（USB2.0）
  NETWORK×1（100Base-TX/10Base-T）

出力端子

- アナログ音声
  スピーカー出力 ×9
  （フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右、
  サラウンドバック左 / 右 *1、エクストラスピーカー左 / 右 *2）
  *1 割り当て変更可能 [SURROUND BACK、BI-AMP（フロント左 / 右）]
  *2 割り当て変更可能 [ZONE2、PRESENCE]
  PRE OUT×7（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右、
  サラウンドバック左 / 右）
  サブウーファー出力 ×2（SUBWOOFER1 ～ 2、モノラル）
  ZONE2 OUT×1
  ヘッドホン ×1
- 映像
  MONITOR OUT
  - コンポジットビデオ ×1
  - コンポーネントビデオ ×1
- HDMI 出力
  HDMI OUT×2（HDMI OUT1 ～ 2）

その他の端子

- YPAO MIC×1
- REMOTE IN×1
- REMOTE OUT×1
- TRIGGER OUT×1
- RS-232C×1

HDMI

- HDMI 機能：Deep Color、“x.v.Color”、Auto Lips Sync、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D、4K Ultra HD
- 映像フォーマット
  - VGA
  - 480i/60Hz
  - 480p/60Hz
  - 576i/50Hz
  - 576p/50Hz
  - 720p/60Hz、50Hz
  - 1080i/60Hz、50Hz
  - 1080p/60Hz、50Hz、30 Hz、25 Hz、24Hz
  - 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 音声フォーマット
  - Dolby Atmos
  - Dolby TrueHD
  - Dolby Digital Plus
  - Dolby Digital
  - DTS-HD Master Audio
  - DTS-HD High Resolution Audio
  - DTS Express
  - DTS
  - DSD 2 ～ 6 チャンネル
  - PCM 2 ～ 8 チャンネル（Max 192kHz/24bit）
  - AAC
- 著作権保護：HDCP 準拠
  （HDMI 1 ～ 3：HDCP 2.2 準拠）
- リンク機能：CEC 対応

チューナー

- アナログチューナー
  FM/AM×1（TUNER）

USB

- iPod、USB マスストレージクラス
- 最大供給電流：1.0A

Bluetooth

- 受信機能
  ソース機器（例：スマートフォン、タブレット）から AVR
- ソース機器からの再生 / 停止操作に対応
- 規格..... *Bluetooth* Ver. 2.1+EDR
- 対応プロファイル .....A2DP、AVRCP
- 対応コーデック .....SBC、AAC
- 対応コンテンツ保護 .....SCMS-T 方式
- 無線出力.....*Bluetooth* Class 2
- 最大通信距離 10m

ネットワーク

- PC クライアント機能
- DLNA ver.1.5 対応
- AirPlay 対応
- インターネットラジオ
- Wi-Fi 機能
  - WPS (Wi-Fi Protected Setup) プッシュボタン式/PIN コード式
  - 無線接続および USB 接続による iOS デバイスとの共有
  - モバイル機器のダイレクト接続
  - 対応セキュリティー：WEP、WPA2-PSK（AES）、Mixed Mode
  - 無線周波数：2.4GHz
  - 対応規格：IEEE 802.11 b/g/n

対応デコードフォーマット

- デコードフォーマット
  - Dolby Atmos
  - Dolby True HD、Dolby Digital Plus
  - Dolby Digital、Dolby Digital EX
  - DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution、DTS Express
  - DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1、DTS 96/24
  - DTS Digital Surround
  - AAC
- ポストデコードフォーマット
  - Dolby Pro Logic
  - Dolby Pro Logic II Music、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic II Game
  - Dolby Pro Logic IIx Music、Dolby Pro Logic IIx Movie、Dolby Pro Logic IIx Game
  - Dolby Surround
  - DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

- 定格出力（2ch 駆動）
  （20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、6Ω）
  フロント左 / 右 ..... 100W+100W
  （1kHz、0.9%THD、6Ω）
  フロント左 / 右 ..... 110W+110W
- 定格出力（1ch 駆動）
  （1kHz、0.9%THD、6Ω）
  フロント左 / 右 130W/ch
  センター 130W/ch
  サラウンド左 / 右 130W/ch
  サラウンドバック左 / 右 130W/ch
- 実用最大出力（非同期駆動）
  （JEITA、1kHz、10%THD、6Ω）
  フロント左 / 右 160W/ch
  センター 160W/ch
  サラウンド左 / 右 160W/ch
  サラウンドバック左 / 右 160W/ch
  （JEITA、1kHz、10%THD、8Ω）
  フロント左 / 右 160W/ch
  センター 160W/ch
  サラウンド左 / 右 160W/ch
  サラウンドバック左 / 右 160W/ch
- ダイナミックパワー
  フロント左 / 右（8/6/4/2Ω）..... 130/150/195/230W
- ダンピングファクタ
  フロント左 / 右、20Hz ～ 20kHz、8Ω ..... 100 以上
- 入力感度 / 入力インピーダンス
  PHONO（1kHz、100W/8Ω）..... 3.5mV/47kΩ
  AV5 他（1kHz、100W/8Ω）..... 200mV/47kΩ
- 最大許容入力
  PHONO（1kHz、0.1%THD）..... 60mV
  AV5 他（1kHz、0.5%THD、Effect On）..... 2.3V
- 出力電圧 / 出力インピーダンス
  PRE OUT 1V/1.2kΩ
  SUBWOOFER 1V/1.2kΩ
  ZONE2 OUT 200mV/1.2kΩ
- ヘッドホンインピーダンス ..... 16Ω 以上
- 周波数特性
  AV5 他→フロント（10Hz ～ 100kHz）..... +0/–3dB
- RIAA 偏差
  PHONO ..... 0±0.5dB
- 全高調波歪率
  PHONO →スピーカーアウト（フロント）（20Hz ～ 20kHz、1V）
  ..... 0.02% 以下
  AV5他→スピーカーアウト（フロント）（20Hz～20kHz、50W/8Ω）
  ..... 0.06% 以下
- S/N 比（IHF-A ネットワーク）
  PHONO（入力ショート、35mV、スピーカーアウト［フロント］）
  ..... 96dB 以上
  AV5 他（Pure Direct、入力ショート、1kΩ、スピーカーアウト）
  ..... 110dB 以上
- 残留ノイズ（IHF ネットワーク）
  フロント左 / 右（スピーカーアウト）..... 150μV 以下
- チャンネルセパレーション
  PHONO（入力ショート、1kHz/10kHz）..... 60dB/55dB 以上
  AV5 他（入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz）
  ..... 70dB/50dB 以上
- 音量可変範囲 .... MUTE、–80dB ～ +16.5dB（0.5dB ステップ）
- トーンコントロール特性
  BASS（可変幅）..... ±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
  BASS（ターンオーバー周波数）..... 350Hz
  TREBLE（可変幅）..... ±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
  TREBLE（ターンオーバー周波数）..... 3.5kHz
- フィルター特性（fc ＝ 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）
  H.P.F.（フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック：小）
  ..... 12dB/oct.
  L.P.F.（サブウーファー）..... 24dB/oct.
- Optical 端子、Coaxial 端子対応 fs ..... 32kHz ～ 96kHz

ビデオ部

- ビデオ信号方式 ..... NTSC/PAL/SECAM
- 信号レベル
  コンポジットビデオ 1Vp-p/75Ω
  コンポーネントビデオ
  Y 1Vp-p/75Ω
  P_B/P_R 0.7Vp-p/75Ω
- ビデオ最大許容入力 ..... 1.5Vp-p 以上
- S/N 比 ..... 50dB 以上
- モニターアウト周波数帯域
  コンポーネントビデオ ..... 5Hz ～ 60MHz、–3dB

FM チューナー部

- 受信周波数範囲 ..... 76.0MHz ～ 94.9MHz
  （FM 補完放送対応）
- 50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
  モノ ..... 3μV（20.8dBf）
- S/N 比（IHF）
  モノ / ステレオ 65dB/64dB
- 歪率（1kHz）
  モノ / ステレオ 0.5%/0.6%
- アンテナ入力 ..... 75Ω、アンバランス

AM チューナー部

- 受信周波数範囲 ..... 531kHz ～ 1611kHz

総合

- 電源電圧 ..... AC 100V 50/60Hz
- 消費電力 360W
- 待機時消費電力
  HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ /
  ネットワークスタンバイオフ 0.1W
  HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン（無信号時）/
  ネットワークスタンバイオフ 1.3W
  HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ /
  ネットワークスタンバイオン /Bluetooth スタンバイオフ
  有線 2.4W
  無線（Wi-Fi）..... 2.4W
  ワイヤレスダイレクト 2.5W
  HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ /
  ネットワークスタンバイオン（有線）/Bluetoothスタンバイオン
  ..... 2.3W
  HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン（無信号時）/
  ネットワークスタンバイオン（ワイヤレスダイレクト）/
  Bluetooth スタンバイオン 3.1W
- 寸法（幅 × 高さ × 奥行き）..... 435×171×382mm
  （脚部、突起物を含む）
- 参考寸法（幅 × 高さ × 奥行き）（無線アンテナ直立時）
  ..... 435×234×382mm
- 質量 10.6kg

※ 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には：
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用する。
本機が発生する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

設置



医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠注意

電源 / 電源コード



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
本体の ⏻ ボタンでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示（プラス＋とマイナスー）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を本体から抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



必ず 2 人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

***Bluetooth* について**

- ***Bluetooth*** **とは、免許なしで使うことのできる 2.4GHz の周波数帯を使った短距離無線通信の規格です。約 10m までの** ***Bluetooth*** **に対応している機器どうしで通信することができます。**

***Bluetooth* 通信について**

- ***Bluetooth*** **機器が使用する 2.4GHz の周波数帯は、ほかのさまざまな機器でも使われています。これらの機器からの干渉を避けるため、** ***Bluetooth*** **機器の通信速度が遅くなったり、通信距離が短くなったりする場合があります。**
- ***Bluetooth*** **の通信速度は、** ***Bluetooth*** **機器間の距離、障害物、電波の状態、機器の種類などにより異なります。**

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 **この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。**

2 **万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。**

本機の無線方式について

(Wi-Fi)



「2.4」..... 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「DS/OF」..... 変調方式は DS-SS および OFDM 方式
「4」.....想定干渉距離が 40 m 以内

■■■ ■■■ ■■■ .....
全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

(*Bluetooth*)



「2.4」..... 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」.....変調方式は周波数ホッピング（FH-SS）
「1」.....想定干渉距離が 10 m 以内

■■■■■■■■■■■ .....
全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けています。

索引

記号

お知らせ（!）マーク　115、118
設定保護（🔒）アイコン　112

数字

2.1 チャンネルシステム　19
2ch Stereo（音場プログラム）　56
4K Ultra HD　136
5.1 チャンネルシステム　18
7.1+2 チャンネルシステム　17
7.1 チャンネルシステム　17
7ch Stereo（音場プログラム）　56

A

AirPlay　75
AM ラジオ　59
ARC　106
ARC（オーディオリターンチャンネル）　25、136
Audio Decoder（前面ディスプレイ表示）　85

B

Bluetooth　62

C

CINEMA DSP　55

D

Decoder Off（前面ディスプレイ表示）　85
DMC（デジタルメディアコントローラー）　92
Dolby Atmos　54、105

F

FM ラジオ　59

H

HDCP　27、122、123
HDMI 4K 信号のフォーマット設定　117
HDMI 映像出力の制限解除　116
HDMI ケーブル　24
HDMI コントロール　25、93、106、135
HDMI 出力端子からの音声出力　107
HDMI 出力端子の切り替え　52

I

iPod コンテンツの再生　63
iPod コンテンツの再生（AirPlay）　75

L

LFE（低域効果音）　131

M

MAC アドレス　108、114
MUTE（ミュート）　14

N

NAS（ネットワーク接続ストレージ）　32

P

PEQ（パラメトリック EQ）　102
PURE DIRECT（ピュアダイレクト）　58

R

RemID Mismatch（エラー表示）　128

S

SCENE（シーン）　53、92

U

USB 機器の曲の再生　66

V

VPS（バーチャルプレゼンススピーカー）　17、55
VSBS
（バーチャルサラウンドバックスピーカー）　17、55、104

Y

YPAO (Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)　36

あ

アダプティブ DRC　87
アンテナ　31、32

い

イコライザー　102
インターネットラジオ放送　72

う

ウェブコントロール　82

え

映像信号の流れ　134
エクストラベース　88
エコ設定　112
エラー表示（前面ディスプレイ）　128

お

オーディオリターンチャンネル（ARC）　25、136
オートプリセット　61
オプションメニュー　86
音場プログラム　55、56
音量差の補正（入力レベル補正）　89
音量の上限　104、110
音量の初期値　104、110
音量連動　92

か

外部パワーアンプ　33
壁紙設定　111

く

クロスオーバー　100、101
クロスオーバー周波数　36

け

言語設定　113

さ

サブウーファー　23、88、101
サラウンドデコーダー　57、96

し

シーン機能　53、92
システム設定を変更する
（アドバンスドセットアップメニュー）　115
自動スタンバイ　112
シネマ DSP　55
ショートカット
（お気に入りのコンテンツを登録する）　81
消音　52、80

す

スタンバイ連動　106
ストレートデコード　57
スピーカーインピーダンス　20、115、116
スリープタイマー　14、80

せ

設定の初期化　117
設定保護　112
設定メニュー　97
セリフ調整　88
前面ディスプレイ（インジケーター）　11
前面ディスプレイの明るさ設定（ディマー）　111
前面ディスプレイの表示を切り替える　85

た

ダイアローグ　88、114
ダイナミックレンジ　104
多重モノラル音声　89

て

ディマー（本体表示器）　111
デコーダー名（前面ディスプレイ表示）　85
デジタルメディアコントローラー（DMC）　92
テストトーン　103

と

トーンコントロール　87
同軸デジタルケーブル　24
ドルビーイネーブルドスピーカー　20

に

入力端子（映像 / 音声）の組み合わせ変更　28
入力名の変更　91

ね

ネットワークスタンバイ　108
ネットワーク名　109、114

は

バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）　17
バーチャルシネマフロント　18、56
バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）　17
パーティーモード　80、110
バイアンプ　23
パソコンの曲の再生　69
バナナプラグ　23
パラメトリック EQ　102

ひ

光デジタルケーブル　24
ピュアダイレクト　58
表示の切り替え（前面ディスプレイ）　85

ふ

ファームウェア　117、118
複数の部屋での再生（マルチゾーン）　77
ブックマーク（インターネットラジオ）　74
プリセット（FM/AM ラジオ）　59
フロント 5.1 チャンネルシステム　18

へ

ヘッドホン　56

ほ

本機が対応している HDMI 信号　136

ま

マルチゾーン　77、110、115

み

ミュージックエンハンサー　58

も

モノラル受信（FM ラジオ）　59

ら

ラジオ局の登録（プリセット）　59

り

リップシンク　103、131
リモコン ID の変更　116

れ

レコードプレーヤー　30

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053)460-3409

受付:月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053)460-4830

受付:月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03)5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06)6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付:月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

＊ お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

＊ 名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社

© 2015 Yamaha Corporation Printed in Malaysia ZQ31260